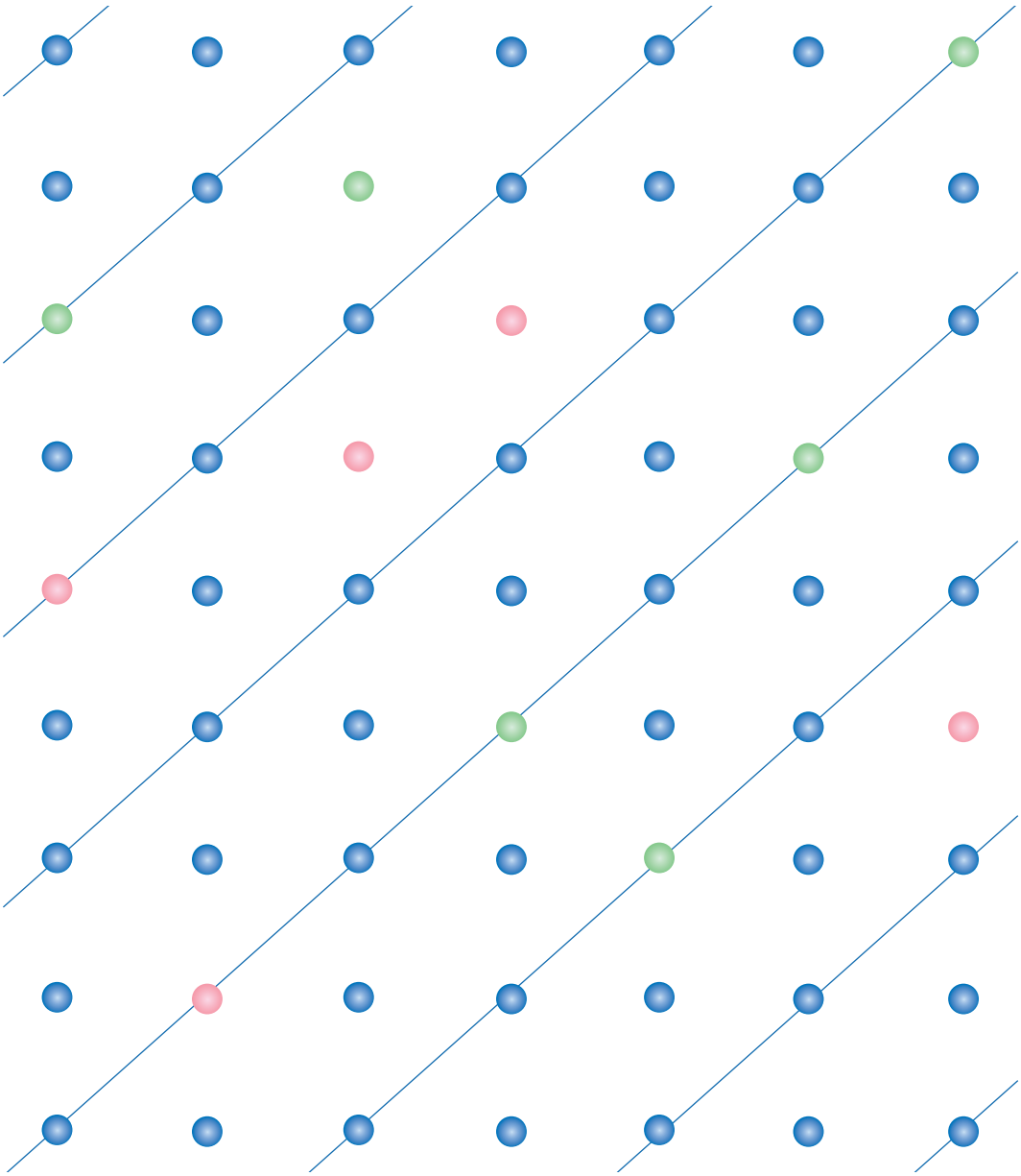
シラバス

2021年度

リハビリテーション学科

作業療法専攻



平成医療短期大学

Heisei College of Health Sciences

建学の精神

「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

教育目的

1　全学の目的

教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。

2　看護学科

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ看護師を養成する。

①科学的根拠に裏づけされた看護領域の専門知識、技術及び実践力を有する看護師
②高度化、多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を有する看護師
③生命の尊重と人間に対する全人的な深い理解に基づく対象者への看護の実践及び多種職と連携・協働しながら看護を提供できる良好な人間関係を築く能力と態度を有する看護師
④生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志をもつ看護師

3　リハビリテーション学科理学療法専攻

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ理学療法士を養成する。

①医学の基礎知識、理学療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する理学療法士
②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する理学療法士
③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する理学療法士

4　リハビリテーション学科作業療法専攻

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ作業療法士を養成する。

①医学の基礎知識、作業療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する作業療法士
②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する作業療法士
③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する作業療法士

5　リハビリテーション学科視機能療法専攻

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ視能訓練士を養成する。

①科学的根拠に裏づけされた視機能療法領域の専門知識・技術及び実践力を有する視能訓練士
②対象者や医療・保健・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を築くために必要なコミュニケーション能力と態度を有する視能訓練士
③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する視能訓練士

学習成果

1　全学

教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得

2　看護学科

(1)　看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得
(2)　看護の専門基礎知識の修得
(3)　看護の専門知識・技術の修得
(4)　看護の対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に対象者に応じた看護を行う実践力の修得
(5)　看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

3　リハビリテーション学科理学療法専攻

(1)　豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
(2)　医学の基礎的知識、理学療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得
(3)　地域の保健・医療システムにおいて理学療法士の役割をはたす能力の修得
(4)　対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力の修得
(5)　課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

4　リハビリテーション学科作業療法専攻

(1)　豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
(2)　医学の基礎的知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得
(3)　地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得
(4)　対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得
(5)　課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

5　リハビリテーション学科視機能療法専攻

(1)　視能訓練士として全人的医療を実践し、社会に貢献するために必要な人間性と教養、責任感と倫理観、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
(2)　視機能療法学の土台となる人間科学領域の知識と技術の修得
(3)　視機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得
(4)　視機能療法学の各分野における発展的な知識と技術、実践力の修得
(5)　チーム医療における視能訓練士の役割の理解と実践力の修得
(6)　視機能療法に関わる課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1　全学方針

科学と人間愛を教育の根本として、一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を修得し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを教育目的として、次の能力を身につけるよう教育課程を編成する。この教育課程における所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し学位を授与する。

(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。
(2) 学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉等に貢献できる力を身につける。
(3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学習を通して、人間、保健医療福祉問題等を科学的、論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、 解決のための知識、技術等を身につける。

2　看護学科

看護学科の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

(1) 豊かな人間性と教養を身につけ、看護師としての責任感や倫理観など、医療人として求められる能力と態度を身につけている。
(2) 看護師として必要な基礎的知識・技術・態度を身につけ、対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践できる。
(3) 看護の対象者及び医療チーム間における円滑なコミュニケーション能力を身につけ、互いを尊重した人間関係を構築できる。
(4) 生涯にわたり向上心と探究心をもち続け、看護専門職として主体的に研鑽できる。

3　リハビリテーション学科理学療法専攻

リハビリテーション学科理学療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

(1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、理学療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。
(2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた理学療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。
(3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける理学療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。
(4) 学術研究活動を通じて理学療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、理学療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。

4　リハビリテーション学科作業療法専攻

リハビリテーション学科作業療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

(1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、作業療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。
(2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた作業療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。
(3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。

(4) 学術研究活動を通じて作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、作業療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。

5　リハビリテーション学科視機能療法専攻

リハビリテーション学科視機能療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

(1) 視能訓練士として求められる社会的責任感、良好な人間関係を築くコミュニケーション能力、倫理観などの教養を身につけている。
(2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた視機能療法を実践するために必要な専門知識並びに技術を身につけている。
(3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。
(4) 地域の保健・医療システムにおける視能訓練士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。
(5) 視機能療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、視機能療法の質の向上のため、生涯にわたり探求心をもち続け、学術研究活動を推進し、主体的・能動的に研鑽できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1　全学方針

人間愛と社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を修得し、医療技術者としての専門知識、実践力及び課題解決能力を身につける。

(1) 社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。
(2) 専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体、疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。

2　看護学科

(1) 豊かな人間性と教養及びコミュニケーション能力を身につけ対象者を全人的に深く理解するため、人間と科学・人間と社会・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
(2) 看護の専門基礎知識を修得するため、人体の理解・疾病の成り立ちと回復の促進・社会の構造と環境の専門基礎科目を配置する。
(3) 看護の領域ごとに、健康生活を支えるための看護の原理と基礎・健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動の専門科目を配置し、専門知識・技術実践力を段階的に高めるように配置する。
(4) 看護の領域ごとに、看護職としての科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を段階的に配置する。
(5) 看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、それを生涯に渡り高める態度とチーム医療・多職種連携における看護の役割を果たすために統合科目を配置する。

3　リハビリテーション学科理学療法専攻

(1) 地域社会に貢献するために理学療法士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。

(2) 身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上で運動や物理的手段を用いて疾病や障害の予防、そして疾病に伴う障害から生じる身体機能及び基本動作能力の回復・改善を促す理学療法の専門知識と技術を身につけるため、理学療法専門科目を配置する。
(3) 地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける理学療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人々が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と理学療法専門科目を配置する。
(4) 臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力を身につけるため、理学療法専門科目（臨床実習）を配置する。
(5) 科学者としての目と心を育み、理学療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と理学療法専門科目を配置する。

4　リハビリテーション学科作業療法専攻
(1) 地域社会に貢献するために作業療法士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
(2) 身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上でひとが営んでいる作業活動を用いて疾病や障害を予防すること、そして疾病に伴う障害から生じる日常生活動作ならびに社会適応能力の回復・改善を促すための科学的根拠に基づいた作業療法の知識と技術を身につけるため、作業療法専門科目を配置する。
(3) 地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人々が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。
(4) 臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力を身につけるため、作業療法専門科目（臨床実習）を配置する。
(5) 科学者としての目と心を育み、作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。

5　リハビリテーション学科視機能療法専攻
(1) 地域社会に貢献するために視能訓練士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
(2) 視機能療法学の基盤である人間科学を修得させる科目として、人体の構造と機能及び心身の発達、疾病の成り立ち及び回復過程の促進、視覚機能の基礎と検査機器及び保健医療福祉と視機能障害のリハビリテーションの理念に関する専門基礎科目を配置する。
(3) 視機能療法学の確かな専門知識・技術を修得させる科目として、基礎的視機能療法学の科目を配置する。
(4) 視機能療法学の確かな専門知識・技術を臨床現場において適切に実践し得る能力を身につけるために、視機能療法学領域の各系統における発展的科目と分野横断的科目を配置する。
(5) 対象者に応じた視機能療法の実践及びチーム医療の在り方を了知させるために、臨床実習を配置する。
(6) 視機能療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、医療情報と実験研究に関する科目を配置する。

履 修 要 領

リハビリテーション学科

作業療法専攻

履 修 要 領

１．教育課程の編成の基本的方針

本学は、知識、技能両面において教養ある医療技術者を育成すると共に、多様化する社会に順応できるよう、人間、社会、文化、語学といった観点における学問を学び、また、医療に携わるものとして不可欠なコミュニケーション能力や、社会人としての基盤構築のための科目を編成しています。

さらに、各専門分野の科目についても学術的に編成した上で細分化し、それぞれが体系的な学問として学ぶことができる配置となっています。

これにより、一人の社会人として、そして医療に携わるものとしての資質と技術を磨き、専門性に富んだ医療に適応できる医療技術者の育成を目指しています。

本学の教育課程は「総合教育科目」と「専門教育科目」に大別し、「総合教育科目」は「教養教育科目」と「基礎教育科目」に、「専門教育科目」は「専門基礎科目」「専門科目」「統合科目」に区分して、科目群による教育が有機的かつ系統的に行われるように配慮されています。

２．「総合教育科目」の考え方

「総合教育科目」は、大半の科目について両学科学生が合同で受講できるよう科目立てして、配慮しています。職種は違うが同じ医療人との観点から捉えた場合、両職種に共通した知識として蓄えたい分野があることから、それらに関する科目を配置しています。

まず「教養教育科目」には、現代社会を取り巻く様々な要素について考察する力を養うために、また看護師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士として、保健、医療、福祉の分野で貢献するための基礎となる科目を配置しています。医療技術者として活躍するためには、社会の多様な事象や考え方に対して理解を深め、受け止めつつ自らの考えを確立し、なおかつ相手の立場に立って考えることが出来る感性と、洞察力が求められます。よってこれらに関する科目を配置し、人間を科学と社会に関連付けながら学べるように編成しています。

次に、「基礎教育科目」には、「専門教育科目」を学び、理解を深めるための基盤となる社会の仕組みを理解することや、読み書き、思考力の形成、コミュニケーション能力の育成に主眼を置いた科目群を配置しています。

３．「専門教育科目」の考え方

「専門教育科目」は、両学科がそれぞれ独自性をもった科目群で構成しています。

リハビリテーション学科の各専攻に配置した「専門基礎科目」には、理学療法士、作業療法士、視能訓練士としての基礎的知識を得る上で、必要不可欠である基礎医学に関する科目群を配置しています。

「専門科目」には、医療技術に精通した理学療法士、作業療法士、視能訓練士を育成するために必要である科目群を系統立てて配置しています。これらを学ぶ中で、教育目標としている施設や地域を問わず医療技術者としての高いコミュニケーション能力と倫理的判断力、豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成するために、教員との関わりが多く持てる演習を多く取り入れています。

本学の教育課程及び授業科目は、次表のとおりです。

＜リハビリテーション学科　作業療法専攻＞　2019年度以前入学生

区分			授業科目	単位数 必修	単位数 選択	卒業要件
総合教育科目	教養教育科目	人間と科学	生物学	2		2
			物理学		2	2
			化学		2	
			情報科学		2	
			人間工学		2	
			環境と人間		2	
		人間と社会	社会学		2	2
			人間関係論		2	
			ボランティア論		2	
			哲学		2	2
			教育学		2	
			心理学		2	
			生命倫理学	2		2
	基礎教育科目	コミュニケーション	基礎演習	1		3
			文章表現法	1		
			コミュニケーション学	1		
		外国語	英語Ⅰ(教養英語)	1		1
			英語Ⅱ(日常英会話)		1	1
			英語Ⅲ(専門英語)		1	
			ドイツ語		1	
			中国語		1	
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造	解剖学Ⅰ(骨・筋肉系)	1		5
			解剖学Ⅱ(内臓系)	1		
			解剖学Ⅲ(神経系)	1		
			解剖学演習(体表解剖・骨)	1		
			解剖学演習(体表解剖・筋)	1		
		人体の機能	生理学Ⅰ(動物的機能)	1		6
			生理学Ⅱ(植物的機能)	1		
			生理学演習	1		
			運動学総論	1		
			臨床運動学	1		
			運動学演習	1		
		心身の発達	人間発達学	1		1
		疾病の成り立ち	病理学概論	2		9
			内科学	1		
			整形外科学	1		
			神経内科学	1		
			精神医学	2		
			小児科学	2		
		障害の成り立ち	リハビリテーション医学	2		3
			老年医学	1		
		保健・医療・福祉の連携	保健医療論	1		3
			社会福祉学	1		
			医療安全管理論	1		
	専門科目	基礎作業療法学	作業療法総論	1		7
			作業療法研究方法論	1		
			基礎作業学	1		
			基礎作業学実習Ⅰ(和紙工芸・七宝・木工)	1		
			基礎作業学実習Ⅱ(陶芸・革細工・手芸)	1		
			卒業研究	2		
		作業療法評価学	作業療法評価学概論	1		5
			作業療法評価学Ⅰ(身体機能)	1		
			作業療法評価学Ⅱ(精神機能、活動、環境)	1		
			作業療法評価学演習Ⅰ(身体機能)	1		
			作業療法評価学演習Ⅱ(精神機能、活動、環境)	1		
		作業治療学	作業療法治療技術理論	1		1
			認知症予防論		1	1
			作業行動理論		1	
			精神障害治療論		1	
			ニューロリハビリテーション論		1	
			整形外科系障害治療論		1	
			日常生活・環境アセスメント論		1	
			老年期障害学	1		18
			中枢神経障害学	1		
			高次脳機能障害学	1		
			整形外科系障害学	1		
			内部機能障害学	1		
			義肢装具学	1		
			発達機能障害学Ⅰ(総論)	1		
			発達機能障害学Ⅱ(各論)	1		
			日常生活活動学	1		
			生活技術学演習	1		
			応用生活技術学演習	1		
			精神障害学Ⅰ(総論)	1		
			精神障害学Ⅱ(各論)	1		
			作業療法学総合演習Ⅰ(基礎)	1		
			作業療法学総合演習Ⅱ(専門)	1		
			作業療法総合セミナーⅠ(評価)	1		
			作業療法総合セミナーⅡ(評価と介入①)	1		
			作業療法総合セミナーⅢ(評価と介入②)	1		
		地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ(制度・支援・連携)	1		4
			地域作業療法学Ⅱ(実践・就労支援)	1		
			生活環境・福祉機器学	2		
		臨床実習	臨床実習Ⅰ(基礎)	1		20
			評価実習前セミナー	1		
			臨床実習Ⅱ(評価)	4		
			臨床実習Ⅲ(総合前期)	7		
			臨床実習Ⅳ(総合後期)	7		
合計						98

＜リハビリテーション学科　作業療法専攻＞　2020年度以降入学生

区分			授業科目	単位数 必修	単位数 選択	卒業要件
総合教育科目	教養教育科目	人間と科学	生物学	2		2
			物理学		2	2
			化学		2	
			情報科学		2	
			人間工学		2	
			環境と人間		2	
		人間と社会	社会学		2	2
			人間関係論		2	
			ボランティア論		2	
			哲学		2	2
			教育学		2	
			心理学		2	
			生命倫理学	2		2
	基礎教育科目	コミュニケーション	基礎演習	1		3
			文章表現法	1		
			コミュニケーション学	1		
		外国語	英語Ⅰ(教養英語)	1		1
			英語Ⅱ(日常英会話)		1	1
			英語Ⅲ(専門英語)		1	
			ドイツ語		1	
			中国語		1	
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造	解剖学Ⅰ(骨・筋肉系)	1		5
			解剖学Ⅱ(内臓系)	1		
			解剖学Ⅲ(神経系)	1		
			解剖学演習(体表解剖　骨)	1		
			解剖学演習(体表解剖　筋)	1		
		人体の機能	生理学Ⅰ(動物的機能)	1		6
			生理学Ⅱ(植物的機能)	1		
			生理学演習	1		
			運動学総論	1		
			臨床運動学	1		
			運動学演習	1		
		心身の発達	人間発達学	1		1
		疾病の成り立ち	病理学概論	2		9
			内科学	1		
			整形外科学	1		
			神経内科学	1		
			精神医学	2		
			小児科学	2		
		障害の成り立ち	リハビリテーション医学	2		3
			老年医学	1		
		回復過程の促進	公衆衛生学	1		5
			画像診断学	1		
			リハビリテーション栄養学	1		
			薬理学	1		
			医療安全管理論	1		
		保健・医療・福祉の連携	保健医療論	1		4
			社会福祉学	1		
			多職種連携演習 (IPE)	2		
	専門科目	基礎作業療法学	作業療法総論	1		6
			基礎作業療法学	1		
			基礎作業療法学実習	1		
			作業療法研究方法論	1		
			卒業研究	2		
		作業療法管理学	作業療法管理学Ⅰ	1		2
			作業療法管理学Ⅱ	1		
		作業療法評価学	作業療法評価学概論	1		5
			作業療法評価学Ⅰ(身体機能)	1		
			作業療法評価学Ⅱ(精神・認知・医用画像)	1		
			作業療法評価学演習Ⅰ(身体機能)	1		
			作業療法評価学演習Ⅱ(精神・認知・医用画像)	1		
		作業治療学	作業療法治療技術理論	1		1
			認知症予防論		1	1
			ニューロリハビリテーション論		1	
			精神障害治療論		1	
			作業行動理論		1	
			整形外科系障害治療論		1	
			日常生活・環境アセスメント論		1	
			老年期障害学	1		17
			中枢神経障害学	1		
			整形外科系障害学	1		
			内部機能障害学	1		
			高次脳機能障害学	1		
			義肢装具学	1		
			精神障害学Ⅰ(総論)	1		
			精神障害学Ⅱ(各論)	1		
			発達機能障害学Ⅰ(総論)	1		
			発達機能障害学Ⅱ(各論)	1		
			日常生活活動学	1		
			生活技術学演習	1		
			応用生活技術学演習	1		
			作業療法特論Ⅰ(含喀痰等吸引)	1		
			作業療法特論Ⅱ	1		
			作業療法学総合演習Ⅰ(基礎)	1		
			作業療法学総合演習Ⅱ(専門)	1		
		地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ(制度・支援・連携)	1		4
			地域作業療法学Ⅱ(実践・就労支援)	1		
			生活環境・福祉機器学	2		
		臨床実習	臨床実習Ⅰ(基礎)	1		27
			通所／訪問リハ実習	1		
			通所／訪問リハ実習セミナー	1		
			評価実習前セミナー	1		
			臨床実習Ⅱ(評価)	4		
			作業療法総合セミナーⅠ(評価)	1		
			臨床実習Ⅲ(総合前期)	8		
			作業療法総合セミナーⅡ(評価と介入①)	1		
			臨床実習Ⅳ(総合後期)	8		
			作業療法総合セミナーⅢ(評価と介入②)	1		
合計						111

４．履修方法等

１） 学期

学年は、４月１日から３月３１日までで、その学年は、次の学期に分かれています。

前学期　　４月１日から９月３０日まで

後学期　　１０月１日から３月３１日まで

２） 授業

① 授業時間割

授業時間割表は、毎月初旬に翌月分を GSuite クラスルームで配信します。

なお、授業時間割表の変更、休講、補講等がある場合は、その都度 GSuite クラスルームで配信しますので始業前等には必ず確認してください。

② 授業時間

１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
9:00～10:30	10:45～12:15	13:15～14:45	15:00～16:30	16:45～18:15

③ 集中授業

集中授業は、原則として夏季休業中及び冬季休業中に行われます。具体的な開講日・時限等は、授業時間割表にて確認してください。

④ 休講

大学又は担当教員のやむを得ない理由により、休講することがあります。休講の場合は、その都度 GSuite クラスルームで連絡します。また、休講の連絡がなく、始業時刻から 15 分を経過しても担当教員が教室に来られない場合は、事務室に連絡し指示を受けてください。

⑤ 補講

休講した授業科目は、補講を行うことがあります。補講は GSuite クラスルームで連絡しますので、履修者は通常の授業と同様に受講してください。

３） 履修方法

学則、教育課程表及び授業時間割表の定めるところに従い、各自が履修計画を検討し計画的に各科目を履修しなければなりません。

＜履修上の注意事項＞

ア． 必修科目、選択必修科目を含めて、卒業に必要な単位数以上を履修登録、修得してください。

イ． 同一時限に複数の授業科目を履修することはできません。

ウ． 既に単位を修得した授業科目は、再び履修することはできません。

４） 履修登録

学生は、各年度の各学期に履修する選択科目について、本学の定める期日までに履修登録届を提出し、承認を得なければなりません。必修科目については、自動的に履修登録されますので、履修登録届は不要です。

履修登録がされていないと、授業に出席しても試験の受験資格が得られませんから、十分に注意してください。

学生は、履修登録をして承認を得た後においては、任意に履修科目を変更し、又は届け出た科目の履修を放棄することはできません。

＜履修登録の上限単位数（CAP 制）＞

CAP 制とは、授業科目の単位修得に必要な学修時間を確保する観点から、各学年において履修登録できる単位数の上限を定めた制度です。

本学では、全学科・全専攻において１年間に履修登録できる単位数の上限を 55 単位としています。

5） 授業の出・欠席の取り扱い

① 原則として、授業開始前に出・欠席の確認を行います。

② 出欠席の取り扱いは次の各号によりますが、遅刻・早退・欠課・欠席等の該当事項が生じた場合は、本学所定の用紙により、「遅刻・早退・欠課・欠席届及び公認願」を提出しなければなりません。

ア． 出席は、本学の定めた出席すべき日時に本学授業に出席した場合をいいます。

イ． 欠席は、本学の定めた出席すべき日時に本学授業に出席しなかった場合をいいます。

ウ． 欠課は、本学授業に出席した日のうちで、各授業時間において遅刻並びに早退に該当する範囲を超えた場合をいいます。

エ．遅刻は、授業開始時刻、本学行事の日にあっては定められた登校時刻又は集合時刻の 20 分以内の遅れをいいます。

オ．早退は、授業終了前、本学行事の日にあっては定められた解散時刻前の 20 分以内に退出した場合をいいます。

カ．同一科目において遅刻、早退２回をもって１時限の欠課となります。

③ 公認の取り扱いは、次の各号によりますが、公認願を事務室へ提出し学長が認めた場合に限ります。

ア． 授業中の負傷・病気に伴う治療の場合

イ． 忌引きによる場合

父母	兄弟姉妹	祖父母	伯叔父母
7 日	５日	３日	２日

ただし、遠隔地に赴く場合は、必要最低限の日数を認めることができる。

ウ． 伝染病発生並びに罹患による登校停止の場合。

エ． 本人の責めによらない不可抗力の場合

※ 公欠は本学が欠席事由を認めたものではあるが、授業の出席とみなすものではありません。
なお、公欠として認められたものは、授業開講数には含みません。

④ 各届・願は、本学所定の用紙により、原則として事前に事務室へ提出し、学長の承認を受けなければなりません。やむを得ない場合には、事後速やかに届け出るものとし、遅くとも３日以内（土・日・祝含まず）に事務室へ提出しなければなりません。
なお、②の遅刻・早退届については、当日教員に直接提出してください。

５．選択科目の履修人数について

選択科目のうち、次に掲げる科目については、授業方法の形態及び教室の座席数の関係上、履修人数の制限を設けます。履修希望者が制限人数を超えた場合は、学内での抽選により履修者を決定します。

その他の選択科目についても教室の座席数等の事情により、人数調整の上履修者を決定します。

科目名	制限の人数
情報科学	４０名
英語Ⅱ（日常英会話）Ａ	４０名
英語Ⅱ（日常英会話）Ｂ	６０名
英語Ⅱ（日常英会話）Ｃ	４０名

６．臨地・臨床実習科目の履修に関する条件

実習科目を履修するためには、次表のとおり履修前提条件を満たしている必要があります。

履修前提条件を満たしていない人は、履修できませんので注意してください。

＜リハビリテーション学科作業療法専攻実習科目の履修前提条件＞

2019年度以前入学生

実習科目名	年次	履修条件科目（単位修得済み科目）
臨床実習Ⅱ（評価）	2	1年次、2年次必修科目すべて、かつ選択科目を含めて69単位以上
臨床実習Ⅲ（総合前期）	3	臨床実習Ⅱ（評価）
臨床実習Ⅳ（総合後期）	3	臨床実習Ⅲ（総合前期）

2020年度以降入学生

実習科目名	年次	履修条件科目（単位修得済み科目）
臨床実習Ⅱ（評価）	2	1年次、2年次必修科目すべて、かつ選択科目を含めて78単位以上
臨床実習Ⅲ（総合前期）	3	臨床実習Ⅱ（評価）、作業療法総合セミナーⅠ（評価）
臨床実習Ⅳ（総合後期）	3	臨床実習Ⅲ（総合前期）、作業療法総合セミナーⅡ（評価と介入①）

７．試験、成績評価及び単位の授与

１） 試験の種類

試験は、原則として下記の種類があります。ただし、科目によっては授業時間中に随時期間外試験を行うことがあります。

試験は各授業科目の担当教員が行い、試験を受けることができる者は、当該授業科目の授業時間数の３分の２以上出席した者とします。

① 定期試験

前学期、後学期授業終了後に行います。

② 期間外試験

前学期試験、後学期試験の期間以外に行うことがあります。

③ レポート試験

上記の試験に代わり、レポート提出を求められることがあります。詳細は担当教員の指示に従ってください。

④ 追試験

病気、その他正当な理由により試験を受けられなかった場合、願い出が認められた者に対し追試験を実施します。

⑤ 再試験

試験及び追試験に不合格となった者について、授業担当教員は１回に限り再試験を行うことができます。

２） 追試験の手続き

追試験の受験を希望する者は、当該試験の終了から１週間以内に追試験願を事務室に提出しなければなりません。

なお、受験できなかった理由がわかる書類（病気やけがの場合は医師の診断書、その他忌引きや事故等による場合は証明できる書類等）の添付が必要です。

願い出が認められた場合は、担当教員の指示に従って受験することとなります。

なお、追試験を欠席した場合は、特別な事情がない限りその後の追試験は行いません。

３） 再試験の手続き

再試験を希望する者は、定められた期日までに再試験願に再試験料（１科目につき 3,000 円）を添えて申請し、学長の承認を得なければなりません。

なお、再試験を欠席した場合は、特別な事情がない限りその後の再試験は行いません。

４） 受験上の注意

ア． 座席は、別途指定された席についてください。

イ． 学生証は、写真の面を上にして通路側の机上に置いてください。なお、学生証を携帯していない者、有効期限の切れた学生証持参の者は受験できません。ただし、当日事務室にて当日のみ有効の受験特別許可証を発行します。手数料は 1,000 円です。

ウ． 試験に必要な筆記用具、消しゴム等以外のものを机上に置かないでください。

エ． 監督者の指示に従ってください。指示に従わない者には退場を命じ、その試験は無効とします。

オ． 遅刻は、試験開始後 30 分までを認め、それ以後の入室は認めません。

カ． 退室は、試験開始後 30 分経過するまでは認めません。

キ． 試験実施中は、スマホ・携帯電話及び腕時計のアラーム等の電源を切ってください。

ク． 不正行為を行った者には退室を命じ、当該科目または以後の全科目の受験を認めません。また、当該学期の履修科目の一部または全部の単位を認定しません。詳細は学生便覧の「平成医療短期大学試験等における不正行為に対する取扱基準」でご確認ください。

また、不正行為と見なされてしまう可能性のある行為（例：筆記用具や消しゴムの貸し借り等）は、決して行わないでください。

5） 成績評価

成績の評価は次のとおりです。（学則第26条第２項）

（平成２８年度以降入学者）

成績は、本人に秀、優、良、可、不可の評価をもって通知します。

成績評価が合格の者に対して、所定の単位を与えます。各試験の評価は、次のとおりです。

評価	前学期、後学期、期間外、及びレポート試験等	追試験	再試験
秀	１００点～９０点	１００点～９０点	なし
優	８９点～８０点	８９点～８０点	なし
良	７９点～７０点	７９点～７０点	なし
可	６９点～６０点	６９点～６０点	１００点～６０点
不可	６０点未満	６０点未満	６０点未満

＜実習科目＞

出席が当該実習科目の授業時間数の５／６以上を対象とし、成績評価は、秀（平成２８年度入学者から適用）、優、良、可、不可とします。出席が当該実習科目の授業時間数の５／６に満たない場合は、補習実習を認める場合があります。

この場合は本学所定の申請用紙により、補習実習願を事務室に提出し、実習担当教員と学長の承認を得なければなりません。

＜GPA＞　＊グレード・ポイント・アベレージ

GPAとは、「秀」を４、「優」を３、「良」を２、「可」を１、「不可・失格」を０として各科目の成績を一定の基準で換算して、全体成績を数値で表記したものです。

[GPA算出方法]　＊小数第三位四捨五入

（平成28年度以降入学者）

$$\frac{([秀]\ 修得単位数\times 4)+([優]\ 修得単位数\times 3)+([良]\ 修得単位数\times 2)+([可]\ 修得単位数\times 1)+([不可]\ 修得単位数\times 0)}{総修得単位数+（不可・失格）単位数}$$

＊GPAには、各期のGPAと入学からその時点までの通算GPAがあり、各期の成績表には両方のGPAが掲載されます。

＊不可・失格について再履修で単位修得した場合は、過去の不可・失格の評価は通算GPAには算入されません。

＊GPAは履修登録されたすべての科目が対象になります。よって、選択科目を必要単位数以上に履修申請した場合も、すべて対象になります。

＊入学前既修得単位（単位認定科目）はGPA対象外です。

＜GPAに基づく個別指導、退学勧告＞　（平成28年度入学者から適用）

成績不振の基準を、学期GPA1.5未満とし、該当する学生には次の各号により個別面談・指導等を行います。

① 学期GPAが1.5未満の場合は、指導教員による個別面談・指導を行います。

② 2期連続GPAが1.5未満の場合は、保護者同席のうえ指導教員による個別面談・指導を行います。

③ 3期連続または通算4学期のGPAが1.5未満の場合は、学長が退学勧告できます。

6）成績発表

原則成績表を手渡しすることで発表とします。その際は必ず学生証を持参してください。

発表日時、場所等は時間割表に記載の上 GSuite クラスルームにてお知らせします。

なお、再試験の申し込みは成績発表の当日以降に行います。時間、場所等は GSuite クラスルームにてお知らせします。

【理学療法専攻及び作業療法専攻に適用】　平成３０年度以前の入学者に限る

1) 再試験の条件

・専門教育科目(専門基礎科目・専門科目)(※対象外科目を除く)については、原則として、試験及び追試験に各期３科目まで不合格者となった者に限り１回のみ再試験を行うことができます。　４科目以上不合格(追試験を含む)となった者には再試験を行うことはできず、下記 2)により、次年次科目の履修は不可（以下「留年」という。）となります。

※＜対象外科目＞

次の科目は再試験受験制限となる３科目の対象外とします。

理学療法専攻…運動学演習、生理学演習、評価実習前セミナー、臨床実習科目

作業療法専攻…運動学演習、生理学演習、評価実習前セミナー、作業療法総合セミナーⅠ、臨床実習科目

・専門教育科目（専門基礎科目・専門科目）以外の科目の試験及び追試験に不合格となった者については、科目数にかかわらず、原則として１回に限り再試験を行うことができます。

2) 進級・仮進級

・原則として、当該学年に配当されている科目の単位を全て修得した場合に進級できます。。

ただし、次の条件のもとで仮進級が認められ、次年次科目を履修できます。

＜仮進級の条件等＞

・試験の結果、成績保留となった科目が年次で３科目以下であること。

ただし、失格科目がある場合、臨床実習科目が不合格の場合は適用外とする。

・仮進級した場合は、成績保留科目における仮進級者試験によって成績判定します。

※仮進級者試験を受ける年次の授業の出席時間数は受験資格としません。

※仮進級者試験の成績評価は、再試験に準じて行います。

※仮進級試験は１科目につき 3,000 円の試験料が必要となります。

・進級または仮進級の条件を満たさない場合は留年となり、次年次科目の履修はできず、当該学年の単位未修得科目を再履修することとなります。

＜臨床実習Ⅱ(評価)の履修前提条件＞

・P11 に記した臨床実習Ⅱ(評価)の履修条件科目(単位修得済み科目)には仮進級科目も含まれます。よって、2 年後期試験後に成績保留が３科目までの人は、後期の臨床実習Ⅱを履修できます。

※なお、次の科目は上記成績保留３科目の対象外とします。

理学療法専攻…評価実習前セミナー

作業療法専攻…評価実習前セミナー、作業療法総合セミナーⅠ

８．単位について

１）単位の計算方法

学則第２４条により、次のように定めています。

第２４条　授業科目の単位数は、１単位の授業科目を４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

一　講義については、１５時間の授業をもって１単位とする。ただし、別に定める授業科目については、３０時間の授業をもって１単位とする。

二　演習については、３０時間の授業をもって１単位とする。ただし、別に定める授業科目については、１５時間の授業をもって１単位とする。

三　実験、実習及び実技については、４５時間の授業をもって１単位とする。ただし、別に定める授業科目については、３０時間の授業をもって１単位とする。

四　講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により授業を行う場合にあっては、その組み合わせに応じ、次の表の換算時間により計算した総時間数が４５時間となる授業をもって１単位とする。

授業の種類	授業１時間当たりの換算時間
講義	３時間
演習	１．５時間
実習･実験・実技	１時間

２）単位の考え方

１）に記載されているように、1 単位の学修時間を 45 時間としながら、実際の講義については 15 時間（30 時間）で 1 単位としています。これは、45 時間の中に講義以外の事前・事後学習の時間が含まれるとする考え方によるものです。

９．卒業要件、学位の授与及び国家試験

１）卒業要件

本学を卒業するためには、本学に３年以上在学し、本学学則の別表１に定める授業科目の次の表に示す単位を修得しなければなりません。

２）学位の授与及び国家試験

所定の単位を修得すると、リハビリテーション学科各専攻は「短期大学士（理学療法学）」（英訳名：Associate of Science in Physical Therapy）、「短期大学士（作業療法学）」（英訳名：Associate of Science in Occupational Therapy）、「短期大学士（視機能療法学）」（英訳名：Associate of Science in Orthoptics）の各学位が授与され、理学療法士、作業療法士、視能療法士の各国家試験の受験資格が得られます。

これらの国家試験は、厚生労働省により年１回実施されます。

＜リハビリテーション学科　作業療法専攻の卒業要件単位数＞

２０１９年度以前入学生

区分			必修	選択	合計
総合教育科目	教養教育科目	人間と科学	２単位	２単位以上	４単位以上
		人間と社会	２単位	４単位以上	６単位以上
	基礎教育科目	コミュニケーション	３単位	—	３単位
		外国語	１単位	１単位以上	２単位以上
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造	５単位	—	５単位
		人体の機能	６単位	—	６単位
		心身の発達	１単位	—	１単位
		疾病の成り立ち	９単位	—	９単位
		障害の成り立ち	３単位	—	３単位
		保健・医療・福祉の連携	３単位	—	３単位
	専門科目	基礎作業療法学	７単位	—	７単位
		作業療法評価学	５単位	—	５単位
		作業治療学	１９単位	１単位以上	２０単位
		地域作業療法学	４単位	—	４単位
		臨床実習	２０単位	—	２０単位
合計			９０単位	８単位以上	９８単位以上

２０２０年度以降入学生

区分			必修	選択	合計
総合教育科目	教養教育科目	人間と科学	２単位	２単位以上	４単位以上
		人間と社会	２単位	４単位以上	６単位以上
	基礎教育科目	コミュニケーション	３単位	—	３単位
		外国語	１単位	１単位以上	２単位以上
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造	５単位	—	５単位
		人体の機能	６単位	—	６単位
		心身の発達	１単位	—	１単位
		疾病の成り立ち	９単位	—	９単位
		障害の成り立ち	３単位	—	３単位
		回復過程の促進	５単位	—	５単位
		保健・医療・福祉の連携	４単位	—	４単位
	専門科目	基礎作業療法学	６単位	—	６単位
		作業療法管理学	２単位	—	２単位
		作業療法評価学	５単位	—	５単位
		作業治療学	１８単位	１単位以上	１９単位
		地域作業療法学	４単位	—	４単位
		臨床実習	２７単位	—	２７単位
合計			１０３単位	８単位以上	１１１単位以上

カリキュラムマップ＜リハビリテーション学科作業療法専攻＞　2019年度以前入学生

建学の精神　「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

↓

建学の精神に基づく教育目的

全学の目的…建学の精神を理念として、豊かな一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。

リハビリテーション学科作業療法専攻…深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ作業療法士を養成する。

①医学の基礎知識、作業療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する作業療法士
②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する作業療法士
③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する作業療法士

↓

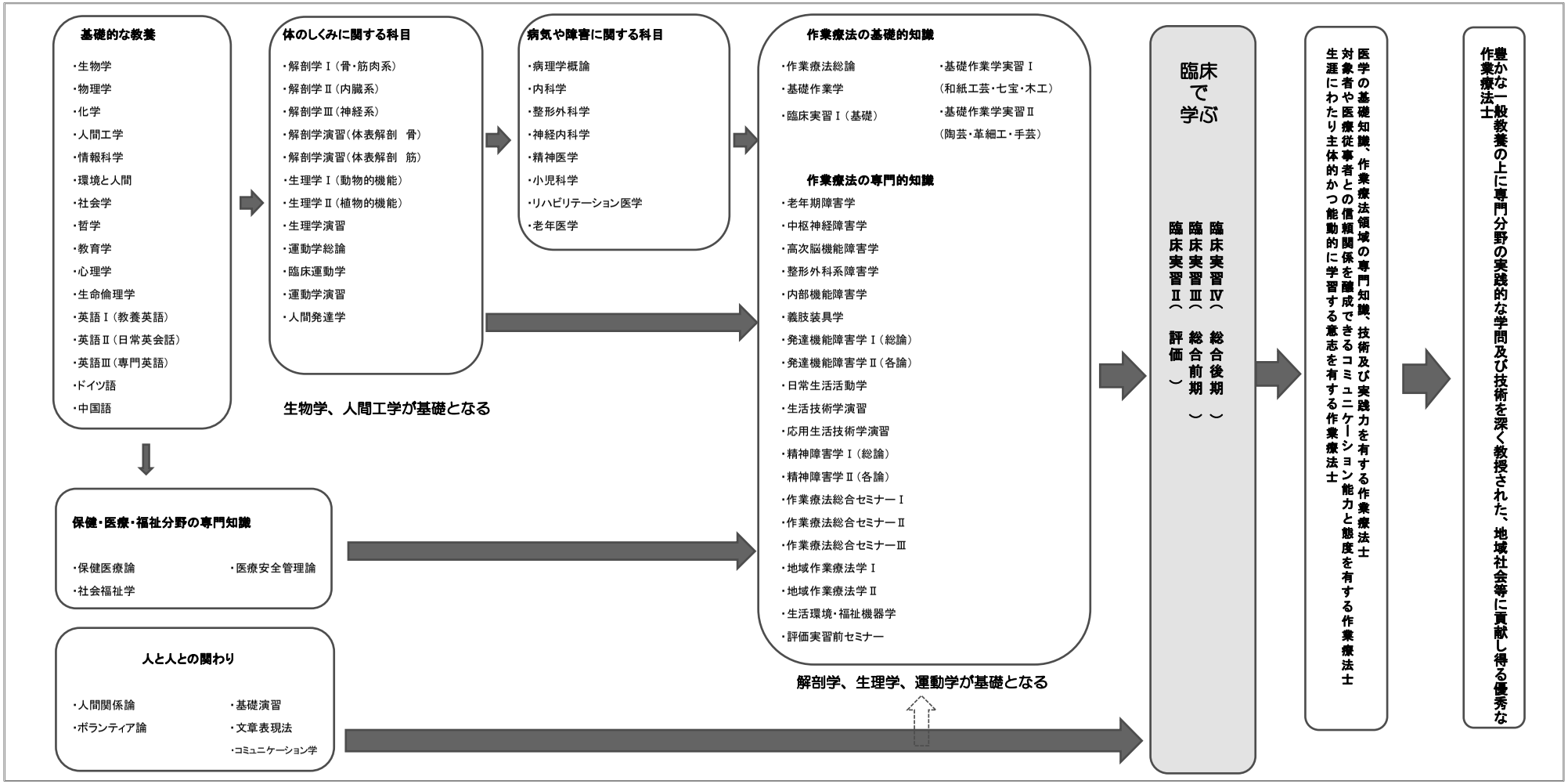
※ディプロマ・ポリシーの番号は、P3の該当番号

教育目的に基づく カリキュラム・ポリシー		項目	1年次		2年次		3年次		学習成果	ディプロマ・ポリシー		
全学方針	学科方針		前期	後期	前期	後期	前期	後期		全学方針	作業療法専攻	
社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。	地域社会に貢献するために作業療法士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。	人間と科学	生物学 物理学 化学 人間工学	情報科学 環境と人間					(全学)教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得	(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。		(1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、作業療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。
		人間と社会	社会学 人間関係論 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ論	哲学 教育学 心理学			生命倫理学					
		コミュニケーション	基礎演習 文章表現法	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学								
		外国語	英語Ⅰ(教養英語)	英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語								
専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体・疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。	身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上で運動や物理的手段を用いて疾病や障害の予防、そして疾病に伴う障害から生じる身体機能及び基本動作能力の回復・改善を促す作業療法の専門知識と技術を身につけるため、作業療法専門科目を配置する。 地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人々が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。 科学者としての目と心を育み、作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。	人体の構造	解剖学Ⅰ(骨・筋肉系) 解剖学Ⅱ(内臓系) 解剖学演習(体表解剖　骨)	解剖学Ⅲ(神経系) 解剖学演習(体表解剖　筋)					医学の基礎的知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得	(2)学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉に貢献できる力を身につける。 (3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学修を通して、人間、保健医療福祉問題等を科学的、論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、解決のための知識、技術等を身につける。	(3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。	(2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた作業療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。 (4) 学術研究活動を通じて作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、作業療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。
		人体の機能	生理学Ⅰ(動物的機能) 運動学総論	生理学Ⅱ(植物的機能) 生理学演習 臨床運動学	運動学演習							
		心身の発達	人間発達学									
		疾病の成り立ち		病理学概論 精神医学	内科学 整形外科学 神経内科学 小児科学							
		障害の成り立ち		ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学 老年医学								
		保健・医療・福祉の連携	保健医療論	社会福祉学 医療安全管理論								
		基礎作業療法学	作業療法総論 基礎作業学 基礎作業学実習Ⅰ(和紙工芸・七宝・木工)	基礎作業学実習Ⅱ(陶芸・革細工・手芸)	作業療法研究方法論		卒業研究		医学の基礎的知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の習得 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得 対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得			
		作業療法評価学		作業療法評価学概論	作業療法評価学Ⅰ(身体機能) 作業療法評価学Ⅱ(精神機能・活動・環境) 作業療法評価学演習Ⅰ(身体機能) 作業療法評価学演習Ⅱ(精神機能・活動・環境)							
		作業治療学		作業療法治療技術理論	認知症予防論 作業行動理論 精神障害治療論 ニューロリハビリテーション論 整形外科系障害治療論 日常生活・環境アセスメント論 整形外科系障害学 義肢装具学 発達機能障害学Ⅰ(総論) 日常生活活動学 生活技術学演習 精神障害学Ⅰ(総論)	老年期障害学 中枢神経障害学 高次能機能障害学 内部機能障害学 発達機能障害学Ⅱ(各論) 応用生活技術学演習 精神障害学Ⅱ(各論) 作業療法総合セミナーⅠ(評価)	作業療法学総合演習Ⅰ(基礎) 作業療法総合セミナーⅡ(評価と介入①)	作業療法学総合演習Ⅱ(専門) 作業療法総合セミナーⅢ(評価と介入②)					
		地域作業療法学				地域作業療法学Ⅰ(制度・支援・連携) 生活環境・福祉機器学	地域作業療法学Ⅱ(実践・就労支援)					
	臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力を身につけるため、作業療法専門科目(臨床実習)を配置する。	臨床実習		臨床実習Ⅰ(基礎)		評価実習前ｾﾐﾅｰ 臨床実習Ⅱ(評価)	臨床実習Ⅲ(総合前期)	臨床実習Ⅳ(総合後期)	豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得 対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得			

科目関連図

各科目がどのように関連しているかを理解して学習をすすめる。

＜リハビリテーション学科作業療法専攻＞　2019年度以前入学生



到達目標評価項目(学習成果)および評価基準

＜リハビリテーション学科作業療法専攻＞　2019年度以前入学生

評価項目	評価基準			適用科目	学校としての学習成果の評価
学習成果	3 (非常に優れている)	2 (優れている)	1 (基準に達している)		
(全学)教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	生物学　物理学　化学 情報科学　人間工学　環境と人間 社会学　人間関係論　ボランティア論 哲学　教育学　心理学 生命倫理学 基礎演習　文章表現法 コミュニケーション学 英語Ⅰ(教養英語)　英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語　中国語	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
医学の基礎的知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	解剖学Ⅰ(骨・筋肉系) 解剖学Ⅱ(内臓系) 解剖学Ⅲ(神経系) 解剖学演習(体表解剖　骨) 解剖学演習(体表解剖　筋) 生理学Ⅰ(動物的機能) 生理学Ⅱ(植物的機能) 生理学演習 運動学総論 臨床運動学 運動学演習 人間発達学 病理学概論 内科学 整形外科学 神経内科学 精神医学 小児科学 リハビリテーション医学 老年医学 保健医療論 社会福祉学 医療安全管理論	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
医学の基礎的知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得 対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	作業療法総論 作業療法研究方法論 基礎作業学 基礎作業学実習Ⅰ(和紙工芸，七宝，木工) 基礎作業学実習Ⅱ(陶芸，革細工，手芸) 卒業研究 作業療法評価学概論 作業療法評価学Ⅰ(身体機能) 作業療法評価学Ⅱ(精神機能・活動・環境) 作業療法評価学演習Ⅰ(身体機能) 作業療法評価学演習Ⅱ(精神機能・活動・環境) 作業療法治療技術理論 認知症予防論 作業行動理論 精神障害治療論 ニューロリハビリテーション論 整形外科系障害治療論 日常生活・環境アセスメント論 老年期障害学 中枢神経障害学 高次能機能障害学 整形外科系障害学 内部機能障害学 義肢装具学 発達機能障害学Ⅰ(総論) 発達機能障害学Ⅱ(各論) 日常生活活動学 生活技術学演習 応用生活技術学演習 精神障害学Ⅰ(総論) 精神障害学Ⅱ(各論) 作業療法学総合演習Ⅰ(基礎) 作業療法学総合演習Ⅱ(専門) 地域作業療法学Ⅰ(制度・支援・連携) 地域作業療法学Ⅱ(実践・就労支援) 生活環境・福祉機器学	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得 対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	臨床実習Ⅰ(基礎) 評価実習前セミナー 臨床実習Ⅱ(評価) 作業療法総合セミナーⅠ(評価) 臨床実習Ⅲ(総合前期) 作業療法総合セミナーⅡ(評価と介入①) 臨床実習Ⅳ(総合後期) 作業療法総合セミナーⅢ(評価と介入②)	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。

カリキュラムマップ＜リハビリテーション学科作業療法専攻＞　2020年度以降入学生

建学の精神　「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

↓

建学の精神に基づく教育目的

全学の目的…建学の精神を理念として、豊かな一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。

リハビリテーション学科作業療法専攻…深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ作業療法士を養成する。

①医学の基礎知識、作業療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する作業療法士
②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する作業療法士
③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する作業療法士

↓

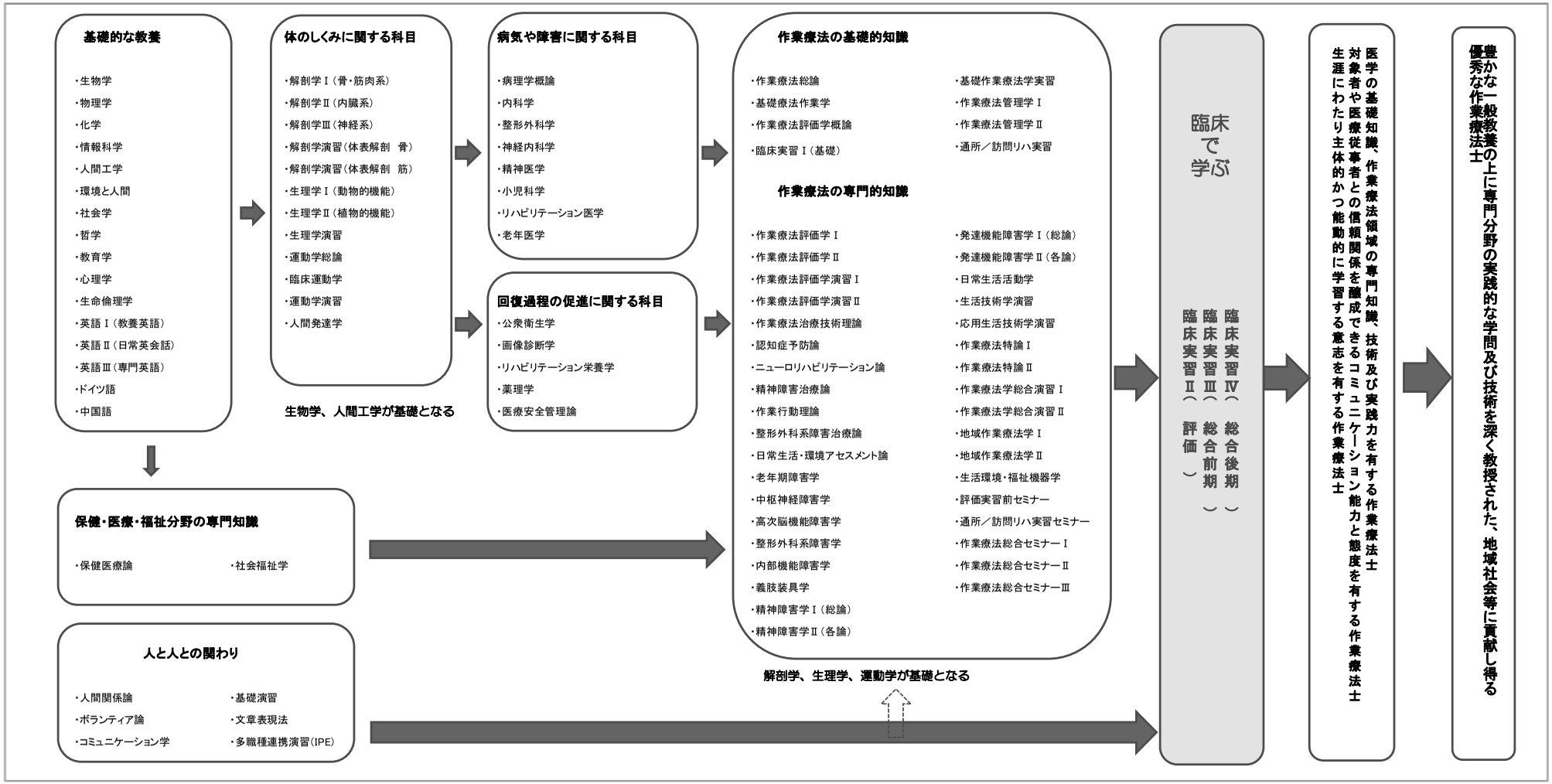
※ディプロマ・ポリシーの番号は、P3の該当番号

教育目的に基づく カリキュラム・ポリシー		項目	1年次		2年次		3年次		学習成果	デュプロマ・ポリシー		
全学方針	学科方針		前期	後期	前期	後期	前期	後期		全学方針	学科方針	
社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。	地域社会に貢献するために作業療法士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。	人間と科学	生物学 物理学 化学 人間工学	情報科学 環境と人間					（全学）教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得	(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。	(3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。	(1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、作業療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。
		人間と社会	社会学 人間関係論 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ論	哲学 教育学 心理学			生命倫理学					
		コミュニケーション	基礎演習 文章表現法	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学								
		外国語	英語Ⅰ（教養英語）	英語Ⅱ（日常英会話） 英語Ⅲ（専門英語） ドイツ語 中国語								
専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体・疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。	身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上で運動や物理的手段を用いて疾病や障害の予防、そして疾病に伴う障害から生じる身体機能及び基本動作能力の回復・改善を促す作業療法の専門知識と技術を身につけるため、作業療法専門科目を配置する。 地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人々が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。 科学者としての目と心を育み、作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する	人体の構造	解剖学Ⅰ（骨・筋肉系） 解剖学Ⅱ（内臓系） 解剖学演習（体表解剖　骨）	解剖学Ⅲ（神経系） 解剖学演習（体表解剖　筋）					医学の基礎的知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得	(2) 学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉に貢献できる力を身につける。 (3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学修を通して、人間、保健医療福祉問題等を科学的、論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、解決のための知識、技術等を身につける。		(2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた作業療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。 (4) 学術研究活動を通じて作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、作業療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。
		人体の機能	生理学Ⅰ（動物的機能） 運動学総論	生理学Ⅱ（植物的機能） 生理学演習 臨床運動学	運動学演習							
		心身の発達	人間発達学									
		疾病の成り立ち		病理学概論 精神医学	内科学 整形外科学 神経内科学 小児科学							
		障害の成り立ち		ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学 老年医学								
		回復過程の促進	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ栄養学	公衆衛生学 医療安全管理論	薬理学			画像診断学				
		保健・医療・福祉の連携	保健医療論	社会福祉学		多職種連携演習（IPE）						
		基礎作業療法学	作業療法総論 基礎作業療法学 基礎作業療法学実習		作業療法研究方法論		卒業研究		医学の基礎的知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の習得 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得 対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得			
		作業療法管理学				作業療法管理学Ⅰ	作業療法管理学Ⅱ					
		作業療法評価学		作業療法評価学概論	作業療法評価学Ⅰ（身障一般） 作業療法評価学Ⅱ（精神・認知・医用画像） 作業療法評価学演習Ⅰ（身障一般） 作業療法評価学演習Ⅱ（精神・認知・医用画像）							
		作業療法治療学		作業療法治療技術理論	認知症予防論 ニューロリハビリテーション論 精神障害治療論 作業行動理論 整形外科系障害治療論 日常生活・環境アセスメント論 整形外科系障害学 義肢装具学 精神障害学Ⅰ（総論） 発達機能障害学Ⅰ（総論） 日常生活活動学 生活技術学演習	老年期障害学 中枢神経障害学 内部機能障害学 高次能機能障害学 精神障害学Ⅱ（各論） 発達機能障害学Ⅱ（各論） 応用生活技術学演習 作業療法総合セミナーⅠ（評価）	作業療法特論Ⅰ（含喀痰等吸引） 作業療法学総合演習Ⅰ（基礎）	作業療法特論Ⅱ 作業療法学総合演習Ⅱ（専門）					
		地域作業療法学				地域作業療法学Ⅰ（制度・支援・連携） 生活環境・福祉機器学	地域作業療法学Ⅱ（実践・就労支援）					
	臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力を身につけるため、作業療法専門科目（臨床実習）を配置する。	臨床実習		臨床実習Ⅰ（基礎）	通所／訪問リハ実習 通所／訪問リハ実習セミナー	評価実習前ｾﾐﾅｰ 臨床実習Ⅱ（評価）	臨床実習Ⅲ（総合前期） 作業療法総合セミナーⅡ（評価と介入①）	臨床実習Ⅳ（総合後期） 作業療法総合セミナーⅢ（評価と介入②）	豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得 対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得			

科目関連図

各科目がどのように関連しているかを理解して学習をすすめる。

＜リハビリテーション学科作業療法専攻＞　2020年度以降入学生



到達目標評価項目(学習成果)および評価基準

＜リハビリテーション学科作業療法専攻＞　2020年度以降入学生

評価項目	評価基準			適用科目	学校としての学習成果の評価
学習成果	3 (非常に優れている)	2 (優れている)	1 (基準に達している)		
(全学)教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	生物学　物理学　化学 情報科学　人間工学　環境と人間 社会学　人間関係論　ボランティア論 哲学　教育学　心理学 生命倫理学 基礎演習　文章表現法 コミュニケーション学 英語Ⅰ(教養英語)　英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語　中国語	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
医学の基礎的知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	解剖学Ⅰ(骨・筋肉系) 解剖学Ⅱ(内臓系) 解剖学Ⅲ(神経系) 解剖学演習(体表解剖　骨) 解剖学演習(体表解剖　筋) 生理学Ⅰ(動物的機能) 生理学Ⅱ(植物的機能) 生理学演習 運動学総論 臨床運動学 運動学演習 人間発達学 病理学概論 内科学 整形外科学 神経内科学 精神医学 小児科学 リハビリテーション医学 老年医学 公衆衛生学 画像診断学 リハビリテーション栄養学 薬理学 医療安全管理論 保健医療論 社会福祉学 多職種連携演習(IPE)	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
医学の基礎的知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得 対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	作業療法総論 基礎作業療法学 基礎作業療法学実習 作業療法研究方法論 卒業研究 作業療法管理学Ⅰ 作業療法管理学Ⅱ 作業療法評価学概論 作業療法評価学Ⅰ(身障一般) 作業療法評価学Ⅱ(精神・認知・医用画像) 作業療法評価学演習Ⅰ(身障一般) 作業療法評価学演習Ⅱ(精神・認知・医用画像) 作業療法治療技術理論 認知症予防論 ニューロリハビリテーション論 精神障害治療論 作業行動理論 整形外科系障害治療論 日常生活・環境アセスメント論 老年期障害学 中枢神経障害学 整形外科系障害学 内部機能障害学 高次脳機能障害学 義肢装具学 精神障害学Ⅰ(総論) 精神障害学Ⅱ(各論) 発達機能障害学Ⅰ(総論) 発達機能障害学Ⅱ(各論) 日常生活活動学 生活技術学演習 応用生活技術学演習 作業療法特論Ⅰ(含喀痰等吸引) 作業療法特論Ⅱ 作業療法学総合演習Ⅰ(基礎) 作業療法学総合演習Ⅱ(専門) 地域作業療法学Ⅰ(制度・支援・連携) 地域作業療法学Ⅱ(実践・就労支援) 生活環境・福祉機器学	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得 対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	臨床実習Ⅰ(基礎) 通所／訪問リハ実習 通所／訪問リハ実習セミナー 評価実習前セミナー 臨床実習Ⅱ(評価) 作業療法総合セミナーⅠ(評価) 臨床実習Ⅲ(総合前期) 作業療法総合セミナーⅡ(評価と介入①) 臨床実習Ⅳ(総合後期) 作業療法総合セミナーⅢ(評価と介入②)	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。

シ ラ バ ス

リハビリテーション学科

作業療法専攻

◎ リハビリテーション学科　作業療法専攻

◆ 総合教育科目 ◆

科目区分		科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ
教養教育科目	人間と科学	生物学	1年次前学期	江村正一	29
		物理学	1年次前学期	中村　琢	31
		化学	1年次前学期	武藤吉徳	33
		情報科学	1年次後学期	加藤直樹	35
		人間工学	1年次前学期	山田宏尚	37
		環境と人間	1年次後学期	大藪千穂	39
	人間と社会	社会学	1年次前学期	伊原亮司	41
		人間関係論	1年次前学期	神戸博一	43
		ボランティア論	1年次前学期	益川優子	45
		哲学	1年次後学期	竹内章郎	47
		教育学	1年次後学期	益川優子	49
		心理学	1年次後学期	大井修三	51
		生命倫理学	3年次前学期	谷口泰弘	53
基礎教育科目	コミュニケーション	基礎演習	1年次前学期	樅山貴子、加藤清人、河村章史、世良龍哉	55
		文章表現法	1年次前学期	弓削　繁	57
		コミュニケーション学	1年次後学期	近藤ひろえ	59
	外国語	英語Ⅰ（教養英語）	1年次前学期	長尾裕子	61
		英語Ⅱ（日常英会話）C	1年次後学期	長尾裕子	63
		英語Ⅲ（専門英語）	1年次後学期	ミルボド・セイエド・モハマド	65
		ドイツ語	1年次後学期	安藤彰浩	67
		中国語	1年次後学期	橋本永貢子	69

◎ リハビリテーション学科　作業療法専攻

◆ 専門教育科目 ◆

科目区分		科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ
専門基礎科目	人体の構造	解剖学Ⅰ（骨・筋肉系）	1年次前学期	千田隆夫	71
		解剖学Ⅱ（内臓系）	1年次前学期	江村正一	73
		解剖学Ⅲ（神経系）	1年次後学期	堀　信宏、近藤直実、河村章史、大場かおり、藤橋雄一郎	75
		解剖学演習（体表解剖　骨）	1年次前学期	永井貴士、井上忠俊、樅山貴子	77
		解剖学演習（体表解剖　筋）	1年次後学期	永井貴士、竹中孝博、井上忠俊、浅野莉沙、樅山貴子	79
	人体の機能	生理学Ⅰ（動物的機能）	1年次前学期	川島　卓	81
		生理学Ⅱ（植物的機能）	1年次後学期	川島　卓	83
		生理学演習	1年次後学期	永井貴士、加藤清人、河村章史、世良龍哉、竹中孝博、井上忠俊　、浅野莉沙、川島　卓	85
		運動学総論	1年次前学期	堀　信宏	87
		臨床運動学	1年次後学期	曽田直樹	89
		運動学演習	2年次前学期	加藤清人、河村章史、世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、井上忠俊、樅山貴子	91
	心身の発達	人間発達学	1年次前学期	大森正英	93
	疾病の成り立ち	病理学概論	1年次後学期	松井永子	95
		内科学	2年次前学期	近藤直実、平野智久、山本眞由美、高田信幸、坂　義人、古田弥生	97
		整形外科学	2年次前学期	西本　裕	99
		神経内科学	2年次前学期	木村暁夫、下畑享良、林　祐一、山田恵、吉倉延亮、竹腰顕	101
		精神医学	1年次後学期	宮地幸雄	103
		小児科学	2年次前学期	近藤直実　近藤富雄、堀田　亮	105
	障害の成り立ち	リハビリテーション医学	1年次後学期	西本　裕	107
		老年医学	1年次後学期	武内康雄	109
	回復過程の促進	公衆衛生学　※2	1年次後学期	大森正英	111
		画像診断学　※2	3年次後学期	河村章史、竹中孝博、樅山貴子	113
		リハビリテーション栄養学　※2	1年次前学期	久保和弘	115
		薬理学　※2	2年次前学期	大津　航	117
		医療安全管理論	1年次後学期	眞田正世	119
	保健・医療・福祉の連携	保健医療論	1年次前学期	松岡敏男	121
		社会福祉学	1年次後学期	竹内章郎	123
		多職種連携演習（IPE）　※2	2年次後学期	加藤清人、河村章史、世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、井上忠俊、樅山貴子、浅野莉沙	125

◎ リハビリテーション学科　作業療法専攻
◆ 専門教育科目 ◆

科目区分		科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ
専門科目	基礎作業療法学	作業療法総論	1年次前学期	加藤清人	127
		基礎作業療法学 ※2	1年次前学期	坂田崇好、建石光貴、永井貴士	129
		基礎作業療法学実習 ※2	1年次前学期	世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、塩崎章嘉	131
		作業療法研究方法論	2年次前学期	世良龍哉、河村章史	133
		卒業研究	3年次前学期	加藤清人、河村章史、世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、井上忠俊	135
	作業療法管理学	作業療法管理学Ⅰ ※2	2年次後学期	柴　貴志、古桧山建吾	137
		作業療法管理学Ⅱ ※2	3年次前学期	柴　貴志、古桧山建吾	139
	作業療法評価学	作業療法評価学概論	1年次後学期	竹中孝博、世良龍哉	141
		作業療法評価学Ⅰ（身体機能）	2年次前学期	竹中孝博、加藤清人、永井貴士、井上忠俊、樅山貴子、川本徹	143
		作業療法評価学Ⅱ（精神・認知・医用画像） ※2	2年次前学期	河村章史、加藤清人、世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、井上忠俊、樅山貴子	145
		作業療法評価学演習Ⅰ（身体機能）	2年次前学期	竹中孝博、加藤清人、永井貴士、井上忠俊、樅山貴子、川本徹	147
		作業療法評価学演習Ⅱ（精神・認知・医用画像） ※2	2年次前学期	河村章史、中村恵一、大下伸子、加藤清人、世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、井上忠俊、樅山貴子	149
	作業治療学	作業療法治療技術理論	1年次後学期	加藤清人、河村章史、世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、浅野莉沙、井上忠俊、樅山貴子	151
		認知症予防論	2年次前学期	加藤清人、井上忠俊	153
		ニューロリハビリテーション論	2年次前学期	河村章史	155
		精神障害治療論	2年次前学期	世良龍哉	157
		作業行動理論	2年次前学期	永井貴士	159
		整形外科系障害治療論	2年次前学期	竹中孝博	161
		日常生活・環境アセスメント論	2年次前学期	浅野莉沙	163
		老年期障害学	2年次後学期	加藤清人、井上忠俊	165
		中枢神経障害学	2年次後学期	河村章史、竹中孝博	167
		整形外科系障害学	2年次前学期	竹中孝博、川本　徹	169
		内部機能障害学	2年次後学期	長谷部武久、寺本佳津明、寺下美智子	171
		高次脳機能障害学	2年次後学期	河村章史	173
		義肢装具学	2年次前学期	竹中孝博	175
		精神障害学Ⅰ（総論）	2年次前学期	世良龍哉	177
		精神障害学Ⅱ（各論）	2年次後学期	世良龍哉、片桐正博	179
		発達機能障害学Ⅰ（総論）	2年次前学期	相羽秀子	181
		発達機能障害学Ⅱ（各論）	2年次後学期	相羽秀子	183
		日常生活活動学	2年次前学期	樅山貴子	185
		生活技術学演習	2年次前学期	永井貴士、樅山貴子	187
		応用生活技術学演習	2年次後学期	佐藤篤史	189
		作業療法特論Ⅰ（含喀痰等吸引） ※2	3年次前学期	永井貴士、河村章史、浅野莉沙、古田弥生	191
		作業療法特論Ⅱ ※2	3年次後学期	永井貴士、河村章史、浅野莉沙	193
		作業療法学総合演習Ⅰ（基礎）	3年次前学期	加藤清人、永井貴士、樅山貴子、花井弘和、中嶋淳士、船谷俊彰、古桧山健吾、田中裕士　他	195
		作業療法学総合演習Ⅱ（専門）	3年次後学期	加藤清人、河村章史、世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、浅野莉沙、井上忠俊、樅山貴子	197
	地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ（制度、支援、連携）	2年次後学期	永井貴士、井上忠俊	199
		地域作業療法学Ⅱ（実践、就労支援）	3年次前学期	加藤清人、井上忠俊、小森健司	201
		生活環境・福祉機器学	2年次後学期	井上忠俊	203
	臨床実習	臨床実習Ⅰ（基礎）	1年次後学期	加藤清人、河村章史、世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、浅野莉沙、井上忠俊、樅山貴子	205
		通所／訪問リハ実習 ※2	2年次前学期	加藤清人、河村章史、世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、井上忠俊、樅山貴子	207
		通所／訪問リハ実習セミナー ※2	2年次前学期	加藤清人、河村章史、世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、井上忠俊、樅山貴子	209
		評価実習前セミナー	2年次後学期	加藤清人、河村章史、世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、浅野莉沙、井上忠俊、樅山貴子	211
		臨床実習Ⅱ（評価）	2年次後学期	加藤清人、河村章史、世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、浅野莉沙、井上忠俊、樅山貴子	213
		作業療法総合セミナーⅠ（評価）	2年次後学期	加藤清人、河村章史、世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、浅野莉沙、井上忠俊、樅山貴子	215
		臨床実習Ⅲ（総合前期） ※1	3年次前学期	加藤清人、河村章史、世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、井上忠俊、樅山貴子	217
		臨床実習Ⅲ（総合前期） ※2	3年次前学期	加藤清人、河村章史、世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、浅野莉沙、井上忠俊、樅山貴子	219
		作業療法総合セミナーⅡ（評価と介入①）	3年次前学期	加藤清人、河村章史、世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、井上忠俊、樅山貴子	221
		臨床実習Ⅳ（総合後期） ※1	3年次後学期	加藤清人、河村章史、世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、浅野莉沙、井上忠俊、樅山貴子	223
		臨床実習Ⅳ（総合後期） ※2	3年次後学期	加藤清人、河村章史、世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、浅野莉沙、井上忠俊、樅山貴子	225
		作業療法総合セミナーⅢ(評価と介入②)	3年次後学期	加藤清人、河村章史、世良龍哉、永井貴士、竹中孝博、浅野莉沙、井上忠俊、樅山貴子	227

※1:2019年度以前入学生　　※2:2020年度以降入学生

リハビリテーション学科

作業療法専攻

教養教育科目

基礎教育科目

授業科目名		担当教員	
生物学		江村　正一	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 前学期	2単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)理学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)視機能ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)の達成に寄与している。			

授 業 概 要

すべての生物の基本構造である「細胞」についての理解をもとに、遺伝、発生、生命の進化と多様性などについて学び「生命」とは何かを考える。生物学で得た知識と理解が、将来、医療に携わるために修めなければならない、他の多くの科目の基礎となる。特に解剖学と生理学の学習にとって直接関係のある事象が多く出て来ますので、その部分については特に理解を深めてください。

学 修 の 到 達 目 標

①　細胞・組織・器官について説明できる。
②　遺伝・発生について説明できる。
③　進化・多様性について説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	細胞とその構造について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（120分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（120分）
2	細胞膜の構造と機能について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（120分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（120分）
3	細胞の増殖について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（120分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（120分）
4	遺伝情報とその伝達について	②			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（120分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（120分）
5	ヒトの遺伝と先天性異常について	②			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（120分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（120分）
6	生殖について	②			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（120分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（120分）
7	発生について	②			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（120分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（120分）
8	呼吸系・消化系について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（120分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（120分）
9	循環系・免疫系について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（120分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	神経系について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（120分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（120分）
11	内分泌系について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（120分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（120分）
12	生命の進化と多様性について	③			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（120分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（120分）
13	ヒトの起源と進化について	③			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（120分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（120分）
14	生物と環境について	③			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（120分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（120分）
15	人体の仕組みを学ぶことから生命とは何かを理解する	① ② ③			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（120分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（120分）
	定期試験（レポート）					

評価基準・評価方法
課題に対するレポート提出（100%）

使用教科書
系統看護学講座　生物学 / 高畑ほか.--第10版--医学書院, 2019年, ISBN978-4-260-03189-9

参考図書
適宜、参考資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	課題に対する模範となる記述を掲示するとともに、質問をメールでも受け付ける。 E-mail:s.emura@heisei-iryou.ac.jp
備考	

授業科目名		担当教員	
物理学		中村　琢	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択	1年 前学期	2単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)理学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)視機能ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)の達成に寄与している。			

授 業 概 要

この授業は物理学の様々な分野について短期間で概括的に学習するものである。特に看護やリハビリテーションなど医療・看護の職に就く際には物理学の知識は必須であり，本授業では現場で働く際に役に立つ物理学の原理，原則についても扱う。後半では放射線についても扱い，実習を含める。授業の形態は一方的な情報伝達でなく，オンライン上でグループワークなど，学習者の主体的な学び（アクティブラーニング）を取り入れる。

学 修 の 到 達 目 標

①物理学の学習内容について理解し，自分の言葉で説明できる。
②学習した内容を活用して計算，思考，探究することができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	物理学の基礎知識 第1回と第2回はパワーポイントで説明します。	①	中村		シラバスと教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
2	自然界の階層性 第1回と第2回はパワーポイントで説明します。	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
3	力学の基礎１ 第3回以降は黒板に板書します。	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
4	力学の基礎２	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
5	力学の基礎３	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
6	波動１	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
7	波動２	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
8	光と音の性質	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
9	電気と磁気	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	電流と電圧	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
11	原子と原子核	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
12	放射線の性質	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
13	放射線の利用と被ばく	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
14	放射線の測定	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
15	放射線被ばく防護	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(120分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(120分)
	定期試験　筆記					

評価基準・評価方法

知識・理解、思考・判断・表現、技能，関心・意欲・態度の観点を総合的に判断する。
定期試験（５０％），時間内レポート・課題（３０％），授業参加態度（２０％）

使用教科書

ここからスタート物理学 / 為近和彦.--裳華房，2018年，9784785322649
必ずしも教科書に沿って扱うわけではありません。学習者の実態に応じ授業中で使い方を説明します。

参考図書

自然科学の基礎としての物理学，原康夫，学術図書出版社，2014年，体系看護学　基礎科目　物理学，平田雅子，メヂカルフレンド社，2006年

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	レポートの総評を授業で説明する。レポート課題を出す前に，評価指標について詳しく説明します。
備考	１．オフィスアワー：講義終了後20分程度。電子メールでの質問に随時対応します。 ２．質問等：講義時間中や授業終了後に受け付けます。Zoomのチャット機能での質問にもできるだけ対応しますが，受講者数が多い場合は電子メールで問い合わせてください。 ３．電子メールアドレス：nakamura@gifu-u.ac.jp

授業科目名		担当教員	
化学		武藤　吉徳	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択	1年 前学期	2単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)理学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)視機能ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)の達成に寄与している。			

授 業 概 要

化学は「物質」を理解することを目的とする。医療技術に関わる多くの装置や薬品、そして人体など全てのものが物質で構成されているので、化学の知識は医療分野の基礎として非常に重要である。この講義では、化学の基礎的な内容を無機化学、有機化学の全般に亘ってなるべくわかり易く解説するよう努める。また、医療に関連する事項をできる限り多く取り上げて、専門科目への橋渡しとなるようにしたい。

学 修 の 到 達 目 標

①生体物質や医薬品を構成する元素や化学結合の特徴が理解できる。
②主要な有機化合物について、その構造や性質を説明できる。
③医療の場で出会う様々な物質、薬品について科学的特性を把握できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	物質の特性	①			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく（120分）	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く（120分）
2	原子と分子	①			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく（120分）	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く（120分）
3	化学結合	①			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく（120分）	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く（120分）
4	物質の三態・溶液とコロイド	①③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく（120分）	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く（120分）
5	塩化物	①③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく（120分）	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く（120分）
6	酸・アルカリ	①③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく（120分）	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く（120分）
7	無機化合物	①③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく（120分）	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く（120分）
8	放射性元素	①③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく（120分）	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く（120分）
9	有機化合物概要	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく（120分）	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脂肪族炭化水素	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく（120分）	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く（120分）
11	酸素、窒素を含む有機化合物	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく（120分）	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く（120分）
12	カルボン酸、その他	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく（120分）	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く（120分）
13	芳香族化合物	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく（120分）	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く（120分）
14	脂環・複素環化合物	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく（120分）	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く（120分）
15	生体物質	①			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく（120分）	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く（120分）
	定期試験　筆記					

評価基準・評価方法
評価基準：化学物質に関する知識・理解を重要視する。 定期試験（100%）

使用教科書
系統看護学講座基礎分野「化学」 / 奈良雅之.--第7版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03181-3

参考図書
舟橋弥益男・渡辺昭次　著　「炭素化合物の世界」東京教学社

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	提出されたレポートにコメントをつけて返却する。
備考	授業中に質問の時間を取るほか、質問紙による質問には、次回の授業時に回答する。

授業科目名		担当教員	
情報科学		福岡　大輔	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択	1年 後学期	2単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)理学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)視機能ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)の達成に寄与している。			

授 業 概 要

情報科学において基礎となるディジタル化とネットワークによる情報の蓄積・交換を中心として，情報社会のすがたを描きつつ情報システムやビックデータを活用した業務や生活の変革について検討する。さらに，医療分野をはじめとした情報通信技術や人工知能の活用について調査し，レポートやプレゼンテーションを作成する過程をとおして，問題解決に情報手段を活用するための情報活用能力を身につける。このために，本学が整備しているgoogleのclassroomをはじめとした各種サービスを利用する。

学 修 の 到 達 目 標

情報社会の特徴を理解し，将来の社会像や働き方，生活等を具体的に描いて論述できる。
② 情報手段を効果的に活用して協働学習を行い，課題解決を効果的に推進することができる。
③ 本学の提供するgoogle classroomをはじめとした各種サービスを活用する基礎技能を習得する。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	情報とコンピュータおよび通信ネットワーク，google classroomの利用	①③			配布資料を読み情報科学への理解を深める(120分)	配布資料を読みまとめる(120分)
2	Society 5.0が描く情報社会の現在と未来を知る	①			Society5.0について事前調査(120分)	Society5.0を説明できるようにまとめる(120分)
3	社会インフラにおけるデータ活用	①			社会インフラと情報技術について事前調査(120分)	社会インフラと情報技術についてまとめる(120分)
4	医療分野における情報化の進展	①			医療現場における情報システムについて事前調査(120分)	医療現場における情報システムについてまとめる(120分)
5	無線通信を活用するこれからの医療	①			医療現場における無線通信技術の活用について事前調査(120分)	専門用語の意味を説明できるようにまとめる(120分)
6	情報通信技術を活用したマルチアクセス環境におけるレポート作成(google ドキュメント利用)	②③			レポートのアウトライン作成(120分)	レポートの修正・加筆(120分)
7	情報通信技術を活用した共同作業によるプレゼンテーション作成(google プレゼンテーション利用)	②③			プレゼンテーションのアウトライン作成(120分)	プレゼンテーションの修正(120分)
8	情報通信技術を活用したこれからの医療に関する調査報告	①			調査報告の検討(120分)	調査報告の修正(120分)
9	進化する自動車関連技術	①			自動運転技術についての事前調査(120分)	専門用語を説明できるようにまとめる(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	人工知能の進展による社会の変化	①			人工知能の仕組みについて調査(120分)	専門用語の意味を説明できるようにまとめる(120分)
11	情報社会への備えに関する現状調査と課題設定	②			調査課題の事前検討(120分)	調査課題の再検討(120分)
12	情報社会への備えに関する調査項目の検討と調査フォームの作成(google Forms利用)	② ③			調査のアウトライン検討(120分)	レポートの修正・加筆(120分)
13	情報社会への備えに関する調査結果の集計とグラフ作成(google スプレッドシート利用)	② ③			調査結果のまとめ方の事前検討(120分)	専門用語の意味を説明できるようにまとめる(120分)
14	情報社会への備えに関するプレゼンテーションとハンズオンの作成(google ハングアウト利用)	② ③			プレゼンテーションのアウトライン作成(120分)	プレゼンテーションの修正(120分)
15	情報社会への備えに関する調査研究の報告	①			調査研究報告発表の検討(120分)	調査研究報告の修正(120分)
	レポート試験					

評価基準・評価方法

知識・理解は，授業中の対話状況，質疑応答等での評価と数回の小レポートで評価する。(30%)
② 情報手段の活用及び態度は，classroom利用状況，課題提出，成果物で評価する。(20%)
③ 思考・判断は，授業中の対話，レポートにおける論述における批判的思考に基づく論理展開の深さで評価する。(50%)

使用教科書

なし

参考図書

情報科学基礎-コンピュータとネットワークの基本，伊東俊彦，ムイスリ出版，2015，ISBN978-4-89641-235-2

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	授業では資料配布，課題提出・評価等はGoogle classroomを用いて実施し，教師と学生，学生相互のコミュニケーションに活用する。その内容はclassroom内で公開して共有する。
備考	授業時間以外にもコミュニケーションのためにclassroomへのアクセスが必要となる。

授業科目名		担当教員	
人間工学		山田　宏尚	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択	1年 前学期	2単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)理学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)視機能ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)の達成に寄与している。			

授 業 概 要

人間が普段無意識に行っている身体運動や生命維持活動は、筋肉・骨格・内臓・血管など身体の各部位に働く力やモーメントをはじめとした物理学的メカニズムによって成立している。本講義では、医療行為の具体例に基づいて、身体活動の物理学的なメカニズムを学習する。

学 修 の 到 達 目 標

① 人間の身体活動に関わる物理学の基礎を身につけることができる。
②物理的根拠に基づく治療行為を実践するための基礎を説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ガイダンス	①			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
2	重いものを持つにはどうしたらよいか（1）	①			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
3	重いものを持つにはどうしたらよいか（2）	① ②			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
4	看護ボディメカニクスの物理（1）	①			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
5	看護ボディメカニクスの物理（2）	① ②			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
6	身近な圧力（1）	①			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
7	身近な圧力（2）	① ②			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
8	呼吸器と吸引の物理（1）	①			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
9	呼吸器と吸引の物理（2）	① ②			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	点滴静脈内注射の物理（1）	①			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
11	点滴静脈内注射の物理（2）	① ②			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
12	循環器の物理（1）	①			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
13	循環器の物理（2）	① ②			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
14	感覚器の物理	① ②			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
15	体温制御の物理，総復習	① ②			指定教科書該当ページに目を通す（120分）	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
	定期試験　筆記					

評価基準・評価方法

・評価基準： 知識の修得度と計算能力（目標①）、応用的思考能力（目標②）
・評価方法： 定期試験（70%）、小テスト・宿題・授業態度（30%）で評価する。

使用教科書

看護学生のための物理学 / 佐藤和良.--第5版--医学書院，2014年，ISBN978-4-260-02051-0

参考図書

適宜紹介する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	提出された課題について全体の総評コメントを口頭にて公開する
備考	・毎回の授業で小テストを実施し、随時課題を課す。 ・オフィスアワー： 講義前後の時間に非常勤講師室で待機する。 ・質問： 講義中やオフィスアワーに直接、それ以外にメール（yamada@gifu-u.ac.jp）で随時受け付ける。

授業科目名		担当教員	
環境と人間		大藪　千穂	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択	1年 後学期	2単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)理学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)視機能ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)の達成に寄与している。			

授 業 概 要

資源・環境問題を解決し、持続可能な社会を構築することが、２１世紀最大の課題である。しかし、そのためのアプローチの方法は、まだ、見出されていない。この講義では、環境問題は人間の問題であるとの観点に立ち、環境と人間の関係を、生活と情報によってむすびつけ、環境問題を根本的にとらえなおし、環境問題の解決法を考え、持続可能な社会を展望する。また、人間の成長・発達や脳疾患のリハビリ等に対して、環境が果たす重要な役割を考察する。

学 修 の 到 達 目 標

①受講者ひとりひとりが、自分で問題解決の手がかりを、考え、見出すことができる。
②既存の考え方や方法にとらわれることなく、自分自身の考え方をもち、発展させることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	環境問題とは何か？	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
2	環境問題の原点、水俣病の問題を、生産、消費、環境から考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
3	家庭生活から環境問題の本質を探る。	①②①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
4	衣生活から環境を考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
5	食生活から環境を考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
6	簡易生ゴミ分解器を製作し、その活用法を考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
7	河川環境と人間の関係を考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
8	情報から環境と人間を考える。	①②①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
9	人間形成に対する情報と環境の意味を考える。	①②①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳障害者の発達、脳疾患のリハビリを、環境と情報の観点から捉えなおす。	②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
11	環境教育のあり方を考える。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
12	アーミッシュと現代社会を比較する。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
13	近代のライフスタイルを再考する。	②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
14	生態学の意味を考える。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
15	環境と情報から、持続可能な社会を展望する。	②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
	定期試験（レポート）					

評価基準・評価方法
評価基準は、知識・理解、思考・判断、授業態度の総合であるが、特に、各自のオリジナルな思考を重視する。 評価方法は、レポート（50%）、小レポート・小テスト（30%）、授業態度等（20%）による。

使用教科書
２１世紀の情報とライフスタイル / 杉原利治.--論創社, 2001年, ISBN978-4-8460-0261-9

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	毎回の授業では、開始時に、先回の授業で提出された小レポート数編をプリント配布し、それぞれの論点を評価し、それらを生かして授業を展開する。
備考	毎回の授業では、開始時に、先回の授業で提出された小レポート数編をプリント配布し、それぞれの論点を評価し、それらを生かして授業を展開する。

授業科目名		担当教員	
社会学		伊原　亮司	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択	1年 前学期	2単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)理学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)視機能ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)の達成に寄与している。			

授 業 概 要

この講義は、現代社会のあり方について学ぶ。なかでも、ほとんどの人にとって切実なテーマである＜働くこと＞に焦点をあてて、現代社会のあり方を理解する。わたしたちは、人生の早い段階から＜働くこと＞を意識させられ、その準備をするように煽られている。しかし、働く場の実態については無知なまま、耳に優しい言葉ばかりを聞かされる。本講義は、現代社会における労働の現実を理解し、自分たちの働き方を構想することを目的とする。医療関連の仕事に就く予定である受講者は、「就活」にはさほど困らないかもしれない。しかし、働き出してから、「いじめ」、「うつ病」、「過労死」といった様々な問題に直面する可能性がある。医療従事者は「感情労働者」ともいわれ、専門知識のみならず、コミュニケーションの仕方や感情の表出の仕方など、人格に関わる側面が重視される。感情労働に付随する問題点を理解し、「うつ病」や「過労死」から自分の身を守る術を習得して欲しい。

学 修 の 到 達 目 標

①現代社会における働く場の実態を理解できる
②その際に、いかなる視点から「現実」を切り取ればいいか、分析枠組みを理解することができる
③自分自身で職場の実態を捉えられるようになる
④＜働くこと>に対する自分のスタンスを考えることができる
⑤その際、狭義の「能力」の形成に励むだけでなく、自分の「身の守り方」にも留意することができる

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	イントロダクション－＜働くこと＞とは	②			テキストの「はじめに」と「おわりに」を読み、概要を理解する（120分）	講義を踏まえた上で、テキストの全体像をイメージする（120分）
2	従来の社会と働き方－「日本的経営」と「企業社会」	①②③			テキストの第一章を読み、概要を理解する（120分）	第一章を読み直し、ドラッカーの経営思想を復習する（120分）
3	労働社会の変容－学校、会社、家庭の関係	①③			テキストの第一章から、現代社会の変容の概要を理解する（120分）	戦後日本の労働社会の変容を自らたどる（120分）
4	働く場の実態Ⅰ－過労死・過労自殺	①③			テキストの第四章を読み、概要を理解する（120分）	テキストの第四章から、過労死と過労自殺の違いを復習する（120分）
5	組織や役割への過剰適応	④			テキストの第四章から、組織への「過剰適応」について頭に入れる（120分）	逸脱と過剰適応との違いを復習する（120分）
6	働く場の実態Ⅱ－「うつ病」	①③			テキストの第三章を読み、概要を理解する（120分）	第三章を読み直し、精神疾患と労働との関係を復習する（120分）
7	感情労働の特質	④			テキストの第三章から、「感情労働」の特徴をつかむ（120分）	肉体労働、知的労働との違いを理解する（120分）
8	働く場の実態Ⅲ－「ハラスメント」	①③			テキストの第二章を読み、概要を理解する（120分）	日産の事例を追いながら、いじめとハラスメントとの違いを理解する（120分）
9	経営合理化と過度のプレッシャー	④			テキストの第二章から、相互扶助と相互監視のメカニズムを理解する（120分）	職場における過度のプレッシャーが生じる理由を考える（120分）。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	働く場の実態Ⅳ－職場秩序の悪化	① ③			職場秩序の悪化のメカニズムについて、概要を理解する（120分）	現在の職場における「秩序」の崩壊理由を整理する（120分）
11	非正規雇用の増大	① ③			雇用規制の緩和と非正規雇用の増大の実態について理解する（120分）	非正規雇用が増大した契機・時期・理由を整理する（120分）
12	新しい働き方とは	① ④			テキストの第六章を読み、概要を理解する（120分）	「日本的経営」から新自由主義に基づく経営への推移を整理する（120分）
13	社会貢献という働き方	① ④			テキストの第七章を読み、概要を理解する（120分）	「社会貢献」の問題点について整理する（120分）
14	働くということを考え直す	④ ⑤			テキストの第七章を読み、＜働く＞ということを考え直す（120分）	賃労働とは何かを考え直す（120分）
15	労働を規制する、勤勉さを相対化する	④ ⑤			テキストの第八章を読み、概要を理解する（120分）	講義を踏まえた上で、自らの働き方を構想する（120分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法
授業への参加態度（20%）、レポート（20%）、テスト（60%）などから総合的に評価。

使用教科書
私たちはどのように働かさせるのか / 伊原亮司.--こぶし書房, ISBN978-4-87559-299-0

参考図書
講義中に適宜紹介する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	講義前に、予習時にわからなかったことを聞く。また、講義の最後に、理解が不十分な点を意見してもらう。
備考	

授業科目名		担当教員	
人間関係論		神戸　博一	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択	1年 前学期	2単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)理学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)視機能ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)の達成に寄与している。			

授 業 概 要

この講義では、日常生活や職場、家族、医療の現場などで起こる様々な人間関係について理解し、より良い人間関係を築くために学びます。まず人間関係の基本的な意義・視点から、職場での人間関係論、生涯にわたる人間発達と人間関係、更に人間関係を構成する自己と他者、人間関係の成立と維持、対立について学びます。次いで人間関係を円滑に進めるために、コミュニケーションの基礎・基本、マスコミ、インターネットなども学びます。なお、人間関係は、Human Relationなので、授業計画の中で、ＨＲと略して使います。

学 修 の 到 達 目 標

テキストの内容について、学生自身が考え、充分に理解し、そこから実践できるレベルを目標とします。
①人間関係の意義・視点について考えることができる。
②職場の人間関係と対処法について理解できる。
③生涯の人間発達と人間関係について知り、応用できる。
④人間関係の一方である自己が理解できる。
⑤他者が理解できる。
⑥人間関係が成立し、維持するルール、葛藤・対立への対処法を学び、実践できる。
⑦コミュニケーションの基礎、基本が理解できる。
⑧コミュニケーションの種類、その長短が理解できる。
⑨マスコミの基本、影響について理解できる。
⑩インターネットと人間関係について知る。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	シラバス（成績評価の試験、学習対策、成績評価の基準など）第１章人間関係の中の自己と他者　Ａ人間関係論とは	①			シラバス、①関係的存在としての人間、生理的早産について（120分）	身近なＨＲでは何があるか、生理的早産の意味とは何か（120分）
2	野生児について	①			フランスやインドの野生児と社会、ＨＲ（120分）	野生児の定義、特殊な「実験」の意味とその結果は（120分）
3	メーヨーのホーソン実験	②			②人間関係論のはじまりで、ホーソン実験の概要とインフォーマル論について（120分）	ホーソン実験のポイント、その結論とインフォームドコンセントとの関係（120分）
4	人間関係の発達　－　エリクソンの理論	③			③人間関係の発達で、その段階と課題、ＨＲを理解する（１２０分）	特に、乳児期、青年期、老年期について、子どもの虐待をデータからみる（120分）
5	B自己認知　－　自己概念	④			①自己概念で、文化の相違 ②関係的自己とは（120分）	鏡に映った自己とは西欧的自己と日本的自己との対比・比較（120分）
6	自己認知　＝　自己評価	④			③自己評価で、他者との比較の仕方 ④自己呈示の意味や目的、内面化（120分）	下方比較、上方比較の相違について（120分）
7	C 対人認知　－　印象形成、バイアス	⑤			①印象形成で、断片の情報と全体像との関係 ②バイアス、偏見について（120分）	ステレオタイプの具体例を挙げる　予言の自己成就とは（120分）
8	第２章　対人関係と役割　－　A　対人関係の成立	⑥			他者との関係が成立する魅力や好意の条件は６つあり、その内容を理解する（120分）	カメレオン効果、単純接触効果、錯誤帰属とは（120分）
9	B 対人関係の維持	⑥			①社会的交換で、対人関係を維持する条件の４つ　②私的利益と公的利益のジレンマ（120分）	社会的交換の４つのモデルにうち、どれが良いと考えるか　囚人のジレンマ（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	C 対人関係の葛藤と対処	⑥			①葛藤の分類で、その３つの水準　②認知のバイアス　③不合理な思考　④対処（120分）	原因帰属のバイアスとＨＲ，葛藤への対処法と有効性、燃え尽き症候群（120分）
11	第５章　A コミュニケーション　－　基本	⑦			①コミュニケーションの定義　②コミュニケーションの目標（120分）	コミュニケーションのモデルとは（120分）
12	B 対人コミュニケーション	⑦			①コミュニケーションの機能　②コミュニケーションのチャネル（120分）	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションの特徴と種類（120分）
13	コミュニケーションの種類　－　メリット・デメリット	⑧			③口頭と書面の相違　④コンテクストと文化（120分）	高コンテクストと低コンテクストの比較、医療のコンテクスト（120分）
14	C マスコミュニケーション　－　影響・効果	⑨			①映像メディアと活字メディア　②マスメディアの効果（120分）	マスメディアの効果についての研究の変化（120分）
15	D ＩＣＴの発達とコミュニケーション	⑩			①インターネットや②ＳＮＳの利用状況、注意点　③人間関係への影響（120分）	ＳＮＳ利用するさいの注意点、最近の社会問題について（120分）
	定期試験　筆記					

評価基準・評価方法

持ち込み物なしの筆記試験（100%）学んだことの理解、記憶、表現力などが評価されます。ただし、新学期の社会環境によっては、オンライン授業（資料配付）に切り替え、提出課題の点数化による評価に変えます。

使用教科書

系統看護学講座基礎分野　人間関係論 / 石川ひろの　他.--第3版--医学書院，2018年，ISBN978-4-260-03170-7

参考図書

特に指摘しない。教科書の章ごとに、その最後に「参考文献」一覧が提示されているので、必要に応じ、利用する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	講義がある程度進展した段階で小テスト（１０分ぐらい）を予告し、実施します。この小テストは、持ち込みなしで実施し、次回以降の授業で小テストの答案を返却します。解答の状況、正解や解答のポイントなどについてコメント、解説します。オンライン授業になった場合は、メールでやり取りします。jiemon13@outlook.jp
備考	教科書『系統看護学講座　基礎分野　人間関係論』（石川ひろの編）を利用し、特にその第１章と第２章、第５章を学びます。授業の前後の時間帯に非常勤講師室を訪問することをお勧めします。１年後期「コミュニケーション学」がありますが、本講義と内容的なかかわりが強く、「事前学習」と位置付けられるでしょう。

授業科目名		担当教員	
ボランティア論		益川　優子	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択	1年 前学期	2単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)理学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)視機能ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)の達成に寄与している。			

授 業 概 要

本講義においては、1990年代中頃より日本社会に普及・定着したボランティア活動について、普及・定着の社会的背景、ボランティア活動がボランティア本人にもつ意味・意義、ボランティア活動が社会にもつ意味・意義、そしてボランティア活動によって切り拓かれる新たな社会のあり方等について概括的認識を得るとともに、そうした認識に基づいて現代社会の諸問題・課題の解決に主体的・能動的に参画しようとする、ボランティアとしての態度・心構えを形成することを目標とする。

学 修 の 到 達 目 標

①ボランティア活動の定義について歴史的背景を踏まえながら説明できる。
②ボランティア活動の意義と社会的役割について説明できる。
③ボランティア活動を支援する意味とボランティ活動支援専門機関の役割について理解し、説明することができる。
④ボランティア活動を通じて社会に参画しようとする主体的・能動的な態度・心構えが形成されている。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ボランティアとは何か	①			自身の持つ「ボランティア」という言葉に関するイメージをノートに列挙してくる。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
2	ボランティアにかかわる思想と歴史の変遷	①			ボランタリズム、利他主義、ボランタリー・アクションという言葉について調べておく。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
3	ボランティア活動の現状と課題	① ②			NPO法人の活動分野、認定NPO法人制度について調べておく。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
4	ボランティアと現代社会	① ② ④			自己実現、ボランタリーセクターについて調べておく。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
5	日本におけるボランティアの普及・推進の歩み	① ② ③			COS、セツルメント運動について調べておく。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
6	ボランティアに期待される社会的役割	② ③			ノーマライゼーション理念、ソーシャル・アクションについて調べておく。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
7	地域社会のボランティア	② ③ ④			ボランティアセンター、ソーシャル・インクルージョンについて調べておく。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
8	環境とボランティア	② ③ ④			ボランティアセンター、ソーシャル・インクルージョンについて調べておく。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
9	災害ボランティア	② ③ ④			東日本大震災等の大規模災害において、被災者の生活復興に関する課題を調べる。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	国際ボランティア	② ③ ④			NGO、シンパシーとエンパシーについて調べておく。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
11	ボランティア学習	② ③ ④			生涯学習、ESDについて調べておく。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
12	ボランティア活動支援とボランティアコーディネーター	③			JVCAについて調べておく。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
13	ボランティア組織の運営	③			OJT、Off-JT、SDの違いについて調べておく。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
14	ボランティアの可能性と展望	④			ボランタリズムとボランタリズムの逆説について考察してくる。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
15	ボランティア活動と自分	④			これまでの学習を踏まえ、自身にとってのボランティアの意義と社会的役割について考察してくる。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
	定期試験（レポート）					

評価基準・評価方法
受講態度（時間内レポートを含む）30%、レポート70%

使用教科書
なし

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	※授業時間内で作成して頂いた小レポートは、コメントをつけて返却いたします。 ※学期末レポートについては、全体の総評コメントを掲示にて公開いたします。
備考	質問等ございましたら授業終了後、気軽に声をかけてください。

授業科目名		担当教員	
哲学		竹内　章郎	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択	1年 後学期	2単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)理学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)視機能ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)の達成に寄与している。			

授 業 概 要

自由・平等・友愛（共同性）は、近代社会全般の基礎とされるが、この講義では、自由と共同性との関連も重視しながら、平等とはいかなることかの解明を中心に、格差や不平等が広まる現実を根本から（ラディカルに）理解することを目指したい。近代思想史や哲学史の理解も、そのための手段であるという位置づけで、講義をしたいと考えている。

学 修 の 到 達 目 標

①大きな問題を根本から考える姿勢を身に付けるために、抽象度の高い言葉を理解しこれをある程度使えるようにする。
②近代思想・近代哲学の基本を一定程度理解できる。
③現代社会の課題の基本を捉える姿勢を身に付ける。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ガイダンス（全体の進行について、資料の使い方など）	①			資料の前書きの熟読（120分）	講義内容の復習（120分）
2	現代において平等を問うことの意味＜教科書ⅲ～ⅶ頁＞	③			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
3	平等はなぜ避難されることが多いのか？　平等の根本的定義(1)＜教科書1～14頁＞	①			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
4	平等はなぜ避難されることが多いのか？　平等の根本的定義(2)＜教科書14～31頁＞	① ③			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
5	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(1)＜教科書33～44頁＞	②			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
6	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(2)＜教科書44～54頁＞	②			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
7	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(3)＜教科書54～68頁＞	②			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
8	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(4)＜教科書～68頁＞	②			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
9	悪平等はなぜうまれたのか？　伝統的平等論の意義と問題(1)＜教科書69～93頁＞	①			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	悪平等はなぜうまれたのか？　伝統的平等論の意義と問題(2)＜教科書93～117頁＞	①			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
11	新たな能力論的平等論と新たな機会平等論(1)＜教科書119～143頁＞	① ③			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
12	新たな能力論的平等論と新たな機会平等論(2)＜教科書143～166頁＞	① ③			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
13	新たな平等論の体系の構築に向けて(1)＜教科書　167～185頁＞	① ③			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
14	新たな平等論の体系の構築に向けて(2)＜教科書185～200頁＞	① ③			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
15	新たな平等論の体系の構築に向けて(3)＜教科書200～215頁＞	① ②			左記該当箇所の熟読（120分）	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習（120分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法
授業への取り組みと定期試験の結果による。

使用教科書
使用しない（講義に先立って、講義全体に関する資料を配布する。）

参考図書
必要に応じて講義中に紹介する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	講義について、適宜配布する質問用紙に記入してもらう内容に、その都度応答する。
備考	

授業科目名		担当教員	
教育学		益川　優子	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択	1年 後学期	2単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)理学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)視機能ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)の達成に寄与している。			

授 業 概 要

本講義は、人間が生き、成長・発達していく上で教育がどのような意義を持ち、社会においてどのような役割をはたすのかについて考察していきます。また、教育をとりまく現代の諸問題を多面的に捉えつつ、教育という営みの現代的意義についても考察していきます。

学 修 の 到 達 目 標

①教育の概念と機能、その役割について説明できる。
②人間の生涯発達理論について説明できる。
③他者とのかかわりを導く技法を使うことができる。
④現代の教育と教育を取り巻く諸問題について自分の考えを持つことができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	教育の概念	①			自身の持つ「教育」という言葉に関するイメージをノートに列挙してくる。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
2	学ぶということ・教えるということ	①			第１回の授業内で指示する。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
3	生涯発達理論①乳児期～幼児期	②			第２回の授業内で指示する。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
4	生涯発達理論②児童期～青年期	②			第３回の授業内で指示する。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
5	生涯発達理論③成人期～老年期	②			第４回の授業内で指示する。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
6	教育の営みと教育を取り巻く諸問題	①④			第５回の授業内で指示する。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
7	他者とのかかわり	③			第６回の授業内で指示する。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
8	他者とのかかわりを導く技法	③			第７回の授業内で指示する。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
9	教育の目標と評価	①			第８回の授業内で指示する。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	教育のデザイン	①			第９回の授業内で指示する。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
11	キャリア教育	④			第１０回の授業内で指示する。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
12	ジェンダーとセクシュアリティ	④			第１１回の授業内で指示する。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
13	特別ニーズ教育・インクルーシヴ教育	④			第１２回の授業内で指示する。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
14	生涯教育	④			第１３回の授業内で指示する。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
15	シティズンシップ教育	④			第１４回の授業内で指示する。（120分）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。（120分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法
受講態度30％、定期試験70％

使用教科書
なし

参考図書
適宜紹介いたします。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	※定期試験については、全体の総評コメントを掲示にて公開いたします。
備考	質問等ございましたら授業終了後、気軽に声をかけてください。

授業科目名		担当教員	
心理学		大井　修三	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択	1年 後学期	2単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)理学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)視機能ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)の達成に寄与している。			

授 業 概 要

心理学を正しく理解していると、人と人が関わるところでは、相手の理解に強力な武器となる。なぜなら、①心理学は他者理解の学問だからである。医療従事者と患者さん、医療従事者同士、日常の人間関係など。しかし、「心理学」という言葉は知っていても、心理学を正しく理解している人はなかなかいない。それは、心理学をきちんと勉強した人がなかなかいないということである（授業１）。そこで本授業では、　相手の心を理解するということはどういうことか（授業 2，3，4，5，6，7）、③一人一人違うということはどういうことか（授業 8，9，10，11）、④相手に目的に向かって動いてもらうということはどういうことか（授業 12，13，14，15）、の３点を中心に、医療現場で他者との関係をうまく成立させることに役に立つ心理学の話をする。なるべく日常の状況に合わせた事例を紹介しながら、他者理解に必要な視点を育む。

学 修 の 到 達 目 標

これらの授業を通して、①相手の「心」を直接把握することができないこと、②相手の「心」は推測でしか扱えないこと、③同じ状況でも人によって違う心が推測されうること、④自分の心を相手にわかってもらうためには推測し易い情報を提供しなければならないこと、その上で相手との人間関係を考えなければいけないことを理解して、人間関係に活用することができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	イントロダクション：「行動」を説明する「心」：授業の概要、評価の方法	①			テキストのイントロダクションを読み、PPW資料の該当部分を考える。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
2	「心」を知る方法：直接覗くことはできない「心」	①			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
3	「心」を知る方法：「行動」から「心」を推測する	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
4	「心」を知る方法：「心」の推測には行動と刺激の情報が必要	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
5	「相手の心」は私の中に出来上がる：相手の「心」は主観的解釈	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
6	我々の理解とは？：現象の主観的な理解	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
7	科学的学問としての心理学:主観性と客観性	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
8	心理学の中心テーマ：個人差	③			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
9	個人差を規定する要因１：遺伝	③			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	個人差を規定する要因２：環境	③			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
11	個人差を規定する要因３：遺伝と環境の相互作用	③			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
12	要求・動因・行動とフロイト理論	④			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
13	行動を出現させるもの：動因と誘因	④			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
14	動機づけの機能	④			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
15	要求の生得性と習得性	④			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。（120分）	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。（120分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法

評価は、毎回授業で紹介される内容を理解し、自らの身近な事象に利用できるようになっているかで見る。
そのための参考資料は、試験結果（90%）、毎回の授業で提出するコミュニケーションカード（10%）である。

使用教科書

教科書は特に用いない。
（授業に必要な資料は、授業開始時及び時間中に配付する。）

参考図書

適宜、紹介する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	毎回の授業の終わりにコミュニケーションカードを提出してもらう。ここには授業内容のまとめと同時に授業中に解決できなかった質問も書いてよい。その質問には、翌授業回で解説する。
備考	

授業科目名		担当教員	
生命倫理学		谷口　泰弘	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	2単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)理学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)作業方ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)の達成に寄与している。			

授 業 概 要

バイオエシックス（生命倫理学）の基礎的な事項を学ぶ。現代の医療においては医師だけではなく、多くの医療に関係する職種が協力し、チーム医療を担っている。それぞれの職種に高い倫理観が求められている。
本講義では、バイオエシックスに係る歴史的背景から最新の医療に関する倫理的問題群にいたるまで、デジタル教材を活用しながら講義形式で分かり易く解説する。

学 修 の 到 達 目 標

医療専門職に不可欠な倫理観を身につけるため、バイオエシックスに係る問題群について、倫理的・法的・社会的問題として捉え、思考し行動に移せる能力を修得する。
①バイオエシックスの歴史的背景等から、人間の尊厳を理解する。
②講義の各論から、医療に係る倫理的問題の本質を見極め、立場の違いを理解したうえで、解決に向けた多角的な思考ができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	バイオエシックス総論①（ガイダンス、基礎概念）	①	谷口	講義	予習（120分） 教科書第1章前半部分	復習（120分） 教科書第1章前半部分と配布資料
2	バイオエシックス総論②（歴史的背景WWⅡ以前）	①	谷口	講義	予習（120分） 教科書第1章後半部分	復習（120分） 教科書第1章後半部分と配布資料
3	バイオエシックス総論③（歴史的背景WWⅡ以後）	①	谷口	講義	予習（120分） 教科書第2章前半部分	復習（120分） 教科書第2章前半部分と配布資料
4	自己決定と人間の尊厳（インフォームド・コンセント）	①	谷口	講義	予習（120分） 教科書第3章部分	復習（120分） 教科書第3章部分と配布資料
5	倫理理論の考え方（応用倫理学からのアプローチ）	①	谷口	講義	予習（120分） 教科書第2章後半部分	復習（120分） 教科書第2章後半部分と配布資料
6	生殖補助医療の問題①（人工授精、体外受精、代理母）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第4章前半部分	復習（120分） 教科書第4章前半部分と配布資料
7	生殖補助医療の問題②（出生前診断、着床前診断、人工妊娠中絶）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第4章後半部分	復習（120分） 教科書第4章後半部分と配布資料
8	遺伝子をめぐる問題（ヒトゲノムの利用、遺伝子特許、個人情報、エンハンスメント）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第5章部分	復習（120分） 教科書第5章部分と配布資料
9	ライフサイエンス研究をめぐる問題（再生医療、ヒトES細胞研究、ヒトiPS細胞研究）	②	谷口	講義	予習（120分） 再生医療に関する倫理的問題を調べる	復習（120分） 配布資料を復習する

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳死・臓器移植をめぐる問題（脳死の定義、臓器移植法、移植システム）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第6章部分	復習（120分） 教科書第6章部分と配布資料
11	終末期をめぐる問題①（尊厳死、安楽死）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第7章前半部分	復習（120分） 教科書第7章前半部分と配布資料
12	終末期をめぐる問題②（治療中止、鎮静、緩和医療）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第7章後半部分	復習（120分） 教科書第7章後半部分と配布資料
13	医療と法律（医療事故関係、医療契約）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第14章部分	復習（120分） 教科書第14章部分と配布資料
14	広義のバイオエシックス（動物倫理、環境倫理）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第10章部分	復習（120分） 教科書第10章部分と配布資料
15	研究をめぐる倫理（研究不正、倫理委員会、オーサーシップ、利益相反等）	②	谷口	講義	予習（120分） 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を予め調べる	復習（120分） 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を復習する
	定期試験（筆記）	① ②	谷口	試験		

評価基準・評価方法

評価基準は、知識・理解および思考とする。その評価方法は、定期試験を実施して評価する（80%）
ミニレポート等の提出物の内容も評価に入れる（20%）

使用教科書

生命倫理・医事法 / 塚田敬義ほか.--改訂版--医療科学社, 2018年, ISBN978-4-86003-497-9

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	実施する定期試験およびミニレポートについては、総評を掲示する。
備考	適宜、補足資料を配布し、理解が深まるよう講義する。 特段、オフィスアワーは設けないが、講義終了後に教室に残り質問等について対応する（この時間を活用してください）。

授業科目名		担当教員	
基礎演習		樅山　貴子・加藤　清人・河村　章史・世良　龍哉　(代表教員　樅山　貴子)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3) の達成に寄与している。		樅山 貴子（作業療法士）・加藤 清人（作業療法士）・河村 章史（作業療法士）・世良 龍哉（作業療法士）	

授 業 概 要

学内ルールや学習方法、レポートの書き方、プレゼンテーション、社会的ルール、マナーなどについて学ぶ。
特に、学習方法に関する演習では、医療従事者に求められる知識・技術を修得するための基盤づくりを行い、学習習慣の定着につなげる。 演習方法は、グループワークを基本とし、シェア学習を通してルールやマナー、コミュニケーションに関してその実践を経験する。
プ討論、プレゼンテーションのスキルを向上させ、他者の意見を傾聴し自身の意見を発信できる。

学 修 の 到 達 目 標

①学校生活を送る上でのルールやマナーを理解し実践できる。
②社会人・医療職として求められる常識、ルール、マナーなどを習得し、遂行できる。
③グループ討論、プレゼンテーションのスキルを向上させ、他者の意見を傾聴し自身の意見を発信できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション、学内生活の過ごし方	①②③	加藤	講義	入学前に習得した一般常識・マナーについてまとめる（30分）	提示された行動・対応を学内で実践する（30分）
2	学習方法のオリエンテーション	③	樅山	演習	第1回で提示された課題に取り組む（30分）	提示された学習方法を実践する（30分）
3	単語学習	③	樅山	演習	使用教科書に全体的に目を通しておく（30分）	単語学習を実践する（30分）
4	整理ノート学習	③	樅山	演習	単語学習を実践する（30分）	整理ノートを作成する（30分）
5	個別学習（１）	③	全担当教員	演習	単語学習・整理ノート作成（30分）	単語学習・整理ノート作成（30分）
6	個別学習（２）	③	全担当教員	演習	単語学習・整理ノート作成（30分）	単語学習・整理ノート作成（30分）
7	レポートの書き方	①②③	樅山	演習	単語学習・整理ノート作成（30分）	提示されたレポート課題（30分）
8	グループ演習のオリエンテーション	①②③	樅山	演習	提示されたレポート課題（30分）	グループ演習の実践（30分）
9	第1試行	③	全担当教員	演習	グループ演習の実践（30分）	第1試行の振り返り（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	調べ学習の演習（1）	① ② ③	全担当教員	演習	第1施行の復習 (30分)	調べ学習の実践 (30分)
11	調べ学習の演習（2）	① ② ③	全担当教員	演習	調べ学習の実践 (30分)	調べ学習の実践 (30分)
12	シェア学習（1）	① ② ③	全担当教員	演習	調べ学習の実践 (30分)	シェア学習の実践 (30分)
13	シェア学習（2）	① ② ③	全担当教員	演習	シェア学習の実践 (30分)	シェア学習の実践 (30分)
14	シェア学習（3）	① ② ③	全担当教員	演習	シェア学習の実践 (30分)	シェア学習の実践 (30分)
15	第2試行	③	全担当教員	演習	シェア学習の実践 (30分)	第2試行の振り返り (30分)
16						

評価基準・評価方法

受講態度及びグループワークへの貢献度（20%）、課題(80%)で評価・判定する。

使用教科書

PT・OT　国家試験共通問題頻出キーワード1800 / 中島雅美/中島喜代彦.--南江堂, ISBN978-4-524-26895-5
PT・OT　基礎から学ぶ解剖学ノート / 中島雅美.--第3版--医歯薬出版, ISBN978-4-263-21675-0
PT・OT　基礎から学ぶ生理学ノート / 中島雅美.--第3版--医歯薬出版, ISBN978-4-263-26551-2
PT・OT　基礎から学ぶ運動学ノート　 / 中島雅美/中島喜代彦.--第3版--医歯薬出版, ISBN978-4-263-21738-2

参考図書

杉原素子編：作業療法学全書［改訂第3版］第１巻
作業療法概論（共同医書出版社）

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	演習内ないし演習終了後にフィードバックの時間を設ける
備考	演習内で質問の時間を設ける。また演習外でも適宜メール等で質問を受け付ける。

授業科目名		担当教員	
文章表現法		弓削　繁	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)理学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)視機能ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)の達成に寄与している。			

授 業 概 要

将来医療や介護等の世界で働く者にとっては、患者やスタッフ等とのコミュニケーション力や文章作成力がきわめて大切なものになってくる。そこでこの講義では、自らの国語力を知り基礎学力を高めるために毎回初めに小テストを行う。そして次に教科書に沿って文章表現の基礎を学び、手紙文・公用文・作文・論説文・レポートなどの書き方を実践的に身につけていく。

学 修 の 到 達 目 標

①豊かな国語力を身につけ、場面や状況に応じた適切なコミュニケーションができる。
②自分の意見や考えを的確な文章にして表現することができる。
③専門科目で求められるレポートや、社会人・職業人に必要な種々の文章を作成することができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	講義の内容と方法についての説明と、ことばの機能に関する概説。以下、毎回小テストを行い、自己採点する。	①			シラバスと教科書に目を通し、授業の意図・内容を理解しておく。（60分）	言葉の機能を存在・認識というキーワードから考え、その大切さを理解する。（100分）
2	文章表現の基礎知識～原稿用紙の使い方	②③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いて来る。（60分）	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。（100分）
3	文章を書く時の注意点～悪文の類型とその直し方	①②			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いて来る。（60分）	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。（100分）
4	文章を書く時の注意点～間違った言葉遣い、表現	①②			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いて来る。（60分）	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。（100分）
5	レポート・小論文の様式～頭書き・本文・注記・文献の引用など	②③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いて来る。（60分）	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。（100分）
6	レポート・小論文の用語と文体～話し言葉と書き言葉、常体と敬体、など	②③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いて来る。（60分）	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。（100分）
7	論理的な文章構成～帰納法と演繹法、頭括法と尾括法、三段構成と四段構成など	②③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いて来る。（60分）	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。（100分）
8	作文もしくは小論文を書く～授業前半の総括として	②③			作文・小論文の表題と文章構成を考えて来る。（120分）	作文・小論文を書き上げ、推敲する。（180分）
9	敬語の基礎～敬語の種類と用法	①			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いておく。（60分）	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。（100分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	敬語使用上の注意点～相手との関係性と場面性	①			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いておく。（60分）	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。（100分）
11	手紙の種類と様式～頭語と結語、前文・本文・末文など	① ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いておく。（60分）	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。（100分）
12	手紙文の作成～礼状・挨拶状を書く	① ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いておく。（60分）	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。（100分）
13	公用文の種類と様式～案内状・会議録などを書く	① ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いておく。（60分）	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。（100分）
14	就職関係文書の書き方～履歴書・エントリーシートなど	② ③			教科書の該当ページに目を通し、設問を解いておく。（60分）	小テストの知識を確かなものにするとともに、授業内容を復習する。（100分）
15	社会問題をテーマにした小論文の作成～授業全体の総括として	② ③			課題テーマの資料・データを収集し、文章構成を考えて来る。（140分）	小論文を書き上げ、推敲する。（180分）
	定期試験　筆記試験（小テスト・教科書からの基礎問題と、課題テーマについての論述問題）					

評価基準・評価方法

小テスト（学習態度と基礎学力を評価）20%、提出課題（学習意欲と文章表現力を評価）20%、定期試験（総合的な国語力と文章作成力を評価）60%。
なお、定期試験は直前の勉強では対応しきれないので、日々の学習を怠らないこと。

使用教科書

日本語表現法-２１世紀を生きる社会人のたしなみ / 庄司達也ほか.--改訂第２版--翰林書房　，2016年，ISBN978-4-87740-316-0

参考図書

必要に応じて講義中に紹介する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	毎回実施する小テストは真面目に取り組んだか否かを評価して返却（オンライン授業の場合は何回か分をまとめて正解プリントを配布）、作文・レポート課題については問題点をいくつかに整理して、文章作成の勘所を教示する。
備考	教科書には提出用の原稿用紙が綴じ込まれているので忘れずに持ってくること。質問は随時受付けますが、学習相談などは月・火・水の授業時間前後に対応します。気軽に声をかけてください。

授業科目名		担当教員	
コミュニケーション学		近藤　ひろえ	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)理学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)視機能ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)の達成に寄与している。		近藤ひろえ（人材育成研修講師）自治体・企業・大学など含めコンスタントに年間、100件以上の研修を行う。日本認知療法学会正会員、産業カウンセラー、キャリア・コンサルタント、メンタルヘルスマネジメント検定、心理相談専門員、NLPプラクティショナー資格、など資格多数	

授 業 概 要

・コミュニケーションの重要性を理解する。
・自分自身のコミュニケーションのスキルについて深く振り返り、医療現場において、患者さん・医療スタッフとの間でよりよい人間関係を構築するための具体的なコミュニケーション能力を身につける。
・グループディスカッション、ペアワークなど体験、実践を中心とした講義を行う。

学 修 の 到 達 目 標

①非言語コミュニケーションの重要性を理解し、実践できる
②年代が違う人への挨拶、返事など、日常的なコミュニケーションができる
③自分の気持ち・考えなどを明確に相手に伝えることができる
④相手の言葉の背景にある気持ちや考えを想像しコミュニケーションすることができる
⑤医療現場におけるコミュニケーションの重要性と求められているスキルを学ぶ

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	・この授業の目的・到達目標について知る ・コミュニケーションの重要性とトレーニング方法について学ぶ	①②③④⑤				授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
2	・医療現場でのコミュニケーションの重要性を学ぶ ・医療スタッフと患者さんとのギャップについて学ぶ	④⑤			医療現場でのコミュニケーションの重要瀬について考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
3	・コミュニケーションスキルを知っていてもなぜ使えないのか、その仕組みについて学ぶ ・相手の気持ちを受けとめるための柔軟な考え方にする方法を学ぶ	①②③④⑤			日常生活でどんなつぶやきをしているかをまとめてくる(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
4	非言語情報の重要性を学び、初対面の人や環境が違う人とどのようにコミュニケーションを始めればよいかを学ぶ	①②⑤			自分は初対面の人とどのようにコミュニケーションをとっているか考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
5	相手の本当に伝えたいことを受けとめるための聴き方について学ぶ	②④⑤			自分は普段どのような聴き方をしているか考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
6	前回の授業で学んだことをケーススタディを通じて実践し、自分の身につける	②④⑤			どんな場面で聴き方の種類を発揮しているか考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
7	コミュニケーションに欠かせない他者への興味・関心力の重要性を知り、興味・関心を示すことができるような質問力について学ぶ	①②③④⑤			初対面の人と会話するときに困っていることを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
8	前回の授業で学んだことをロールプレイングを通じて実践し、自分の身につける	①②③④⑤			前回の授業のスキルを実践して気づいたことをまとめる(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
9	なぜミスコミュニケーションが起こるのか、仕組みを学ぶ。どのように説明することが必要かを学ぶ	③			自分の伝えるスキルで改善したいところを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	前回の授業の続きとして、具体的な伝え方のスキルを体験しながら学ぶ	③			学科の説明を1分間にまとめて発表できるようにする(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
11	前回の授業の続きとして、実際に説明する場面を想定してロールプレイングをする。自分の良い点や今後の課題を見つける	③			プレゼンの練習をしてくる（60分）	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
12	自分の気持ちを伝える、相手に言いにくいことを伝える時の表現方法を学ぶ	③ ⑤			言いにくいことを相手に伝える場合、自分はどのような伝え方をしているか考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
13	医療スタッフとして知っておかなければならない、敬語・クッション言葉などの接遇用語を学ぶ	② ③ ④ ⑤			敬語・接遇表現で知りたいことを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
14	今まで学んできたことを医療場面のケーススタディを考えることで復習する	① ② ③ ④ ⑤			今までの授業を振り返って、質問したいことを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
15	今まで学んできたことを医療場面のケーススタディを考えることで復習する	① ② ③ ④ ⑤			今までの授業を振り返って、質問したいことを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
	定期試験　無し					

評価基準・評価方法

・授業態度（授業への関わり方）　60%
・レポートの内容（複数回レポート提出）　40%

使用教科書

コミュニケーション学　ワークブック　2021年版 / 近藤ひろえ.--非売品,

参考図書

・授業の進行に伴って、その都度紹介する。
・適宜、教材として使用するプリントなども配付する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	・コメント、口頭でフィードバック
備考	・自分のコミュニケーションの問題・悩みなどなんでもいいので課題をもって授業に臨んでください。 ・Eメールアドレスは、初回講義時間内にお知らせします。

授業科目名		担当教員	
英語Ⅰ（教養英語）		長尾　裕子	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)視機能ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)の達成に寄与している。			

授 業 概 要

本講義では英語の読解能力を向上させることをねらいとする。身近なトピックスを題材を使ったテキストを使用し、英語の語彙、語法、表現等を学ぶことにより大学レベルの読解力を養うことを目指します。

学 修 の 到 達 目 標

辞書を引くことにより　インターネットなどで英語検索をした文章が読めたり、自分の分野の論文が読めるようになる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション					
2	Fringe Science				前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
3	Indie Films				前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（30分）
4	Nuclear Power				前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（30分）
5	The World Cup				前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（30分）
6	Cloud Computing				前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（30分）
7	Centeneraries				前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（30分）
8	Mardi Gras				前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（30分）
9	Medical Tourism				前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	How safe are cell phones?				前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（30分）
11	Kickstarter				前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（30分）
12	Juresalem				前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（30分）
13	The Serengeti				前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（30分）
14	Fair Trade				前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（30分）
15	Mobile Apps				前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	今までに学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（60分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法
授業参加度４０％、筆記試験６０％を総合的に判断する

使用教科書
Reading Pass Intro / Andrew E.Benett.--南雲堂, ISBN978-4-523-17720-3

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	課題に関して、授業の中で教員と学生がディスカッションを行う。試験に関しても質問に応じる。
備考	

授業科目名		担当教員	
英語Ⅱ（日常英会話）C		長尾　裕子	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択	1年 後学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)視機能ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)の達成に寄与している。			

授 業 概 要

本講義は英語のコミュニケーション能力を高めるための授業で、英会話能力を養うことを目的とする。身近で起こることを英語で表現したり、ペアで会話練習をしたりすることにより、英語で話すことの楽しさを味わえるようにしたいと思います。

学 修 の 到 達 目 標

友達と簡単な会話が英語ででき、英語の質問に即答できるようになる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	I’m a student.　Self Introduction				教科書を読んで　内容を理解し声に出してよんでくること（30分）	学習したことを復習し、会話練習をする（30分）
2	What’ your phone number?				教科書を読んで　内容を理解し声に出してよんでくること（30分）	学習したことを復習し、会話練習をする（30分）
3	That’s my wallet.				教科書を読んで　内容を理解し声に出してよんでくること（30分）	学習したことを復習し、会話練習をする（30分）
4	Review				教科書を読んで　内容を理解し声に出してよんでくること（30分）	学習したことを復習し、会話練習をする（30分）
5	Do you like hip hop?				教科書を読んで　内容を理解し声に出してよんでくること（30分）	学習したことを復習し、会話練習をする（30分）
6	What do you do for fun?				教科書を読んで　内容を理解し声に出してよんでくること（30分）	学習したことを復習し、会話練習をする（30分）
7	Can you play the guitar?				教科書を読んで　内容を理解し声に出してよんでくること（30分）	学習したことを復習し、会話練習をする（30分）
8	Review				教科書を読んで　内容を理解し声に出してよんでくること（30分）	学習したことを復習し、会話練習をする（30分）
9	What’s she wearing?				教科書を読んで　内容を理解し声に出してよんでくること（30分）	学習したことを復習し、会話練習をする（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	Are there any windows?				教科書を読んで　内容を理解し声に出してよんでくること（30分）	学習したことを復習し、会話練習をする（30分）
11	The bank is on the corner.				教科書を読んで　内容を理解し声に出してよんでくること（30分）	学習したことを復習し、会話練習をする（30分）
12	Review				教科書を読んで　内容を理解し声に出してよんでくること（30分）	学習したことを復習し、会話練習をする（30分）
13	Do we have any milk?				教科書を読んで　内容を理解し声に出してよんでくること（30分）	学習したことを復習し、会話練習をする（30分）
14	Where were you yesterday?				教科書を読んで　内容を理解し声に出してよんでくること（30分）	”学習したことを復習し、会話練習をする（30分）
15	What did you do?　Review				教科書を読んで　内容を理解し声に出してよんでくること（30分）	学習したことを復習し、会話練習をする（30分）
	定期試験（口頭試問）					

評価基準・評価方法
授業中の応答40％、口頭試問60％を総合的に判断する

使用教科書
Smart Choice 3rd edition,Starter / Ken Wilson ほか.--Oxford Univ. Press, ISBN978-0-19-460253-2

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	課題に関して、授業の中で教員と学生がディスカッションを行う。試験に関しても質問に応じる。
備考	

授業科目名		担当教員	
英語Ⅲ（専門英語）		ﾐﾙﾎﾞﾄﾞ ｾｲｴﾄﾞ ﾓﾊﾏﾄﾞ	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択	1年 後学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)理学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)視機能ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)の達成に寄与している。			

授 業 概 要
本講義では、ホスピタル・イングリッシュによるコミュニケーション能力を総合的に向上させることをねらいとする。発音や聞き取りの練習により、スピーキングやリスニングの能力を育成する。「読む」「聞く」「話す」という３つの技能を育て、英語の運用能力を総合的に養う。

学 修 の 到 達 目 標
毎回さまざまな医療に関する言語活動を行い，英語の持つ多様な機能や働きを考えることを目指す。 ①正しい発音と適切なパターンで発話することができる。 ②医療英語によるコミュニケーションに必要なリスニング力を身につけ、状況の聞き取りができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション	①				その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
2	Lesson 1: Reception Desk（救急外来受付）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
3	Lesson 2:Examination Room（診察室）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
4	Lesson 3: Giving Injection（注射をする）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
5	Lesson 4: Explanation to a Family Member（患者の家族への説明）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
6	Lesson 5:Self-Introduction and First Meal（自己紹介と初めての食事）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
7	Lesson 6: Orientation to the Ward（入院病棟を案内する）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
8	Lesson 7: Asking Height, Weight, and Temperature（身長、体重、体温を尋ねる）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
9	Lesson 8: Obtaining the Patient’s History（患者歴をとる）小テスト	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	Lesson 9: Checking the Patient's Condition（患者の状態をチェックする）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
11	Lesson 10: Blood Test Explanation（血液検査の説明）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
12	Lesson 11: Drawing a Blood Sample（採血）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
13	Lesson 12:Explaining about the Operation : Basic Procedures（手術についての説明：基本的手順）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
14	Lesson 13: Explaining about the Operation:Anesthesia （手術についての説明：麻酔）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
15	Lesson 14:Taking the Patient into Surgery （手術室への搬送）	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法
授業参加態度・小テスト・・・40%，理解度判定・・・60%

使用教科書
Essential English For Nurses 5th Edition(学生版) / Paul Zito & Masako Hayano.--日総研，ISBN978-4-7760-1861-2

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	
備考	皆さんの英語力とテキストの難易度をすり合わせ，無理のない進み方で行う。 学生がテキストの内容をよく理解するために各ユニットをスライドプレゼンテーションで説明する。

授業科目名		担当教員	
ドイツ語		安藤　彰浩	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択	1年 後学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)理学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)視機能ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1) (3)の達成に寄与している。		安藤彰浩（ドイツ語通訳）	

授 業 概 要

ドイツ語における初級の基礎知識の習得を目指す。インターネット（動画サイトYou Tube 等でニュース放送を見る）を活用して、ドイツ人の話す生のドイツ語に触れる機会を設ける。ドイツ社会における時事的、文化的話題を提供して、ドイツの歴史や文化に対する興味を喚起する。

学 修 の 到 達 目 標

ドイツ語の基本的な表現に親しむ。ドイツ語学習を通じて言葉の感覚を磨き、自分をより正確に表現する力を身に付ける。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	発音。数字0～12。挨拶				次に扱うテキストの内容に目を通す。（30分）	授業内容の復習（30分）
2	自己紹介。　－　動詞の現在人称変化 ich/Sie				次に扱うテキストの内容に目を通す。（30分）	授業内容の復習（30分）
3	自己紹介。　－　動詞の現在人称変化　du				次に扱うテキストの内容に目を通す。（30分）	授業内容の復習（30分）
4	第三者の紹介。　－　動詞の現在人称変化　三人称単数　er/sie				次に扱うテキストの内容に目を通す。（30分）	授業内容の復習（30分）
5	身の回りのもの。　－　格変化：主格（1格）。複数形				次に扱うテキストの内容に目を通す。（30分）	授業内容の復習（30分）
6	買い物・家族。直接目的格（4格）。　－　所有冠詞				次に扱うテキストの内容に目を通す。（30分）	授業内容の復習（30分）
7	お土産。間接目的語（3格）。　－　人称代名詞				次に扱うテキストの内容に目を通す。（30分）	授業内容の復習（30分）
8	趣味。時間表現。曜日　－　不規則動詞の現在人称変化				次に扱うテキストの内容に目を通す。（30分）	授業内容の復習（30分）
9	道をたずねる。　－　前置詞の格支配１、命令形				次に扱うテキストの内容に目を通す。（30分）	授業内容の復習（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	Eメール。月と季節　－　前置詞の格支配２				次に扱うテキストの内容に目を通す。（30分）	授業内容の復習（30分）
11	手紙。時間表現２　－　イントネーションと文アクセント				次に扱うテキストの内容に目を通す。（30分）	授業内容の復習（30分）
12	料理・レストラン　－　会話表現				次に扱うテキストの内容に目を通す。（30分）	授業内容の復習（30分）
13	ドイツ鉄道　－　分離動詞・非分離動詞、zu不定詞				次に扱うテキストの内容に目を通す。（30分）	授業内容の復習（30分）
14	ベルリンへの旅　－　話法の助動詞				次に扱うテキストの内容に目を通す。（30分）	授業内容の復習（30分）
15	ドイツの歴史、文化について。　－　文法のおさらい				次に扱うテキストの内容に目を通す。（30分）	授業内容の復習（30分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法
理解度、積極参加を重視 定期試験（60%）、小試験（20%）、授業への取り組み（20%）

使用教科書
シュピッツェ１　コミュニケーションで学ぶドイツ語 / 朝日出版社,

参考図書
必要に応じて紹介

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	課題の習得を総合的に評価してコメントする。
備考	毎回、動画サイトを使って、ドイツ人の生活や文化を紹介する。

授業科目名		担当教員	
中国語		橋本　永貢子	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択	1年 後学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)理学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)視機能ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(1)(3)の達成に寄与している。			

授 業 概 要

現代中国語の初歩を学ぶ。基礎的な中国語の習得を通じて、中国語が一言語としてどのような特徴を持っているのかを学び、また、中国人とコミュニケーションをとる場合に必要な知識や中国語の背景にある中国の文化や社会についても理解を深め、将来医療従事者になった場合にも役に立つ教養を身に付ける。

学 修 の 到 達 目 標

①発音記号が読めるようになること
②基礎的な文法を習得し、簡単な日常会話ができるようになること

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	中国語の概要、声調	①			テレビやラジオ、インターネット等で、中国語の音を聞いてみる。（30分）	声調練習を行い、マスターする（30分）
2	母音（1）	①			声調の復習をする。（30分）	単母音の発音練習を行い、マスターする。（30分）
3	子音	①			単母音の復習をする。（30分）	子音の発音練習を行い、マスターする。（30分）
4	母音（2）	①			子音の復習をする。（30分）	複母音・鼻母音の発音練習を行い、マスターする。（30分）
5	発音のまとめ	①			複母音・鼻母音の復習をする。（30分）	ピンインの書き方と発音の仕方を覚える。（30分）
6	挨拶のしかた	①②①			ピンインの書き方と発音の仕方の復習をする。（30分）	中国語での挨拶の仕方を練習しマスターする。（30分）
7	動詞述語文（1）	①②①			中国語での挨拶の仕方を復習する（30分）	教科書第2課本文の発音練習を行う。（30分）
8	動詞述語文（2）、連体修飾語と疑問文（1）	①②①			教科書第2課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。（30分）	教科書第3課の本文の発音練習を行う。（30分）
9	連体修飾語と疑問文（2）	①②①			教科書第3課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。（30分）	教科書第1課から第3課の復習をする。（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	存在を表す文（1）	① ②			教科書第1課から第3課の復習をする。（30分）	教科書第4課の本文の発音練習を行う。（30分）
11	存在を表す文（2）、所在を表す文（1）	① ②			教科書第4課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。（30分）	教科書第5課の本文の発音練習を行う。（30分）
12	所在を表す文（2）	① ②			教科書第5課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。（30分）	教科書第4課と第5課の復習をする。（30分）
13	助動詞を用いた文（1）	① ②			教科書第6課の本文の発音練習を行う。（30分）	教科書第6課の本文の発音練習を行う。（30分）
14	助動詞を用いた文（2）	① ②			教科書第6課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。（30分）	会話練習に必要な表現を復習する。（30分）
15	実践的な中国語会話練習	① ②			会話練習に必要な表現を発音練習する。（30分）	教科書第1課から第3課の復習をする。（30分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法

発音とリスニングを重視する。毎回の授業における理解度や発音の状況（20%）と学期中数回行う小テスト（30%）、および期末テストの結果（50%）から総合的に評価する。

使用教科書

医療系学生のための初級中国語 / 山田眞一.--白帝社, ISBN978-4-89174-979-8

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	課題に対しては、次の授業の際に点検あるいは採点したものを返却しまた解説する。
備考	連絡先メールアドレス：ran@gifu-u.ac.jp

リハビリテーション学科

作業療法専攻

専門基礎科目

授業科目名		担当教員	
解剖学Ⅰ（骨・筋肉系）		千田　隆夫	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。			

授 業 概 要

成人の骨は約200個あり、関節でつながって筋の収縮によって動く。骨と関節と筋をあわせて運動器と呼ぶ。快適な日常生活を営むには、骨と関節と筋の働きが非常に重要である。骨・関節・筋に障害が起こると、動作や運動が制約される。理学療法・作業療法の多くは、運動器の働きを正常に戻すために行われている。したがって、理学療法士・作業療法士をめざす諸君にとっては、運動器の知識は非常に重要である。この授業では、人体の骨・関節・筋の概略について学び、様々な人体の運動への骨・関節・筋の関わりについて理解を深める。

学 修 の 到 達 目 標

①全身の骨格を構成する個々の骨の名称、数、形状、構造上の特徴を列挙し、筋・血管・神経・内臓との関係を説明できる。
②骨と骨の連結様式を列挙し、それに基づく関節の運動を説明できる。
③全身の骨格筋の名称、起始・停止、形状、作用、支配神経を列挙し、様々な運動にどの筋がどのように関与するかを説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	骨の一般構造・骨化・機能	①		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す（30分）	指定教科書の該当ページの図のカラ-リングを完成させる（30分）
2	関節の一般構造・種類・運動	②		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す（30分）	指定教科書の該当ページの図のカラ-リングを完成させる（30分）
3	脊柱を構成する骨と関節	① ②		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す（30分）	指定教科書の該当ページの図のカラ-リングを完成させる（30分）
4	胸郭を構成する骨と関節	① ②		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す（30分）	指定教科書の該当ページの図のカラ-リングを完成させる（30分）
5	上肢を構成する骨と関節	① ②		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す（30分）	指定教科書の該当ページの図のカラ-リングを完成させる（30分）
6	下肢を構成する骨と関節	① ②		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す（30分）	指定教科書の該当ページの図のカラ-リングを完成させる（30分）
7	頭蓋を構成する骨と関節①	① ②		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す（30分）	指定教科書の該当ページの図のカラ-リングを完成させる（30分）
8	頭蓋を構成する骨と関節②	① ②		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す（30分）	指定教科書の該当ページの図のカラ-リングを完成させる（30分）
9	筋の構造・機能	③		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す（30分）	指定教科書の該当ページの図のカラ-リングを完成させる（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	頭部の筋	③		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す（30分）	指定教科書の該当ページの図のカラ-リングを完成させる（30分）
11	頸部の筋	③		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す（30分）	指定教科書の該当ページの図のカラ-リングを完成させる（30分）
12	胸腹部の筋	③		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す（30分）	指定教科書の該当ページの図のカラ-リングを完成させる（30分）
13	背部の筋	③		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す（30分）	指定教科書の該当ページの図のカラ-リングを完成させる（30分）
14	上肢の筋	③		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す（30分）	指定教科書の該当ページの図のカラ-リングを完成させる（30分）
15	下肢の筋	③		講義	指定教科書の該当ページに出てくる太字の用語を書き出す（30分）	指定教科書の該当ページの図のカラ-リングを完成させる（30分）
	定期試験　筆記					

評価基準・評価方法

定期試験（100%）で評価する。

使用教科書

人体解剖カラーリングブック【補訂版】 / Twietmeyer・McCracken著　天野修、千田隆夫、鳥橋茂子監訳.--丸善出版, 2020年, 978-4-621-30563-8
医療系学生のための解剖見学実習ノート / 千田隆夫、小村一也.--アドスリー, 2020年, 978-4-904419-96-0 C3047

参考図書

1) カラーイラストで学ぶ　集中講義　解剖学、坂井建雄編集、メディカルビュー社
2) トートラ解剖学　Tortora・Nielsen著　小沢一史、千田隆夫、高田邦昭、依藤宏監訳、丸善出版

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	試験の正解例の掲示
備考	講義以外に、Eメール（tsenda@gifu-u.ac.jp）でも質問等を受け付ける。

授業科目名		担当教員	
解剖学Ⅱ（内臓系）		江村　正一	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。			

授 業 概 要

心臓をはじめとした循環器系、気管支、肺などの呼吸器系、食道・胃・腸などの消化器系および内分泌腺と尿生殖器について学ぶ。いくつかの臓器が一体となって機能し、生命が維持されていることを理解する。

学 修 の 到 達 目 標

① 循環器・呼吸器・消化器・内分泌腺・泌尿器・生殖器の各器官について説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	解剖学総論	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（60分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（60分）
2	循環器系Ⅰ　／　心臓について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（60分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（60分）
3	循環器系Ⅱ　／　動脈について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（60分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（60分）
4	循環器系Ⅲ　／　門脈について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（60分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（60分）
5	循環器系Ⅳ　／　静脈・リンパ管について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（60分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（60分）
6	呼吸器系Ⅰ　／　鼻・喉頭・気管と気管支について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（60分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（60分）
7	呼吸器系Ⅱ　／　肺について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（60分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（60分）
8	消化器系Ⅰ　／　口腔・食道について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（60分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（60分）
9	消化器系Ⅱ　／　胃・小腸・大腸について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（60分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	消化器系Ⅲ　／　肝臓・胆嚢・膵臓について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（６０分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（60分）
11	内分泌腺　／　視床下部・下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（６０分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（60分）
12	泌尿器　／　腎臓・尿管・膀胱について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（６０分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（60分）
13	発生	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（６０分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（60分）
14	生殖器　／　男女生殖器について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（６０分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（60分）
15	各内臓が密接な関係にあることを理解する	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。（６０分）	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。（60分）
	筆記試験					

評価基準・評価方法
筆記試験結果（100％）

使用教科書
系統看護学講座専門基礎分野　人体の構造と機能（１）解剖生理学 / 著者代表　坂井建雄.--第１０版第１刷--医学書院, 2018年1月刊行, ISBN978-4-260-03171-4

参考図書
適宜、参考資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	試験の模範解答を掲示するとともに、質問をメールでも受け付ける。 E-mail s.emura@heisei-iryou.ac.jp
備考	

授業科目名		担当教員	
解剖学Ⅲ（神経系）		堀　信宏・近藤　直実・河村　章史・大場　かおり・藤橋　雄一郎　(代表教員　堀　信宏)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	講義 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		堀信宏（理学療法士）、近藤直実（医師）、河村章史（作業療法士）、大場かおり（理学療法士）、藤橋雄一郎（理学療法士）	

授 業 概 要

解剖学Ⅲ（神経系）では主に中枢，末梢，自律神経系と感覚器について学びます。理学療法士，作業療法士にとって神経解剖の知識は，将来対象となる脳血管障害やパーキンソン病，多発性硬化症，脊髄損傷といった身体機能障害を理解する基礎となるだけでなく，認知症や高次脳機能障害といった認知面の基礎にもなります。また，臨床（国家試験でも）中枢神経系の画像に触れる機会が増え，解剖を基に治療プランを作成している。以上より，構造と機能の理解は必要不可欠です。

学 修 の 到 達 目 標

①ニューロンの基本構造や脳，脊髄，脊髄神経，脳神経，自律神経の構造について理解する。
②上肢に分布する腕神経叢の枝や，下肢に分布する腰仙骨神経叢の枝の走行を説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	臨床に繋がる神経解剖学	① ②	近藤		教科書の内容を確認し、新しい用語について調べる。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
2	神経系総論：神経の区分，神経の構成，髄膜と脳室系	①	藤橋		教科書P.229-237を読み、内容を確認しましょう（30分）。	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容を教科書を使用し再確認しましょう（30分）。
3	中枢神経系：脊髄，脳幹	①	堀		教科書P.241-251を読み、内容を確認しましょう（30分）	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容を教科書を使用し再確認しましょう（30分）
4	中枢神経系：小脳	①	堀		教科書P.251-255を読み、内容を確認しましょう（30分）	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容を教科書を使用し再確認しましょう（30分）
5	中枢神経系：大脳（間脳，大脳皮質の構造）	①	堀		教科書P.256-263を読み、内容を確認しましょう（30分）	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容を教科書を使用し再確認しましょう（30分）
6	中枢神経系：大脳皮質（大脳皮質の機能局在）	①	堀		教科書P.263-267を読み、内容を確認しましょう（30分）	「まとめの絵」について，教科書を使用し再確認しましょう（30分）
7	中枢神経系：神経路（体性感覚神経路，平衡覚の神経路）	①	藤橋		教科書P268-271を読み、内容を確認しましょう（30分）。	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容を教科書を使用し再確認しましょう（30分）。
8	中枢神経系：神経路（錐体路系，錐体外路系）	①	藤橋		教科書P274-277を読み、内容を確認しましょう（30分）。	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容を教科書を使用し再確認しましょう（30分）。
9	末梢神経系：脊髄神経（自律神経）	①	藤橋		教科書P311-314を読み、内容を確認しましょう（30分）。	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容を教科書を使用し再確認しましょう（30分）。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	末梢神経系：概論及び腕神経叢と関連する末梢神経	②	河村		教科書(1)p.278-291及び教科書(2)p.294-299を通読する（30分）	配布資料（腕神経叢）の整理（30分）
11	末梢神経系：腰神経叢と関連する末梢神経	②	河村		教科書(1)p.291-293の通読及び配布資料（腕神経叢）の確認（30分）	配布資料（腰神経叢）の整理（30分）
12	末梢神経系：仙骨神経叢と関連する末梢神経	②	河村		教科書(1)p.293-300の通読及び配布資料（腰神経叢）の確認（30分）	配布資料（仙骨神経叢）の整理（30分）
13	脳神経：Ⅰ-Ⅵ脳神経	①	大場		「病気がみえる７」のp242-p261を確認しておきましょう。(30分)	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容を教科書を使用し再確認しましょう（30分）。
14	脳神経：Ⅶ-Ⅻ脳神経	①	大場		「病気がみえる７」のp262-279を確認しておきましょう。(30分)	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容を教科書を使用し再確認しましょう(30分)。
15	感覚器：皮膚，視覚，平衡感覚	①	大場		解剖学（医学書院）の視覚器と聴覚器の箇所を確認しておくと良いでしょう。(30分)	講義終了後に実施する確認テストにて、間違えた内容をを教科書を使用し再確認しましょう（30分）。
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法

期末試験95％（各担当者が行う小テストを基に出題する．参加度・態度を加味する）．小テスト5％．

使用教科書

標準理学療法学・作業療法学　解剖学　第5版 / 野村嶬--医学書院，2020年，ISBN978-4-260-03922-2
病気がみえる７　脳・神経 / 医療情報科学研究所.--第2版--メディックメディア，2017年，ISBN978-4-89632-686-4

参考図書

プロメテウス解剖学アトラス頭頸部/神経解剖　第３版，坂井建雄ら監訳，医学書院，2019

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	小テスト後，授業内で実施（採点し返却する場合もある）．
備考	範囲が広いので，各担当が行う小テストをしっかり取り組み，覚えること。 解らない内容は後回しにせず，その都度整理につとめることが大切です。この神経系解剖は，2年生の神経系疾患の基礎になるので，ここをしっかり勉強しておくと，後の学修に有益になる。

授業科目名		担当教員	
解剖学演習（体表解剖　骨）		永井　貴士・井上　忠俊・樅山　貴子　(代表教員　永井　貴士)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		永井貴士（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）・樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要

作業療法士として必要な人体の構造を理解するために、骨の名称や形状、関節構造の知識を学び、併せて皮膚上からの触診を行う。授業はペア学習やグループワークを基本とし、教科書上で学ぶ二次元的な知識を三次元的に捉えることで理解を深める。また、作業療法士として対象者に接する際の基本的な配慮（態度や身なり等）を修得する。

学 修 の 到 達 目 標

①骨の名称や特徴について説明できる。
②体表面から骨の形状を正確に触診できる。
③他者の体に触れるため、相手への基本的配慮（身なり、態度、言葉遣い）ができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	身体部位名称と肢位、運動（青本p.2～13）	③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
2	鎖骨（青本p.33～38）	①②③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
3	肩甲骨（青本p.16～25）	①②③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
4	肩甲骨、上腕骨（青本p.27～48）	①②③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
5	上腕骨、尺骨、橈骨　（青本p.49～63）	①②③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
6	尺骨、橈骨（青本p.64～78）、手根骨総論	①②③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
7	手根骨（青本p.80～89）、指骨総論	①②③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
8	手根骨、指骨（青本p.90～105）	①②③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
9	肩甲帯、上肢帯の触診1	①②③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	肩甲帯、上肢帯の触診２	① ② ③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
11	胸骨、肋骨、頭蓋骨（赤本p.268～277、286～287）	① ② ③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
12	脊椎、骨盤(赤本p.290～294、2～12)	① ② ③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
13	骨盤、大腿骨、膝蓋骨、膝関節（赤本p.14～42）	① ② ③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
14	脛骨、腓骨（赤本p.43～60）	① ② ③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
15	足根骨、足趾骨（赤本p.61～85）	① ② ③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
	期末試験					

評価基準・評価方法
小テスト（筆記）、中間試験（筆記・実技）、定期試験（筆記・実技） 評価基準：講義ごとに筆記小テストを行う。中間試験・定期試験は筆記試験と実技試験を同比率で合算、採点する。

使用教科書
運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢） / 林典雄.--改訂第２版--メディカルビュー，2011年12月22日刊行，ISBN978-4-7583-1136-6 運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹） / 林典雄.--改訂第２版--メディカルビュー，2012年3月5日刊行，ISBN978-4-7583-1137-3

参考図書
・解剖学アトラス

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	小テストは採点し、返却する。
備考	＜メッセージ＞触診技術は練習を積み重ねれば必ず上達する。積極的に練習すること。事前にアポイントを取り、授業外の自主練習時にアドバイスや触診の確認をすることも可能である。 ＜質問・相談＞質問や相談は適宜受け付ける。

授業科目名		担当教員	
解剖学演習（体表解剖　筋）		永井　貴士・竹中　孝博・井上　忠俊・浅野　莉沙・樅山　貴子　(代表教員　永井　貴士)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）・浅野莉沙（作業療法士）・樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要

作業療法士として必要な人体の構造を理解するために、筋の走行や形状、作用といった知識を学び、併せて皮膚上からの触診を行う。授業はペアやグループワークを基本とし、教科書上で学ぶ二次元的な知識を被検者の体で三次元的に捉えることで理解を深める。また、作業療法士として対象者に接する際の基本的な配慮（態度や身なり等）を修得する。なお、予習・復習に役立てられるよう、事前に各セッションに関する動画を配布する。

学 修 の 到 達 目 標

①筋の走行や形状、作用について説明できる。
②体表面から筋を正確に触診できる。
③他者の体に触れるため、相手への基本的配慮（身なり、態度、言葉遣い）ができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	三角筋、大胸筋（青本p.154～166）	①②③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
2	棘上筋、棘下筋、大円筋、小円筋（青本p.167～184）	①②③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
3	肩甲下筋、広背筋、烏口腕筋、僧帽筋（青本p.185～207）	①②③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
4	大・小菱形筋、肩甲挙筋、小胸筋（青本p.208～218）	①②③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
5	前鋸筋、上腕二頭筋、腕橈骨筋（青本p.219～230、236～239）	①②③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
6	上腕筋、上腕三頭筋（青本p.231～235、240～247）	①②③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
7	円回内筋、方形回内筋、長掌筋、橈側手根屈筋（青本p.250～256、261～268）	①②③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
8	尺側手根屈筋、長・短橈側手根屈筋（青本p.269～279）	①②③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
9	総指伸筋、長・短母指伸筋（青本p.285～289、297～303）	①②③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	浅指屈筋、深指屈筋（青本p.308～316）	① ② ③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
11	短母指外転筋、短母指屈筋、母指内転筋（青本p.322～327）	① ② ③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
12	母指対立筋、小指対立筋、小指外転筋、短小指屈筋（青本p.328～335）	① ② ③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
13	縫工筋、大腿筋膜張筋、中殿筋、大殿筋（赤本p.146～164）	① ② ③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
14	大腿四頭筋、ハムストリングス（赤本p.180～216）	① ② ③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
15	前脛骨筋、下腿三頭筋（赤本p.227～230、236～240）	① ② ③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
	期末試験					

評価基準・評価方法

評価方法：小テスト（筆記）、中間試験（筆記・実技）、期末試験（筆記・実技）
評価基準：講義ごとに筆記小テストを行う。中間試験・定期試験は筆記試験と実技試験を同比率で合算、採点する

使用教科書

運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢） / 林典雄.--改訂第２版--メディカルビュー，2011年12月22日刊行，ISBN978-4-7583-1136-6
運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹） / 林典雄.--改訂第２版--メディカルビュー，2012年3月5日刊行，ISBN978-4-7583-1137-3

参考図書

・解剖学アトラス

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	小テストは採点後、返却する。
備考	＜メッセージ＞触診技術は練習を積み重ねれば必ず上達する。積極的に練習をすること。 事前に依頼があれば、授業外での自主練習時にアドバイスや触診の確認をすることも可能である。 ＜質問・相談＞質問や相談は適宜受け付ける。

授業科目名		担当教員	
生理学Ⅰ（動物的機能）		川島　卓	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。			

授 業 概 要

生理学の外界に対して反応する機能（動物的機能）全般について講義する。

学 修 の 到 達 目 標

①末梢神経系と中枢神経系の働きを学び人の感覚情報をもとにいかに運動が起こされるかを理解する。
②正常な生理機能の理解をもとに、神経障害などに伴う各種病態症状についての原因を正しく理解する。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	生理学について　細胞機能の基礎　体液組成、細胞の構造、細胞の物質移動	①②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
2	細胞の興奮発生　神経細胞　興奮移動　膜電位　興奮の伝導	①②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
3	筋の収縮　骨格筋の構造　筋肉の収縮　筋収縮力学　筋のエネルギー発生	①②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
4	シナプス伝達　神経筋伝達　平滑筋　中枢神経系の情報伝達　神経伝達物質　シナプスの可塑性	①②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
5	自立神経系　交感神経・副交感神経の内臓諸器官への作用	①②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
6	脊髄　脊髄反射　誘発筋電図	①②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
7	脳幹　小脳①　脳幹の姿勢反射　小脳の神経回路	①②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
8	小脳②　基底核　小脳と大脳協調　小脳障害　基底核の神経経路　基底核障害	①②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
9	大脳　運動の起動と運動神経情報の出力	①②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	体性感覚　　受容器　神経伝導路　大脳感覚野　痛覚	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
11	味覚　嗅覚　聴覚　前庭感覚　　受容器　神経伝導路　中枢経路	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
12	視覚①　　網膜　視物質　視覚の中枢	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
13	視覚②　　感覚としての視覚　眼球運動	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
14	脳の高次機能１　　大脳の神経回路と機能　連合野機能　言語機能	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
15	脳の高次機能２　　大脳辺縁系　視床下部　記憶　睡眠　脳波	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法

学期末定期試験の成績による（１００％）。

使用教科書

生理学テキスト / 大地睦男.--第８版--文光堂，2017年2月発行，ISBN 978-4-8306-0229-0

参考図書

・標準理学療法学・作業療法学　生理学　岡田隆夫、長岡正範　医学書院
・コメディカル　専門基礎科目シリーズ　「生理学」桑名俊一　荒田晶子　編著／理工図書
・神経科学－脳の探求　　ベヤーズ　他　　西村書店

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	
備考	教科書以外に，関連項目のプリントを適宜配布する。

授業科目名		担当教員	
生理学Ⅱ（植物的機能）		川島　卓	
必修・選択	配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
必修	1年　後学期	1単位 (30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ (2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ (2) (3) (4) の達成に寄与している。			

授 業 概 要
生理学の生命維持に関する機能（植物的機能）全般について講義する。

学 修 の 到 達 目 標
①生命機能維持にはどうしても必要な人体の植物的機能の知識と理解を深める。 ②病態症状の原因を正確に理解すること。　専門科目習得のための基礎知識となる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	血液①　　　　　血漿と血漿タンパク質　赤血球	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
2	血液②　　　　　白血球　免疫　血液型　血小板　血液凝固　線維素溶解	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
3	心臓①　　　　　心臓の構造　心臓内伝導系　自律神経による調節	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
4	心臓②　　　　　心筋の収縮　心電図　心臓の収縮	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
5	循環①　　　　　血管系の区分　血圧調節	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
6	循環②　　　　　静脈系の循環　動脈血圧　循環調節　特殊部位の循環	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
7	呼吸①　　　　　呼吸のメカニズム	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
8	呼吸②　　　　　肺のガス交換　呼吸運動の調節	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
9	消化と吸収①　　消化管の構造と神経支配　消化管運動	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	消化と吸収②　消化液の分泌　栄養素の分解吸収	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
11	内分泌①　ホルモン　視床下部　下垂体	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
12	内分泌②　甲状腺　副腎　膵臓　性ホルモン	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
13	生殖　男性・女性生殖生理　妊娠	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
14	腎機能　体液調節　ネフロンの構造，糸球体ろ過	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
15	代謝と栄養　日常の生理学	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法

学期末定期試験成績による。（１００％）

使用教科書

生理学テキスト / 大地睦男.--第８版--文光堂，2017年2月発行，ISBN 978-4-8306-0229-0

参考図書

・標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　生理学　　岡田隆夫、長岡正範　医学書院
・コメディカル　専門基礎科目シリーズ「生理学」　　桑名俊一　荒田晶子　編著／理工図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	
備考	教科書以外に，関連項目のプリントを適宜配布する。

授業科目名		担当教員	
生理学演習		永井　貴士・加藤　清人・河村　章史・世良　龍哉・竹中　孝博・井上　忠俊・浅野　莉沙・川島　卓　(代表教員　永井　貴士)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		永井貴士（作業療法士）、加藤清人（作業療法士）、河村章史（作業療法士）、世良龍哉（作業療法士）、竹中孝博（作業療法士）、井上忠俊（作業療法士）、浅野莉沙（作業療法士）	

授 業 概 要

生理学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を演習により確認する。動物的生理学では神経や筋の組織観察を基に、筋の活動や生化学反応の観察を行う。植物的生理学では、血圧、体温、心電図、呼吸機能の測定を行う。筋電図は筋電計を、心電図は心電計を用いて、実際に被験者の波形をとったり、グループワークでまとめる方法を用いて学習する。その他の項目は、地域在住高齢者に協力を得て、実際に測定、分析を行うことで、理解を深める学習を行う。これらのデータの収集・分析により、岐阜市洞末広町自治会の「健康長寿を基盤とする活力ある地域づくり」という課題の解決に学生を主体的に関与させることを目的としている。

学 修 の 到 達 目 標

①作業療法の治療・評価にはこれらの生理学的な原理が用いられているため、演習を通して生理学の知識の確認を目標とする。
②実際に測定する技術を身につけることを目標とする。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	心電図と筋電図の概要	①	永井 竹中	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
2	心電図	① ②	永井 竹中	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
3	心電図	① ②	永井 竹中	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
4	心電図	① ②	永井 竹中	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
5	筋電図	① ②	川島 永井 竹中	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
6	筋電図	① ②	川島 永井 竹中	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
7	筋電図	① ②	川島 永井 竹中	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
8	高齢者の交感神経と成人の比較	②	加藤 河村	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
9	高齢者の交感神経と成人の比較	②	加藤 河村	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	高齢者の体温と成人の比較	②	世良 竹中	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
11	高齢者の体温と成人の比較	②	世良 竹中	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
12	高齢者の歩行と成人の比較	②	浅野 井上	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
13	高齢者の歩行と成人の比較	②	永井 井上	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
14	高齢者の感覚と成人の比較	②	加藤 永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
15	高齢者の感覚と成人の比較　　目標達成	②	加藤 永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
	レポート課題					

評価基準・評価方法
複数のレポート課題の内容で判定する。

使用教科書
生理学テキスト / 大地睦男.--第８版--文光堂, 2017年2月発行, ISBN 978-4-8306-0229-0

参考図書
適宜配布資料を用いる。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	レポート課題提出後１週間以内に個別フィードバックを行う。
備考	準備するものは事前にオリエンテーションを行う。演習を通して、グループで考察をしていくため、能動的に学習することをすすめる。

授業科目名		担当教員	
運動学総論		堀　信宏	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		堀信宏（理学療法士）	

授 業 概 要

運動学は人の身体運動の仕組みに関する学問です．動作や活動の改善を求める理学療法士・作業療法士にとって基礎となります．講義では「骨・関節・筋・神経」の解剖と，運動を解釈するための「力学」，日常生活の基本となる「姿勢・歩行」を学習します．これらの複数の視点から人の動作や活動を捉え理解を進めることで，障害者が「何故動けなくなるのか」が見えてきます．

学 修 の 到 達 目 標

①人の運動・姿勢を捉えるための筋・骨・関節・神経の基礎を学ぶ．
②力学の基礎を理解する．例題を通じて解き方を理解し，国家試験問題を解けるようにする．
③バランス・姿勢・歩行の基礎知識を学び，異常姿勢・異常歩行を説明できるようにする．運動学習を学ぶ．

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	身体運動の軸と面，および運動の名称（方向）	①	堀	講義	テキストp.14を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう(120分)
2	運動器の構造と機能　（骨）	①	堀	講義	基礎運動学のp.60-66を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう(120分)
3	運動器の構造と機能　（関節）	①	堀	講義	テキストp.12-14を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう(120分)
4	運動器の構造と機能　（筋の構造）	①	堀	講義	テキストp.15-17を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう(120分)
5	運動器の構造と機能　（筋の収縮）	①	堀	講義	テキストp.18-20を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう(120分)
6	運動器の構造と機能　（神経）	①	堀	講義	基礎運動学のp.88-93を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう(120分)
7	生体力学の基礎1　（運動の法則，仕事，速度など）	②	堀	講義	テキストp.2-6を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう(120分)
8	生体力学の基礎2　（てこ，剛体など）	②	堀	講義	テキストp.7-10を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう(120分)
9	生体力学を用いた計算	②	堀	講義	力学の配布資料を理解しておきましょう(120分)	計算問題の解き方を修得しておきましょう(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	姿勢（重心，支持基底面）	③	堀	講義	テキストp.112-114を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう(120分)
11	姿勢（姿勢制御・バランス）	③	堀	講義	テキストp.114-119を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう(120分)
12	正常歩行１　（歩行周期，歩幅，ケイデンスなど）	③	堀	講義	テキストp.122-126を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう(120分)
13	正常歩行２　（歩行時の関節の動き，筋活動，重心移動など）	③	堀	講義	テキストp.127-129を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう(120分)
14	異常歩行	③	堀	講義	テキストp.130-131を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう(120分)
15	運動学習	③	堀	講義	テキストp.134-142を読んでおきましょう（120分）	ワークシートと小テストの内容を理解しておきましょう(120分)
	中間試験を1回，定期試験1回，合計2回実施					

評価基準・評価方法

試験は中間試験と期末試験の，計2回試験実施する．試験範囲はシラバスの１～６（中間），７～14（期末）．シラバス15はテスト範囲から除外．中間試験と期末試験の総得点を100％として本試を評定する．再試験は全範囲とする．

使用教科書

基礎運動学 / 中村隆一ほか.--第6版補訂--医歯薬出版，2015年，ISBN978-4-263-21153-3
１５レクチャーシリーズ　理学療法作業療法テキスト運動学 / 小島悟責任編集--中山書店，2012年，　ISBN978-4-521-73664-8
講義後に小テストを実施する．

参考図書

・PT/OT国家試験対策ワークブック計算問題，川島圭司著，医歯薬出版，2017
・PTOT基礎から学ぶ運動学ノート，中島雅美，医歯薬出版，2016

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	小テスト後，授業内で実施する．
備考	本講義は内容が濃く，範囲が広いので2つに分けて知識の修得を目指す．それぞれのテスト範囲毎にしっかり取り組むこと．再試験は範囲が広くなるので注意すること（シラバス１～14）．毎回，ワークシートを配布します．授業後の復習に活用してください．

授業科目名		担当教員	
臨床運動学		曽田　直樹	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		曽田直樹（理学療法士）	

授 業 概 要

ヒトの関節の特徴をバイオメカニクス的な観点からその動きを理解することを目的とする。またその理論に基づき骨関節機能障害学や骨関節治療技術、病態運動学、動作分析への応用を学習できることを期待する。講義ではグループでのﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝやﾃﾞｨﾍﾞｰﾄを行い理解を深めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①上肢の解剖学について理解できる。
②下肢の解剖学について理解できる。
③上肢の運動学について理解できる。
④下肢の運動学について理解できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	概論：筋の走行と軸と面の関係、筋肉の役割について	①②③④	曽田	講義		授業内容の復習をすること(６０分)
2	肩関節：肩甲上腕関節の機能	①③	曽田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること(30分)
3	肩関節：第2肩関節の役割について	①③	曽田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること(30分)
4	肩関節：肩甲胸郭関節の役割について	①③	曽田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること(30分)
5	肘関節：肘関節に付着する靭帯について	①③	曽田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること(30分)
6	肘関節：回内・回外運動のメカニズム	①③	曽田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること(30分)
7	手関節：掌屈・背屈のメカニズム	①③	曽田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること(30分)
8	手関節：手関節の靭帯・筋肉	①③	曽田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること(30分)
9	股関節：下肢のアライメント、股関節に付着する靭帯	②④	曽田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	股関節：股関節周囲筋の役割	②④	曽田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること(30分)
11	膝関節：特徴的な動き・アライメント	②④	曽田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること(30分)
12	膝関節：筋肉、半月板の役割	②④	曽田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること(30分)
13	足関節：骨の構造、底屈・背屈のメカニズム	②④	曽田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること(30分)
14	足関節：靭帯・筋肉について	②④	曽田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること(30分)
15	上肢および下肢の解剖学と運動学について	①②③④	曽田	講義	授業内容の関節の解剖を勉強しておいてください（30分）	授業内容の復習をすること(30分)
	定期試験					

評価基準・評価方法

評価基準：知識・理解、学修態度・意欲を重視
評価方法：中間試験(４５％)、期末試験（４５％）、態度・意欲（小テスト、授業参加度など）にて総合的に判断する。

使用教科書

参考図書

・筋骨格系のキネシオロジー　原著：Donald A　　監訳：島田智明ら　医歯薬出版株式会社

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	講義内で解説
備考	オフィスアワー：月曜日１２：１５～１３：１５

授業科目名		担当教員	
運動学演習		加藤　清人・河村　章史・世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・井上　忠俊・樅山　貴子　(代表教員　加藤　清人)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）、河村章史（作業療法士）、世良龍哉（作業療法士）、永井貴士（作業療法士）、竹中孝博（作業療法士）、井上忠俊（作業療法士）、樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要

（筋電）日常生活には動作に伴って様々な筋活動が観察される。その筋活動を筋電図や観察を通して分析していく。
（歩行）歩行に関する基本事項を整理した上で、実際に歩行動作中のデータを収集し、それに対して複数の処理・解析を行なった上で、成人と高齢者の特性を理解するための考察を行う。なお、高齢者のデータ収集に関しては、岐阜市洞末広町自治会の地域在住高齢者の協力を得て実施する。これらのデータの収集・分析により、岐阜市洞末広町自治会の「健康長寿を基盤とする活力ある地域づくり」という課題の解決に学生を主体的に関与させることを目的としている。

学 修 の 到 達 目 標

（筋電）①日常生活動作に伴う筋活動を筋電計を通して正しく測定、観察にて分析ができるようになる。
（歩行）②歩行の基本的知識を修得し、実際の歩行動作の分析ができる。
③歩行に関連したデータを正確に収集でき、その解析についても妥当な内容で実践できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション	①	加藤他	講義	オリエンテーション資料に目を通しておく（30分）	学習計画を立案すること、必要な知識を確認しておくこと（30分）
2	筋電測定（1）	①	竹中他	演習	筋電図にかかわる基礎知識を確認しておく（30分）	演習内容の要点をまとめる（30分）
3	筋電測定（2）	①	竹中他	演習	筋電図にかかわる基礎知識を確認しておく（30分）	演習内容の要点をまとめる（30分）
4	筋電測定（3）	①	竹中他	演習	筋電図にかかわる基礎知識を確認しておく（30分）	演習内容の要点をまとめる（30分）
5	筋電測定（4）	①	竹中他	演習	筋電図にかかわる基礎知識を確認しておく（30分）	演習内容の要点をまとめる（30分）
6	筋電測定（5）	①	竹中他	演習	筋電図にかかわる基礎知識を確認しておく（30分）	演習内容の要点をまとめる（30分）
7	筋電測定（6）	①	竹中他	演習	筋電図にかかわる基礎知識を確認しておく（30分）	演習内容の要点をまとめる（30分）
8	データの整理と考察	①	竹中他	演習	演習課題について整理しておく（30分）	演習内容の要点をまとめる（30分）
9	歩行の基礎（解剖・生理・運動学）	②	樅山他	演習	歩行にかかわる基礎知識を確認しておく（30分）	演習内容の要点をまとめる（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	アクティブ・ラーニング 歩行のデータ収集（末広町）（1）	②	加藤 他	演習	歩行評価にかかわる基礎知識を確認しておく（30分）	演習内容の要点をまとめる（30分）
11	アクティブ・ラーニング 歩行のデータ収集（末広町）（2）	②	加藤 他	演習	歩行評価にかかわる基礎知識を確認しておく（30分）	演習内容の要点をまとめる（30分）
12	アクティブ・ラーニング 歩行のデータ収集（末広町）（3）	②	井上 他	演習	歩行評価にかかわる基礎知識を確認しておく（30分）	演習内容の要点をまとめる（30分）
13	アクティブ・ラーニング 歩行の解析（末広町）（1）	② ③	井上 他	演習	分析分析の方法について確認しておく（30分）	演習内容の要点をまとめる（30分）
14	アクティブ・ラーニング 歩行の解析（末広町）（2）	② ③	井上 他	演習	歩行分析の方法について確認しておく（30分）	演習内容の要点をまとめる（30分）
15	アクティブ・ラーニング データの整理と考察（末広町）	② ③	井上 他	演習	文献を収集しておく（30分）	演習内容の要点をまとめる（30分）
	レポート課題・データ分析課題					

評価基準・評価方法
課題100％として判定する。

使用教科書
基礎運動学 / 中村隆一ほか.--第６版補訂--医歯薬出版，2003年12月，ISBN978-4-263-21153-3

参考図書
適宜配布資料を用いる。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	課題提出後１週間以内に個別もしくはグループにてフィードバックを行う。
備考	準備するものは事前にオリエンテーションを行う。演習を通して、グループで考察をしていくため、能動的に学習することをすすめる。

授業科目名		担当教員	
人間発達学		大森　正英	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。			

授 業 概 要

人間の胎生期から老年期までの身体的発達と心理的発達の主要な現象を取り上げ講義する。新生児期、乳児期、幼児期、児童期、青年期、中年期、老年期の基本的な特徴について、生物学的な面のみならず社会とのかかわりの中で複雑に発達していく過程に関する理解を深め、医療関係者として必要な知識、応用技術を学ぶ。

学 修 の 到 達 目 標

①人間の発達段階の特徴を理解する
②小児期の重要性を広く理解する
③発達と環境、文化との関連を正しく認識する
④青年期の特徴と重要性について理解を深める
⑤中年期～老年期の変化の実態を把握する
⑥学んだ知識を実生活ならびに医療関連の仕事に生かす

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	人間の発達の特徴	①⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
2	人間の本能と行動	①③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
3	胎生期から誕生へ	①②			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
4	乳幼児の発育と発達	①②③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
5	子どもの身体発育発達に影響する因子	②③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
6	身体発育の指標	①②③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
7	子どもの心の発達	①②③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
8	幼児～学童の運動機能	①②			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
9	小児栄養	①②⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	小児期の発達障害、疾病	① ⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。（30分）	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。（30分）
11	青年期の身体的、心理的発達	① ④			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。（30分）	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。（30分）
12	中年期における心身の変化と人間としての成長、発達	① ⑤			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。（30分）	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。（30分）
13	中年期における心身の変化と人間としての成長、発達	⑤ ⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。（30分）	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。（30分）
14	老化の進展と健康	① ⑤ ⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。（30分）	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。（30分）
15	超高齢社会の人間発達学	① ⑤ ⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。（30分）	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。（30分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法

評価基準：専門的な知識の修得と講義内容の理解を重視。専門用語を用いて現象を理解し、説明する能力を評価する。従って、試験問題には、記述問題を半数出題する。
評価方法：筆記試験ならびに適時提出を求める課題（レポート）によって行う。評価割合はそれぞれ９０％、１０％

使用教科書

人間発達学　ヒトはどう育つのか / 竹下研三著.--中央法規, 2009年, ISBN978-4-8058-3096-3

参考図書

その都度、講義時間に紹介する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	
備考	修得すべき知識が多いので、個々の知識を体系化し、相互に関連づけて記憶するように努めること。課題や試験問題に対する解説はその都度行う。在学時の質問は随時、受け付ける。メール等による質問も歓迎するが、学務課経由でお願いしたい。

授業科目名		担当教員	
病理学概論		松井　永子	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 後学期	2単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		医師	

授 業 概 要

病気を引き起こす原因を、病気の捉え方の歴史的移り変わりとともに概論する。ついで、病気の状態を、退行性病変、進行性病変、代謝異常、循環障害、免疫、炎症、感染症、腫瘍、放射線障害、老化、先天異常に分類し、それぞれの病的状態にみられる変化を解説する。

学 修 の 到 達 目 標

①この講義により、担当する患者さんの病態を理解し、より効果的な作業療法、視機能訓練につながることを目標とする。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	病理学概論および病因論	①	松井	講義	教科書第1章に目を通しておく。(120分)	病理学とは何かが理解できているか確認(120分)
2	細胞の異常　病気の本態	①	松井	講義	教科書第2章に目を通しておく。(120分)	細胞の構造についての理解を深める(120分)
3	先天異常	①	松井	講義	教科書第3章に目を通しておく。(120分)	染色体、遺伝子、DNA等の知識を再確認する(120分)
4	循環障害①	①	松井	講義	教科書第4章に目を通しておく。(120分)	体循環、肺循環の理解を深めるとともに異常をきたす機序を理解する(120分)
5	循環障害②	①	松井	講義	教科書第4章に目を通しておく。(120分)	出血、止血機構に関する理解を深める(120分)
6	代謝異常①	①	松井	講義	教科書第5章に目を通しておく。(120分)	糖代謝、脂質代謝につき理解を深める(120分)
7	代謝異常②	①	松井	講義	教科書第5章に目を通しておく。(120分)	タンパク代謝、電解質代謝等につき理解を深める(120分)
8	老化	①	松井	講義	教科書第6章に目を通しておく。(120分)	細胞の老化、個体の老化につき理解を深める(120分)
9	感染と感染症	①	松井	講義	教科書第7章に目を通しておく。(120分)	病原体と宿主の免疫につき理解する(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	免疫と免疫異常①	①	松井	講義	教科書第8章に目を通しておく。(120分)	生体の防御機構（自然免疫と獲得免疫）を理解する(120分)
11	免疫と免疫異常②	①	松井	講義	教科書第8章に目を通しておく。(120分)	アレルギーについて理解する(120分)
12	炎症	①	松井	講義	教科書第9章に目を通しておく。(120分)	炎症とは何かを十分に理解する(120分)
13	腫瘍①	①	松井	講義	教科書第10章に目を通しておく。(120分)	悪性腫瘍に関して理解する(120分)
14	腫瘍②	①	松井	講義	教科書第10章に目を通しておく。(120分)	癌遺伝子、癌抑制氏電子について理解する(120分)
15	腫瘍③	①	松井	講義	教科書第10章に目を通しておく。(120分)	治療について理解を深める(120分)
	定期試験　筆記					

評価基準・評価方法

期末試験（80%）および授業中のレポート（20%）で成績評価を行う。

使用教科書

なるほど　なっとく！　病理学病態形成の基本的なしくみ / 小林正伸.--2019年4月予定--南山堂, ISBN978-4-525-15162-1,

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	提出されたレポートにコメントをつけて返却する
備考	

授業科目名		担当教員	
内科学		近藤　直実・平野　智久・山本　眞由美・高田　信幸・坂　義人・古田　弥生　(代表教員　近藤　直実)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		近藤直実（医師）、平野智久（医師）、山本眞由美（医師）、高田信幸（医師）、坂義人（医師）、古田弥生（看護師）	

授 業 概 要
内科系疾患などの病態・診察・診断・治療について、およびそのアプローチを学ぶ。

学 修 の 到 達 目 標
①各論としては循環器系、代謝、内分泌系、消化器系、腎臓疾患、呼吸器系、血液疾患など、実際の理学療法に関連性の高い疾患を中心に学修し、概要を説明することができる。 近年重要性が増している予防医学についての基礎知識の概要説明することができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	循環器分野①　心臓の解剖、生理や虚血性心疾患,不整脈などについて学習する	①	平野		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
2	循環器分野②	①	平野		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
3	循環器分野③	①	平野		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
4	代謝・内分泌分野①　糖尿病の病態・機序・合併症・治療について学ぶ	①	山本		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
5	代謝・内分泌分野②　肥満・メタボリック症候群を中心に代謝疾患について学ぶ	①	山本		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
6	代謝・内分泌分野③　内分泌疾患の種類と機序について学ぶ　（間脳・下垂体、甲状腺、副腎を中心に）	①	山本		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
7	消化器分野①　生体維持の基本となる消化器疾患について学ぶ	①	古田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
8	消化器分野②	①	古田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
9	腎臓器疾患①　腎臓機能障害について学習する	①	坂		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	腎臓器疾患②	①	坂		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
11	呼吸器分野①　呼吸器機能の基礎と呼吸器疾患全般について学ぶ	①	高田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
12	呼吸器分野②	①	高田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
13	呼吸器分野③	①	高田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
14	呼吸器分野④	①	高田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
15	血液疾患　血液疾患について学ぶ	①	近藤		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（30分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（30分）
	定期試験　筆記					

評価基準・評価方法
定期試験　（９０％）、　小テスト（１０％）

使用教科書
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　内科学 / 鎌倉矩子ほか監修.--第３版（7刷）--医学書院，2019年，ISBN978-4-260-01707-7

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	小テストなどにコメントして返却など
備考	

授業科目名		担当教員	
整形外科学		西本　裕	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		西本裕（医師）	

授 業 概 要

運動器の外傷、疾患について、病因、経過、診断法、治療法を概説する。

学 修 の 到 達 目 標

①骨、関節、靭帯、筋肉、末梢血管、脊髄、末梢神経の損傷、障害について述べることができる。
②筋、骨格系の感染症、腫瘍、先天異常、発育障害、関節リウマチ、骨粗鬆症を含む代謝疾患、退行性疾患など整形外科的疾患について述べることができる。
③特に、脊椎固定術、人工関節置換術を中心に生体内人工材料にとって必要な条件、体内での経過について理解できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	運動器の外傷、障害　　総論	①	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
2	上肢の外傷、障害	①	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
3	下肢の外傷、障害	①	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
4	区画症候群、複合性局所疼痛症候群	①	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
5	体幹の外傷、障害	①	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
6	脊髄損傷	①	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
7	骨関節感染症	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
8	関節リウマチ	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
9	関節退行性疾患	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	循環障害、骨端症	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
11	先天異常、発育障害、神経筋疾患、側弯症	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
12	骨粗鬆症を含む代謝疾患	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
13	骨・軟部腫瘍　②	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
14	脊椎退行性疾患、絞扼性神経障害	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
15	生体内人工材料	③	西本	講義	第8,9,14回の知識の確認（30分）	講義内容の整理と確認（30分）
	定期試験　（筆記）					

評価基準・評価方法
毎回のミニテスト(25%)、定期試験(75%)

使用教科書
標準整形外科学 / 井樋栄二ほか監修.--第１４版--医学書院, 2020年, 978-4260038805

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	毎回、前回のミニテストへの全体的講評。 定期試験については、解答例を掲示する。
備考	

授業科目名		担当教員	
神経内科学		木村　暁夫・下畑　享良・林　祐一・山田　恵・吉倉　延亮・竹腰　顕 (代表教員　木村　暁夫)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		木村暁夫（医師）、下畑享良（医師）、林祐一（医師）、山田恵（医師）、吉倉延亮（医師）、竹腰顕（医師）	

授 業 概 要

①神経内科で扱う神経疾患の病態・診断・治療法について学び、理解を深める。
②個々の神経疾患における障害部位・認められる神経学的異常所見・異常検査所見に関し理解を深める。
③個々の神経疾患の治療の現状およびリハビリテーションの意義・注意点を理解する。

学 修 の 到 達 目 標

①個々の神経疾患の疾患名と病態に関し理解し、診断・治療法に関して具体的に説明できる。
②個々の神経疾患におけるリハビリテーションの必要性と施行時の注意点を理解できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	神経変性疾患Ⅰ（パーキンソン病）	① ②	下畑		使用教科書の該当箇所で事前学習する（30分）	講義配布資料と教科書で事後学習する。不明な点は参考図書で学習する（30分）
2	神経変性疾患Ⅱ（パーキンソン関連疾患）	① ②	下畑		使用教科書の該当箇所で事前学習する（30分）	講義配布資料と教科書で事後学習する。不明な点は参考図書で学習する（30分）
3	神経変性疾患Ⅲ（脊髄小脳変性症）	① ②	山田		使用教科書の該当箇所で事前学習する（30分）	講義配布資料と教科書で事後学習する。不明な点は参考図書で学習する（30分）
4	神経変性疾患Ⅳ（運動ニューロン疾患）	① ②	山田		使用教科書の該当箇所で事前学習する（30分）	講義配布資料と教科書で事後学習する。不明な点は参考図書で学習する（30分）
5	認知症（アルツハイマー型認知症）	① ②	吉倉		使用教科書の該当箇所で事前学習する（30分）	講義配布資料と教科書で事後学習する。不明な点は参考図書で学習する（30分）
6	認知症（非アルツハイマー型認知症）	① ②	吉倉		使用教科書の該当箇所で事前学習する（30分）	講義配布資料と教科書で事後学習する。不明な点は参考図書で学習する（30分）
7	免疫性神経疾患（重症筋無力症など）	① ②	木村		使用教科書の該当箇所で事前学習する（30分）	講義配布資料と教科書で事後学習する。不明な点は参考図書で学習する（30分）
8	免疫性神経疾患（多発性硬化症など）	① ②	木村		使用教科書の該当箇所で事前学習する（30分）	講義配布資料と教科書で事後学習する。不明な点は参考図書で学習する（30分）
9	末梢神経障害Ⅰ	① ②	竹腰		使用教科書の該当箇所で事前学習する（30分）	講義配布資料と教科書で事後学習する。不明な点は参考図書で学習する（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	末梢神経障害Ⅱ	① ②	竹腰		使用教科書の該当箇所で事前学習する（30分）	講義配布資料と教科書で事後学習する。不明な点は参考図書で学習する（30分）
11	筋疾患Ⅰ	① ②	林		使用教科書の該当箇所で事前学習する（30分）	講義配布資料と教科書で事後学習する。不明な点は参考図書で学習する（30分）
12	筋疾患Ⅱ	① ②	林		使用教科書の該当箇所で事前学習する（30分）	講義配布資料と教科書で事後学習する。不明な点は参考図書で学習する（30分）
13	頭部外傷・脊髄損傷	① ②	林		使用教科書の該当箇所で事前学習する（30分）	講義配布資料と教科書で事後学習する。不明な点は参考図書で学習する（30分）
14	脳腫瘍	① ②	林		使用教科書の該当箇所で事前学習する（30分）	講義配布資料と教科書で事後学習する。不明な点は参考図書で学習する（30分）
15	脳炎・脳症	① ②	竹腰		使用教科書の該当箇所で事前学習する（30分）	講義配布資料と教科書で事後学習する。不明な点は参考図書で学習する（30分）
	定期試験　筆記					

評価基準・評価方法

定期試験（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）など総合的に判断

使用教科書

標準理学療法学・作業療法学　神経内科学 / 鎌倉矩子ほか監修.--第５版--医学書院，2019年，978-4-260-03817-1

参考図書

・臨床のための脳局所解剖学（中外医学社）
・神経内科ハンドブック　鑑別診断と治療第5版（医学書院）
・全ての内科医が知っておきたい神経疾患の診かた、考え方とその対応（羊土社）

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	それぞれの担当教員は、国家試験問題を参考に試験問題を作成し、その結果をみて、次年度以降の講義の仕方を工夫する
備考	理学療法士　作業療法士国家試験問題解答と解説（医師薬出版編）

授業科目名		担当教員	
精神医学		宮地　幸雄	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 後学期	2単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		宮地幸雄（臨床心理士）	

授 業 概 要

精神疾患についての基本的知識並びに精神疾患を罹患した人との基本的な援助方法を学ぶ。

学 修 の 到 達 目 標

臨床場面で援助方法の基本が活用できるようになる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	人が生きるということについてを考える				教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
2	自殺について				教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
3	精神医学の歴史について				教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
4	こころの発達と防衛機制について				教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
5	臨床心理検査について				教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
6	よくみられる精神症状について―その１				教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
7	よくみられる精神症状について―その２				教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
8	統合失調症について―その１				教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
9	統合失調症について―その２				教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	感情障害について				教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
11	心因性精神障害について				教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
12	知的障害・発達障害について				教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
13	心理療法について				教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
14	チームアプローチについて				教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
15	医療従事者の姿勢について				教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法
定期試験で評価する

使用教科書
精神医学テキストー精神障害の理解と治療のために / 上島国利ほか.--改訂第4版--南江堂, 2017年, ISBN978-4-524-25942-7

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	
備考	講師は臨床心理士。非医師であるが、精神科病院での事例を提示し臨床現場の話をしてみたい。

授業科目名		担当教員	
小児科学		近藤　直実・近藤　富雄・堀田　亮　(代表教員　近藤　直実)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	2単位(30時間)	講義 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		近藤直実（医師）、近藤富雄（医師）、堀田亮（臨床心理士）	

授 業 概 要

小児はただ単に体の小さな成人ではなく、つねに成長発達をする存在である。罹患しやすい疾患についても年齢によって異なる。このような小児の特徴を理解することが重要である。

学 修 の 到 達 目 標

①胎児・新生児期および小児特有の生理・病態生理を理解し、説明することができる。
②胎児から子供の誕生、そして成長し次世代の子供を持つまでをひとつのLife cycle と捉え、この成長過程における生理と病態生理を理解し、説明することができる。
③子供のCommon Disease ,特有な疾患を理解し説明することができる。すなわち、子供がよく罹患する疾患、頻度は低いが子供特有な疾患について病態・診断・治療、予防法を学ぶ。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	小児科概論　成長と発達	① ②	近藤 (直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。 （120分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。 （120分）
2	成長と発達	① ②	近藤 (直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。 （120分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。 （120分）
3	新生児と疾患	① ②	近藤 (直)	①②	教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。 （120分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。 （120分）
4	先天異常　遺伝病	① ②	近藤 (直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。 （120分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。 （120分）
5	神経、筋疾患	③	近藤 (直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。 （120分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。 （120分）
6	神経、筋疾患	③	近藤 (直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。 （120分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。 （120分）
7	循環器疾患	③	近藤 (直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。 （120分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。 （120分）
8	消化器疾患、内分泌疾患	③	近藤 (直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。 （120分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。 （120分）
9	血液疾患、腫瘍性疾患	③	近藤 (直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。 （120分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。 （120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	腎、泌尿器疾患、目、耳の疾患　等	③	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（120分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（120分）
11	呼吸器疾患	③	近藤(富)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（120分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（120分）
12	呼吸器疾患	③	近藤(富)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（120分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（120分）
13	アレルギー免疫疾患	③	近藤(富)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（120分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（120分）
14	こころの病気、障害	③	堀田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（120分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（120分）
15	発達、心理検査	③	堀田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。（120分）	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。（120分）
	定期試験　筆記					

評価基準・評価方法

定期試験　（８０％）、　小テスト（２０％）

使用教科書

標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「小児科学」 / 鎌倉矩子ほか監修.--第５版（3刷）--医学書院，2019年，ISBN978-4-260-03434-0

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	小テストなどにコメントして返却など
備考	資料などにて補足説明を行う。

授業科目名		担当教員	
リハビリテーション医学		西本　裕	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 後学期	2単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		西本裕（医師）	

授 業 概 要

① 疾病と障害の違い、障害のとらえ方を理解する(1, 2, 4)。
② 脳血管障害のリハビリテーションについて理解する(3, 5-8)。
③ 内部障害のリハビリテーションについて理解する(9, 10)
④ 運動器リハビリテーションについて理解する(11, 12)
⑤ 感覚器障害のリハビリテーションについて理解する(13)
⑥ リハビリテーションの根拠について考察し、創造的な思考を養う(14, 15)。

学 修 の 到 達 目 標

医療、福祉の領域でリハビリテーション医学の立場を説明することができ、実践時にどのように応用されているかについて述べることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	リハビリテーションの実際	①	西本	講義	教科書の該当部分を確認（120分）	講義内容の整理と確認（120分）
2	運動学・生理学	①	西本	講義	教科書の該当部分を確認（120分）	講義内容の整理と確認（120分）
3	脳卒中のリハビリテーション　（ADL障害、QOLについて）	②	西本	講義	教科書の該当部分を確認（120分）	講義内容の整理と確認（120分）
4	障害分類、ＦＩＭ（Functional Independence Measure）	①	西本	講義	教科書の該当部分を確認（120分）	講義内容の整理と確認（120分）
5	障害分類、ＦＩＭ（Functional Independence Measure）	②	西本	講義	教科書の該当部分を確認（120分）	講義内容の整理と確認（120分）
6	運動療法	②	西本	講義	教科書の該当部分を確認（120分）	講義内容の整理と確認（120分）
7	嚥下障害のリハビリテーション	②	西本	講義	教科書の該当部分を確認（120分）	講義内容の整理と確認（120分）
8	排尿障害のリハビリテーション	②	西本	講義	教科書の該当部分を確認（120分）	講義内容の整理と確認（120分）
9	心疾患のリハビリテーション	③	西本	講義	教科書の該当部分を確認（120分）	講義内容の整理と確認（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	呼吸器のリハビリテーション	③	西本	講義	教科書の該当部分を確認（120分）	講義内容の整理と確認（120分）
11	切断と義足･義手	④	西本	講義	教科書の該当部分を確認（120分）	講義内容の整理と確認（120分）
12	装具・杖と車椅子	④	西本	講義	教科書の該当部分を確認（120分）	講義内容の整理と確認（120分）
13	平衡機能障害・聴力障害・視力障害	⑤	西本	講義	教科書の該当部分を確認（120分）	講義内容の整理と確認（120分）
14	障害者スポーツ	⑥	西本	講義	教科書の該当部分を確認（120分）	講義内容の整理と確認（120分）
15	廃用症候群	⑥	西本	講義	第1-14回の講義内容、および教科書の該当部分を確認（120分）	講義内容の整理と確認（120分）
	定期試験　（筆記）					

評価基準・評価方法
毎回のミニテスト(25%)、定期試験(75%)

使用教科書
要点整理と用語解説 / 椿原彰夫編著.--改訂第3版--診断と治療社，2017年，ISBN 978-4-7878-2345-8

参考図書
義肢装具のチェックポイント　第8版　医学書院，2014年，日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会，ISBN978-4-260-01744-2

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	
備考	

授業科目名		担当教員	
老年医学		武内　康雄	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		武内康雄（医師）	

授 業 概 要

老化と疾病は密接な関係にあり、その両面から障害を捉えなければならない。この講義では老化についての生理学的変化や能力的変化を整理し、老年期症候群、認知症、廃用症候群など高齢者特有の疾患について解説する。さらに種々の疾患について高齢者の特徴を概説するとともに、容易に寝たきりに移行しうる危険性が高いことについて触れる。

学 修 の 到 達 目 標

①高齢者の生理的・病的変化を理解し、老年症候群の症状を10以上挙げて説明できる。
②高齢者に多い循環器･呼吸器･消化器･骨運動器･精神･神経・内分泌・血液免疫･腎泌尿器・皮膚口腔・耳鼻咽喉･眼疾患について、疾患を挙げて説明できる。
③高齢者の医療･看護･介護･福祉について理解し、リハビリテーション･終末期医療について説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	老化と老年病の考え方、加齢に伴う生理機能の変化	①	武内		講義当日のテーマを知り，教科書の該当部分を読むことを期待する。（45分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（45分）
2	加齢に伴う運動機能・精神心理面の変化、性差医療からのアプローチ	①	武内		講義当日のテーマを知り，教科書の該当部分を読むことを期待する。（45分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（45分）
3	高齢者の定義および人口動態、高齢者との接し方、高齢者の機能評価	①	武内		講義当日のテーマを知り，教科書の該当部分を読むことを期待する。（45分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（45分）
4	高齢者の薬物療法の考え方、高齢者に多い症候と老年症候群	①	武内		講義当日のテーマを知り，教科書の該当部分を読むことを期待する。（45分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（45分）
5	高齢者の薬物療法の考え方、高齢者に多い症候と老年症候群	①	武内		講義当日のテーマを知り，教科書の該当部分を読むことを期待する。（45分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（45分）
6	循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、骨・運動器疾患	②	武内		講義当日のテーマを知り，教科書の該当部分を読むことを期待する。（45分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（45分）
7	呼吸器疾患、消化器疾患、骨・運動器疾患	②	武内		講義当日のテーマを知り，教科書の該当部分を読むことを期待する。（45分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（45分）
8	骨・運動器疾患、神経疾患	②	武内		講義当日のテーマを知り，教科書の該当部分を読むことを期待する。（45分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（45分）
9	精神疾患、内分泌代謝疾患	②	武内		講義当日のテーマを知り，教科書の該当部分を読むことを期待する。（45分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（45分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	内分泌代謝疾患、血液免疫疾患	②	武内		講義当日のテーマを知り，教科書の該当部分を読むことを期待する。（45分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（45分）
11	腎疾患、泌尿器疾患、皮膚・口腔疾患	②	武内		講義当日のテーマを知り，教科書の該当部分を読むことを期待する。（45分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（45分）
12	感染症、耳鼻咽喉疾患、眼疾患	②	武内		講義当日のテーマを知り，教科書の該当部分を読むことを期待する。（45分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（45分）
13	東洋医学・老年学からのアプローチ、社会学・経済学から見た高齢社会	③	武内		講義当日のテーマを知り，教科書の該当部分を読むことを期待する。（45分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（45分）
14	高齢者の医療、看護、介護・福祉、保健、高齢者のリハビリテーション	③	武内		講義当日のテーマを知り，教科書の該当部分を読むことを期待する。（45分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（45分）
15	高齢者の退院支援、高齢者の終末期医療	③	武内		講義当日のテーマを知り，教科書の該当部分を読むことを期待する。（45分）	授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。（45分）
	定期試験　筆記	① ② ③	武内			

評価基準・評価方法
期末筆記試験100％

使用教科書
疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 / 大橋健一ほか.--第5版--医学書院，2015年，978-4-260-01986-6

参考図書
適時紹介する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	試験解答の一部を公開する。
備考	

授業科目名		担当教員	
公衆衛生学		大森　正英	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 後学期	1単位(15時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。			

授 業 概 要

公衆衛生学は社会や集団を対象とした医学であり、個人の心身の疾病予防、健康の保持増進に止まらず、高齢社会対策、社会福祉、環境保全ならびに環境汚染防止など、社会全体、時に全地球をも対象とした多岐にわたる内容から構成されている。個人の健康を対象とした臨床医学とは異なる面からも人間及び社会と健康との関わりについて考えるとともに、その実践に必要な知識と技術を学ぶ。

学 修 の 到 達 目 標

①公衆衛生学とは何か、その内容と適応範囲について理解する。
②近代社会になぜ公衆衛生学が必須なのか理解する。
③日本の健康の現状を知り、公衆衛生学が時代とともに変化、発展していくことを学ぶ。
④疾病の予防について公衆衛生学の面から考える。
⑤環境問題について環境衛生学の立場から理解を深める。
⑥健康増進活動の実態と効果について公衆衛生学的な視野からの考え方を身に付ける。
⑦公衆衛生学で学んだことを実生活や実務に役立てる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	公衆衛生学概論　　公衆衛生学とは何か	①			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。（120分）	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。（120分）
2	健康の現状　　疾病構造の変化と健康の現状	①、②			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。（120分）	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。（120分）
3	人口と寿命　　平均寿命、平均余命、高齢化	②、③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。（120分）	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。（120分）
4	社会保障、社会福祉、医療制度　　社会を支える各制度について学ぶ	③、④			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。（120分）	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。（120分）
5	疫学　　疫学の手法、疾病予防と疫学	②、⑤			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。（120分）	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。（120分）
6	環境衛生学　　大気、水、環境汚染、食環境など、環境と健康の関り	⑤、⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。（120分）	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。（120分）
7	労働衛生、学校保健　　職場、学校の健康を守る	④、⑦			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。（120分）	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。（120分）
8	健康増進医学、公衆衛生活動の展開	④、⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。（120分）	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。（120分）

評価基準・評価方法	
評価基準：公衆衛生学に関する基礎知識、理解度及び公衆衛生学的思考法の確立の度合いを評価する 評価方法：筆記試験ならびに課題(レポート)による。　割合はそれぞれ90%,10%	
使用教科書	
イラスト公衆衛生学 / 石川哲也.--東京教学社, 978－4－8082－6055－2	
参考図書	
適時、紹介する	
課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	
備考	課題や試験問題に関する解説はその都度行う。授業中の質問は随時、受け付ける。メール等による質問も歓迎するが、事務局経由でお願いしたい。

授業科目名		担当教員	
画像診断学		河村　章史・竹中　孝博・樅山　貴子　(代表教員　河村　章史)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 後学期	1単位(15時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		樅山貴子（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）	

授 業 概 要

神経疾患、運動器疾患及び内部疾患における主要な画像評価に関して、その概要及び方法を学修する。画像読影では実際の画像を活用し、そこから読み取ることができる病態や症状などについて学ぶ。

学 修 の 到 達 目 標

①特にレントゲン、CT、MRIについて臨床実習等で必要な情報を得ることができる。
②実際の画像から疾患、症状を予測し、それを評価・介入に繋げることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション、医療画像の基礎	①	樅山	講義	教科書の通読（120分）	講義で提示した課題（120分）
2	神経系疾患における画像読影の基礎	①	河村	講義	教科書p.2-18をまとめる（120分）	講義で提示された課題（120分）
3	神経系疾患における画像読影演習	①② 樅山 河村 竹中	演習	前回の講義で提示された課題（120分）	演習で提示された課題（120分）	
4	運動器疾患における画像読影の基礎	①	竹中	講義	事前に提示された課題（120分）	講義で提示された課題（120分）
5	運動器疾患における画像読影演習	①② 樅山 河村 竹中	演習	事前に提示された課題（120分）	演習で提示された課題（120分）	
6	内部疾患における画像読影の基礎	①	樅山	講義	事前に提示された課題（120分）	講義で提示された課題（120分）
7	内部疾患における画像読影演習	①② 樅山 河村 竹中	演習	前回の講義で提示された課題（120分）	演習で提示された課題（120分）	
8	画像読影ケーススタディ演習	①② 樅山 河村 竹中	演習	前回の演習で提示された課題（120分）	演習で提示された課題（120分）	
	課題					

評価基準・評価方法	
課題(50%)及び演習への貢献度(50%)で評価する。	
使用教科書	
脳画像 / 前田眞治.--医学書院, 第1版, 978-4-260-03250-6	
参考図書	
PT・OTのための画像評価に基づく疾患別ケーススタディ／奈良勲、淺井仁、柴田克之　編. 第1版, 三輪書店, 2019年, ISBN978-4-89590-678-4	
課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	講義・演習中にフィードバックの時間を設ける。
備考	

授業科目名		担当教員	
リハビリテーション栄養学		久保　和弘	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 前学期	1単位(15時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。			

授 業 概 要

栄養素は身体のエネルギー源であると同時に，身体の構成要素である。栄養状態は過剰でも不足でも心身機能に大きな影響を及ぼすため，リハビリテーションに求められる全人的な評価の一つの要素として患者の状態を正しく評価することが求められている。本科目では，各栄養素の基本的な性質や働き，基本的な栄養評価方法を理解するとともに，身体における栄養の役割を学習し，医療者に求められる栄養学の基礎を構築することを目標とする。

学 修 の 到 達 目 標

各栄養素の基本的な性質や働きについて学び，リハビリテーションにおける栄養学の必要性について説明できる。
①各栄養素の性質や働きを説明することができる
②基本的な栄養・代謝障害について説明できる
③基本的な栄養評価方法を説明できる
④栄養不良や過栄養の身体への影響を説明できる

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	リハビリテーションにおける栄養の重要性・概念	①②③④			資料及び教科書該当ページに目を通す。（120分）	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。（120分）
2	糖質・食物線維の栄養的意味を理解する	①②③④			資料及び教科書該当ページに目を通す。（120分）	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。（120分）
3	たんぱく質・アミノ酸の栄養的意味を理解する	①②③④			資料及び教科書該当ページに目を通す。（120分）	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。（120分）
4	脂質・脂肪酸の栄養的意味を理解する。	①②③④			資料及び教科書該当ページに目を通す。（120分）	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。（120分）
5	ビタミンの栄養的意味を理解する。	①②③④			資料及び教科書該当ページに目を通す。（120分）	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。（120分）
6	ミネラル・水分の栄養的意味を理解する。	①②③④			資料及び教科書該当ページに目を通す。（120分）	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。（120分）
7	基本的な栄養評価方法を理解する。	①②③④			資料及び教科書該当ページに目を通す。（120分）	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。（120分）
8	身体活動・エネルギーの栄養的意味を理解する。	①②③④			資料及び教科書該当ページに目を通す。（120分）	各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。（120分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法	
定期試験（100%）により評価する。	
使用教科書	
リハベーシック　生化学・栄養学 / 内山靖、藤井浩美、立石雅子　編.--第1版--医歯薬出版，2020年，ISBN978-4-263-26752-3	
参考図書	
いずれも閲覧・ダウンロード可 ●「日本人の食事摂取基準（2015年版）策定検討会」報告書 http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000041824.html ●国民健康・栄養調査 http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html ●日本食品標準成分表2015年版（七訂） http://www.mext.go.jp/a_menu/syokuhinseibun/1365297.htm	
課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	提出された課題について，適宜，授業中に補足的な解説を行う。
備考	教科書，プリントを中心に授業をすすめる。

授業科目名		担当教員	
薬理学		大津　航	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(15時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		大津　航 (獣医師)	

授 業 概 要

薬物による人間の反応や作用機序の理解，投与方法，体内動態に関する基本的事項を理解した上で，対象疾患に関連した薬物療法の考え方について学ぶ。あわせて，薬物の副作用やその多剤服用（ポリファーマシー）症状についても学ぶ。これらを理解することにより，臨床講義や実習で必要とされる薬物治療の基礎を習得できることを目指す。各授業の最初には、前回の授業内容を復習する時間（質問形式）を設ける。各授業の最後には、その日の授業のまとめを行い、重要なポイントを確認する。

学 修 の 到 達 目 標

①薬物の使用目的や薬物の作用機序、体内動態について理解できる。
②薬物の取扱い、投与方法、副作用について理解できる。
③各種疾患に対する薬物療法について理解できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	薬理学総論	①	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。(60分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。(60分)
2	薬理学各論　抗感染症薬	① ②	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。(90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。(150分)
3	薬理学各論　抗がん薬	① ② ③	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。(90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。(150分)
4	薬理学各論　免疫治療薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬	① ② ③	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。(90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。(150分)
5	薬理学各論　末梢神経に作用する薬物	① ② ③	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。(90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。(150分)
6	薬理学各論　中枢神経に作用する薬物	① ② ③	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。(90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。(150分)
7	薬理学各論　心臓・血管系に作用する薬物1	① ② ③	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。(90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。(150分)
8	薬理学各論　呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	① ② ③	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。(90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。(150分)
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法	
期末試験の成績（100%）及び授業態度等を総合的に判断して評価する。	
使用教科書	
系統看護学講座専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学 / 吉岡充弘ほか.--第14版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03184-4	
参考図書	
リハに役立つ治療薬の知識とリスク管理／宮越浩一編. 羊土社, 2019年, ISBN978-4-7581-0243-8	
課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	質問は授業中及び授業の終わりに常時受け付けている。また授業の最初に前回の復習を行っているので、その際に質問も受け付けている。
備考	

授業科目名		担当教員	
医療安全管理論		眞田　正世	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	講義･演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		眞田正世（看護師）	

授 業 概 要

安全はあらゆる分野において最も肝要な事である。特に近年、医療安全は医療界の最優先課題となっている。ここでは、医療安全と医療事故の問題に焦点をあて学習を進めたい。まず医療安全管理を学ぶ意義を理解し、その上で医療安全の基本的考え方を学ぶ。また、医療事故とリハビリテーションにおける関係を知り、その上で医療事故防止の考え方や医療事故発生時の対応を学ぶ。また、リハビリテーション学科の学生としての医療安全を学ぶことで、実習における安全管理の在り方を学ぶ。演習では、医療事故防止の実際をKYTを活用し、臨地での対応に結び付ける。

学 修 の 到 達 目 標

知識：①医療安全の基本的考え方と医療事故防止について述べることができる。
技術：②医療事故の分析手法やKYTを活用し、考察することができる。
態度：③医療安全管理に興味を持ち、取り組む姿勢を持つことができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	医療安全を学ぶ意義	① ③		講義		医療安全の歴史、医療安全推進対策(60分)
2	医療安全の基本的考え方：ヒューマンエラー	① ③		講義		ヒューマンエラー(60分)
3	医療安全の基本的考え方：医療安全の用語とモデル	① ③		講義		医療安全の用語(60分)
4	医療事故とリハビリテーションとの関係	① ③		講義	医療安全の用語(20分)	看護業務と医療事故（40分）
5	医療事故防止の考え方：組織としてと個人としての医療事故防止対策	① ③		講義		組織と個人の医療事故防止(60分)
6	医療事故防止の考え方：医療分析手法と危険予知訓練	②		講義 演習		医療事故分析手法(60分)
7	事故後の対応	① ③		講義		医療事故後の対応(60分)
8	インシデントレポートと活用の実際	① ③		講義 演習		インシデントレポートの活用(60分)
9	学生における医療安全	① ③		演習		５S、個人情報保護、危険認知と報告(60分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	医療事故防止の実際：体位・姿勢の保持・移動	②		演習	KYT(60分)	体位・姿勢(60分)
11	医療事故防止の実際１	②		演習		環境整備・感染防止・医療廃棄物の取り扱い（60分）
12	医療事故防止の実際２	②		演習		理学療法・作業療法・視機能訓練における事故防止の実際(60分)
13	医療事故防止の実際３	②		演習		理学療法・作業療法・視機能訓練における事故防止の実際(60分)
14	臨床における医療安全の実際	① ③		講義		
15	臨床における医療事故の実際	① ③		講義		臨床における医療事故防止(60分)
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法

履修態度（20％）、筆記試験（80％）での総合評価

使用教科書

参考図書

系統看護学講座　総合分野　医療安全（医学書院）
ＲＣＡの基礎知識活用事例、等その他適宜紹介
学研eナーシング　厚生労働省の医療安全研修資料

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	レポート等に関してはコメントを記入する。または次回講義で説明をする。
備考	教科書は特別使用しないが、必要時書籍紹介する。授業は毎回、パワーポイント使用して進める。 関連する教科と結び付けて学習し、単に知識に止まらず実践的能力として身につけてほしい。よって、積極的に学び取る姿勢で臨んでほしい。グループワークなどの演習も取り入れ出来るだけ参加型授業形態をとり、共に楽しく学べる授業としたい。（大声での雑談等で、授業を乱す学生は状況により退室とするが、教室全体の問題として当事者学生以外の学生に判断を委ねる）

授業科目名		担当教員	
保健医療論		松岡　敏男	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 前学期	1単位(15時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。			

授 業 概 要

現在、健康や医療に関する情報が氾濫している。多くの情報の何が正しいのか、自分に本当に役にたつのか、また何をを取り入れ、実践すれば健康を維持、増進させることができるのか戸惑うばかりである。健康に良いとされていることであっても間違った方法を実践すれば健康を害することもある。また生活習慣により引き起こされる疾病も多く、日常生活の重要さを考えさせられる。学生時代に正しい健康観を学ぶこと、並びによりよいライフスタイルを身につけ、健康生活を実践できるようにすることと、医療に関するいろいろな問題に正しく理解が出来るような講義を行う。

学 修 の 到 達 目 標

①学生として将来に継続できる正しい健康感を身につけ、よりよい生活習慣の実践を行い、健康的な生活ができるように健康を学習する。
②そしてそのために努力できるように心がける態度を身に着ける。
③活力ある学生生活とはどのようなものかを理解する。
④医療制度に関心を持ち、自分たちで解決できることを考え、より良いものにするための方向を模索する。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	健康について（健康感・医療・福祉など）	①		講義	健康観に関して考えておく（120分）	将来にわたる健康に取り組む姿勢を作る（120分）
2	健康について　（睡眠、日光浴、タバコ、温泉）	①		講義	健康関連事項の正しい理解について(120分)	健康生活を送れるように正しい健康理解(120分)
3	健康について　運動の効果　ウォーキング・ジョギング	③		講義	運動の功罪に関して予習する(120分)	運動の正しい理解をする(120分)
4	運動処方・療法　　ダイエットの功罪	②		講義	運動の理解を深め健康手段として取り入れる方法に関して予習する。(120分)	運動の正しい行い方の理解をする(120分)
5	生活習慣病－肥満、糖尿病	②		講義	生活習慣病とはどの様な病気なのかを調べておく(120分)	生活習慣の見直しを考える(120分)
6	生活習慣病－高血圧、脂質異常、高尿酸血症	②		講義	生活習慣病とはどの様な病気なのかを調べておく(120分)	生活習慣の見直しを考える(120分)
7	高齢者・中年の健康・生活について	③		講義	高齢者の生活・医療に関して調べる(120分)	高齢者の実情の把握、問題点の整理(120分)
8	医療・保健に関して	④		講義	医療に関する諸問題に関して調べる(120分)	医療に関する問題点の整理(120分)
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法	
定期試験（100%）により評価する。	
使用教科書	
教科書は使用しない。	
参考図書	
毎回授業に関するプリントを配布する。シラバスに掲げている関係事項についていろいろな書物や参考に記事などを調べること。	
課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	重要課題に対して翌週授業時に復習の意味で問題点に関して話し合う時間を設ける。
備考	

授業科目名		担当教員	
社会福祉学		竹内　章郎	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 後学期	1単位(15時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。			

授 業 概 要

現在、社会福祉を含む社会保障全体が、大きな転換点にある。それは、社会保障を支える福祉国家体制それ自体の「危機」という大きな問題からくるものであるが、同時に、社会保障の基盤である社会権（法）の基本的理解の問題や資本主義市場と社会保障との関係などにも及ぶ問題から生じていることもある。この講義ではそうした大きな問題を、社会福祉の現場実践と関係づけて捉えることを通じて、社会福祉・社会保障の本質を解明したい。事前学習については、毎回、次回講義のための事前学習の範囲を指定する。

学 修 の 到 達 目 標

①社会福祉を含む社会保障の現実を、その基礎に立ち返って理解する。
②大きな制度的問題と社会福祉実践の現実とを結び付けて理解する。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ガイダンス（全体の進行について）、社会福祉と社会保障との関連について（善き生存としての福祉を中心に）	①		講義	既配布の資料全体に目を通しておく（120分）	左記の講義内容とこれに関わる資料の再読（120分）
2	日本の社会保障・社会福祉の基礎：憲法25条（13条との関連）：プログラム規定・義務規定/行政裁量の理解	②		講義	予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
3	福祉国家体制の由来、措置制度と契約制度、福祉職と医療職、福祉の民営化・市場化問題	②		講義	予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
4	権利としての社会保障（１）：市民権と社会権との相違、私的所有と市民権	①		講義	予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
5	権利としての社会保障（２）：社会権の基礎、憲法14条との関連、申請主義の問題	①		講義	予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
6	福祉六法体制とそれ以降、戦後日本の社会保障制度の流れ	②		講義	予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
7	貧困問題と生活保護、社会手当制度、労災保険制度、雇用保険制度、年金保障制度	②		講義	予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
8	障害者福祉制度、子ども手当制度、高齢者福祉制度（公的介護保険制度）	②		講義	予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）

評価基準・評価方法	
最終のレポートによって評価する。講義内容の正確な理解に加えて、内容を表現する文章力も評価の対象とする。	
使用教科書	
教科書は使用せず、竹内が作成したレジュメ及び資料にそって講義を行う。	
参考図書	
必要に応じて、講義中に紹介する。	
課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	講義中に、適宜、質疑応答を行う。
備考	資料及びレジュメは、すべて、最初の講義時に配布する。

授業科目名		担当教員	
多職種連携演習（IPE）		加藤　清人・河村　章史・世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・井上　忠俊・樅山　貴子・浅野　莉沙　(代表教員　加藤　清人)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	2単位(30時間)	演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・世良龍哉（作業療法士）・永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・浅野莉沙（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）	

授 業 概 要

地域包括ケアを実践する上で、医学的な視点のみならず、対象者の心理的・社会的な視点にも配慮した医療が求められる中でチーム医療は必須の手段であり、より良いサービスを実践するためには多職種との有機的な連携と協業は欠かせない。この授業では、専門職間の有機的な連携と協業についての基礎知識や理論、連携のためのマネジメントの実際についてそれぞれの専門的な立場から考察し、多職種連携が果たす役割や機能について学ぶ。また、学科専攻を越えたグループワーク演習を通じて、コミュニケーションやディスカッションの実践力を身につける。

学 修 の 到 達 目 標

①多職種連携の意義について説明できる。
②他の職種の役割を説明できる。
③保健・医療・福祉における多職種連携の在り方を具体的に説明できる。
④様々な人々との協同を通して、保健・医療・福祉の諸課題に対処できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション	①	加藤	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
2	多職種連携の意義	①	加藤	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
3	他職種の役割を知る（１）	②	永井	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
4	他職種の役割を知る（２）	②	竹中	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
5	他職種の役割を知る（３）	②	浅野	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
6	保健領域における多職種連携	③	加藤	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
7	医療（身体障害）における多職種連携（１）	③	河村	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
8	医療（精神障害）領域における多職種連携（２）	③	世良	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
9	福祉領域における多職種連携	③	井上	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	多職種連携演習（１）	③④	全教員	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
11	多職種連携演習（２）	③④	全教員	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
12	多職種連携演習（３）	③④	全教員	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
13	多職種連携演習（４）	③④	全教員	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
14	多職種連携演習（５）	③④	全教員	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
15	多職種連携で必要とされる知識・技術の整理	③④	全教員	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
	課題					

評価基準・評価方法
受講態度（20%）、課題（80%）を総合的に判断する。

使用教科書
毎回、演習前または演習時に資料を配布する。

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	各担当教員の講義終了時に全体に向けてフィードバックを行う。
備考	

リハビリテーション学科

作業療法専攻

専門科目

授業科目名		担当教員	
作業療法総論		加藤　清人	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）	

授 業 概 要

作業療法士を目指す学生が、作業療法の発展過程を理解することで作業療法の役割を学ぶ。また、作業療法の骨子を構成する各専門領域の概観を理解し、その領域における作業療法士に必要な知識と技術を系統的に学習する。講義では、教科書を中心とした調べ学習を行い、グループワークを通して学びを深めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①作業療法士に求められる資質、定義・歴史について説明することができる。
②作業療法の対象や時期、過程について説明することができる。
③分野別の作業療法について説明することができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	専門職に求められる資質と適正	①			第7章作業療法士としての責任、職業人としての倫理を読んでおく（30分）	課題　作業療法士に求められる資質と適正についてまとめる（30分）
2	作業療法の特徴・作業療法の定義・職域	①			第1章、第2章の作業療法の特徴・作業療法の定義・職域について目を通す（30分）	課題　講義内容についてまとめる（30分）
3	作業とは	①			第2章の該当箇所について読んでおく（30分）	課題　講義内容についてまとめる（30分）
4	ライフサイクルと作業活動	①			第2章の該当箇所について読んでおく	課題　講義内容についてまとめる（30分）
5	日本と世界の作業療法の歴史	①			第3章の該当箇所について読んでおく（30分）	課題　講義内容についてまとめる（30分）
6	作業療法の対象	①			第4章の該当箇所について読んでおく（30分）	課題　講義内容についてまとめる（30分）
7	作業療法の原理・理論を理解し、疾患と病気をICFから概観する	①			第4章の該当箇所について読んでおく（30分）	課題　講義内容についてまとめる（30分）
8	作業療法の過程（１）	②			第６章の該当箇所について読んでおく（30分）	課題　講義内容についてまとめる（30分）
9	作業療法の過程（２）	②			第６章の該当箇所について読んでおく（30分）	課題　講義内容についてまとめる（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	身体障害領域の作業療法	③			第５章の該当箇所について読んでおく（30分）	課題　講義内容についてまとめる（30分）
11	精神障害領域の作業療法	③			第５章の該当箇所について読んでおく（30分）	課題　講義内容についてまとめる（30分）
12	発達障害領域の作業療法	③			第５章の該当箇所について読んでおく（30分）	課題　講義内容についてまとめる（30分）
13	老年期障害領域の作業療法	③			第５章の該当箇所について読んでおく（30分）	課題　講義内容についてまとめる（30分）
14	作業療法の管理・運営	③			第７章の該当箇所について読んでおく（30分）	課題　講義内容についてまとめる（30分）
15	保健・医療・福祉制度	③			配布資料を読んでおく（30分）	課題　講義内容についてまとめる（30分）
	定期試験　筆記					

評価基準・評価方法
小テスト（40%）、期末試験（60%）を総合的に評価する。

使用教科書
作業療法学全書　第1巻　作業療法概論 / 杉原素子編集.--改訂第3版--協同医書出版社, 2010年3月19日発行, ISBN 978-4-7639-2118-5

参考図書
講義の際に適宜紹介する。ビデオと資料を使用する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	各回において、全体に向けてフィードバックを行う。
備考	次週の要点を説明するので、予習と復習を怠らないこと。 質問は随時受け付ける。

授業科目名		担当教員	
基礎作業療法学		坂田　崇好・建石　光貴・永井　貴士　(代表教員　坂田　崇好)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		坂田崇好（作業療法士）、建石光貴（作業療法士）	

授 業 概 要

作業療法士は「作業」を治療として扱うリハビリテーション専門職種である。故に、「作業」とは何なのかを理解し、それを対象者にどのように用いることが必要になるのかを、作業療法理論を用いて解釈する授業である。

学 修 の 到 達 目 標

①人間にとって「作業」は何なのかを知り、理解を深めることができる。
②評価・治療手段としての「作業」の意味を考え、理解を深めることができる。
③「作業」と健康について考え、対象者が「作業」を獲得する方法について理解を深めることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	「作業」とは？	①	坂田	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
2	人間作業モデルについて	①②②	坂田	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
3	意志（興味）について	①②②	坂田	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
4	意志（価値）について	①②②	坂田	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
5	意志（個人的原因帰属）について	①②②	建石	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
6	役割（習慣）について	①②②	建石	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
7	カナダ作業遂行モデルとの違いとCOPMの活用	①②②	坂田	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
8	遂行能力（運動技能と処理技能）について	①②②	坂田	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
9	遂行能力（コミュニケーションと交流技能）について	①②②	坂田	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	環境と作業	① ②	坂田	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
11	作業的生活について（ナラティブ・アプローチを用いて）	① ②	建石	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
12	作業に基づく実践について	① ②	建石	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
13	世界の作業療法理論と日本の現状について	① ②	坂田	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
14	臨床場面での実践の紹介と方法について	① ②	坂田	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
15	作業バランスについて	③	建石	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
	定期試験					

評価基準・評価方法
課題およびグループ活動への参加状況、課題への取組状況を加味して評定する。 具体的には、小テスト50％、定期試験50％の合計で算定する。

使用教科書
キールホフナーの人間作業モデル / 山田孝.--改訂第５版--協同医書，2019年5月31日発行，978-4763921444

参考図書
必要に応じて、資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	講義中及び講義終了後に質問及びフィードバックの時間を設ける。
備考	グループワークの際、実際に対象者へ行うことができるようにすることが目的であることを念頭において、練習すること。

授業科目名		担当教員	
基礎作業療法学実習		世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・塩崎　章嘉　(代表教員　世良　龍哉)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		永井貴士（作業療法士）、竹中孝博（作業療法士）、世良龍哉（作業療法士）、塩崎章嘉（作業療法士）	

授 業 概 要

作業療法で用いられる手工芸などの「作業」について、治療的に活用できるために、様々な視点から分析し考察する。そのために、作業分析の実施、身体的効果・精神的効果、作業の段階付け等を考察する。講義では、グループワークを活かし多様な思考のもと学習しやすいように進める。

学 修 の 到 達 目 標

①作業分析が活用できる。
②レポート・発表資料が適切に作成できる。
③作業における治療的な活用を考えることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	作業分析とは	①	世良	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
2	作業分析（和紙工芸）①	①	世良	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
3	作業分析（和紙工芸）②	①	世良	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
4	作業実施　和紙工芸①	①	竹中 世良	演習	授業で行う内容の事前準備を行うこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
5	作業実施　和紙工芸②	①	竹中 世良	演習	授業で行う内容の事前準備を行うこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
6	作業体験の振り返り	① ②	竹中 世良	演習	授業で行う内容の事前準備を行うこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
7	発表資料の作成	① ② ③	竹中	演習	授業で行う内容の事前準備を行うこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
8	発表	① ② ③	竹中	演習	授業で行う内容の事前準備を行うこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
9	作業の治療的応用①	③	塩崎	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	作業の治療的応用②	③	塩崎	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
11	作業の治療的応用③	③	塩崎	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
12	作業の治療的応用④	③	塩崎	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
13	作業の治療的応用	③	塩崎	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
14	作業の治療的応用	③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
15	作業の治療的応用⑦	③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
	レポート課題					

評価基準・評価方法

評価方法は、受講態度（１０％）、課題（９０％）で評価し、総合的に判断する。

使用教科書

「作業」って何だろう / 吉川ひろみ.--第２版--医歯薬出版, 2017年7月, ISBN978-4-263-21667-5
配布資料 /

参考図書

作業療法学全書　基礎作業学　協同医書出版

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	提出された課題に対して、コメントをつけてフィードバックする
備考	作業についての知識や理解を深めると共に、自分の作業体験を振り返り内省し考察できるようにすること。

授業科目名		担当教員	
作業療法研究方法論		世良　龍哉・河村　章史　(代表教員　世良　龍哉)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		河村章史（作業療法士）、世良龍哉（作業療法士）	

授 業 概 要

研究を実践するためのテーマの設定、情報収集、研究計画の立案、データ収集、データ解析、統合と解釈の基礎を学ぶ。他に研究の倫理・管理面についても学ぶ。講義では、グループワークや双方向システムを活用し学びを深めていく。演習では、遠隔学習システムや動画教材を積極活用し、反復学習することで知識・技術の確実な定着を図る。

学 修 の 到 達 目 標

①文献検索が自律的にできる。
②主要な研究方法について概略を説明できる。
③データ処理が自律的にできる。
④研究デザイン・収集データに相応しい統計解析方法の選択・立案ができる。
⑤研究の倫理・管理の概要がわかる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション、研究とは	講義	世良	講義	研究について下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
2	文献検索①	①	世良	講義	文献検索の方法について下調べ（30分）	文献検索の方法についてまとめる（30分）
3	文献検索②	①	世良	演習	文献検索の方法の練習（30分）	文献検索の方法についてまとめる（30分）
4	量的研究（観察研究・介入研究）	②	河村	講義	教科書p.34–41を通読する（60分）	講義の振り返り（30分）
5	統計処理の概要（統計処理ソフトの使用方法）	③④	河村	演習	講義で指定した統計処理環境の設定及び教科書p.76–78の通読、動画教材視聴（60分）	演習で提示した課題（30分）
6	統計処理法（基本統計量）	③④	河村	演習	動画教材の視聴と整理（30分）	演習で提示した課題（60分）
7	統計処理法（パラメトリックとノンパラメトリック）	③④	河村	演習	教科書p.77の通読及び動画教材の視聴（60分）	演習で提示した課題（30分）
8	統計処理法（差の検定）	③④	河村	演習	教科書p.79–81の通読及び動画教材の視聴（60分）	演習で提示した課題（60分）
9	統計処理法（相関係数）	③④	河村	演習	教科書p.89–93の通読及び動画教材の視聴（60分）	演習で提示した課題（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	統計処理法（その他の検定など）	③ ④	河村	演習	教科書p.76-119の通読及び動画教材の視聴（60分）	演習で提示した課題（30分）
11	質的研究①	②	世良	講義	質的研究について下調べ（30分）	質的研究に関する文献検索の課題（30分）
12	質的研究②	②	世良	演習	質的研究に関する文献検索（30分）	質的研究に関する文献検索の課題（30分）
13	調査的研究①	②	世良	講義	量的研究について下調べ（30分）	量的研究に関する文献検索の課題（30分）
14	調査的研究②	②	世良	演習	量的研究に関する文献検索（30分）	量的研究に関する文献検索の課題（30分）
15	研究の発表、研究の倫理／管理、論文の書き方	⑤	世良	講義	研究の倫理、論文作成について下調べ（30分）	研究論文の作成について整理、まとめ（30分）
	レポート課題					

評価基準・評価方法

課題(60%)、小テスト（40%)で評価・判定する。

使用教科書

作業療法研究法 / 竹田徳則ほか.--第1版--医歯薬出版, 2017年10月, ISBN978-4-263-21676-7

参考図書

適宜紹介する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	提出された課題に対して、コメントをつけてフィードバックする
備考	授業内で質問の時間を設ける。また授業外でも適宜メール等で質問を受け付ける。 E-mail : a.koumura@heisei-iryou.ac.jp (河村) : t.sera@heisei-iryou.ac.jp (世良) 小テストに関しては実施直後に解答提示と解説を行う。課題は添削したものを返却する。

授業科目名		担当教員	
卒業研究		加藤　清人・河村　章史・世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・井上　忠俊　(代表教員　加藤　清人)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	2単位(30時間)	演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・世良龍哉（作業療法士）・永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）	

授 業 概 要

卒業研究では、2年次に修得した作業療法研究方法論ならびに専門科目を基礎とし、研究に関わる一連の過程（研究テーマ、研究仮説の設定、先行研究資料・文献からの情報収集、実験および調査の実施、データ解析、その結果の整理と解釈・考察）を通じて探究心と理論的思考を深める。学生にとって卒業後の臨床を含めた研究において出発点となる重要な科目である。卒業論文は、グループで取り組むこととし、1グループ1論文の作成を目指す。そのなかで、グループ内でのディスカッション場を通じて、研究題材の理解を深めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①研究計画書を作成できる。
②実験および調査を実施し、結果を整理できる。
③論文作成を行い、研究成果をまとめることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	研究分野を考える	①	各指導担当教員		教科書p. 10－33の通読（60分）	共有した文献の整理（60分）
2	文献の検索・収集	①	各指導担当教員		関心のある論文の検索（60分）	文献収集（60分）
3	研究テーマの決定	①	各指導担当教員		教科書p.18-22の精読（30分）	決定したテーマに沿う研究の収集（60分）
4	研究仮説の設定	①	各指導担当教員		研究仮説案の作成（30分）	研究計画案の作成（30分）
5	研究計画書の作成	①	各指導担当教員		教科書p.29-33の精読（30分）	研究計画書の修正（60分）
6	研究説明書・同意書作成	①	各指導担当教員		教科書p.13-29の精読（60分）	研究説明書・同意書の修正（60分）
7	予備実験	②	各指導担当教員		予備実験の準備（60分）	予備実験結果の精査（60分）
8	実験・調査の実施（1）	②	各指導担当教員		本実験・調査計画の確定（120分）	実験・調査結果の整理（60分）
9	実験・調査の実施（2）	②	各指導担当教員		実験・調査の準備（60分）	実験・調査結果の整理（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	実験・調査の実施（３）	②	各指導担当教員		実験・調査の準備（60分）	実験・調査結果の整理（60分）
11	結果の処理	②	各指導担当教員		実験・調査結果の整理（60分）	実験・調査結果の整理（60分）
12	結果の整理	②	各指導担当教員		実験・調査結果の整理（60分）	実験・調査結果の整理（60分）
13	論文執筆（１）	③	各指導担当教員		教科書p.122-139の精読（60分）	論文執筆（120分）
14	論文執筆（２）	③	各指導担当教員		論文執筆（120分）	論文執筆（120分）
15	論文執筆（３）	③	各指導担当教員		論文執筆（120分）	論文執筆（120分）
	卒業論文提出					

評価基準・評価方法
卒業論文の完成。研究計画～論文執筆における取組状況など総合的に評価する。 卒業論文執筆に至るまでの取組状況（30%）、卒業論文（70%）

使用教科書
作業療法研究法 / 竹田徳則ほか.--第１版--医歯薬出版, 2017年10月, ISBN978-4-263-21676-7

参考図書
必要に応じ資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	研究の進捗に応じてその都度フィードバックを行う。
備考	担当教員の指導のもと、計画的に取り組むこと。 主体的に取り組むよう心がけること。

授業科目名		担当教員	
作業療法管理学Ⅰ		柴　貴志・古桧山　建吾　(代表教員　柴　貴志)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	1単位(15時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		柴　貴志（作業療法士）・古桧山　建吾（作業療法士）	

授 業 概 要

作業療法士は、病院をはじめ児童施設、老人施設等の各種サービス機関で働いている。そのなかで、専門職としての役割を果たすために他の専門職とともに一つの部門としての組織に所属する。将来作業療法士となり、組織のなかで働くためには、所属する部門の管理運営に携わり、責任をもった対応が求められる。作業療法管理学Ⅰでは、組織人としての役割を全うするための作業療法教育を中心に学習する。作業療法の養成課程、参加型臨床実習、臨床教育の方法、生涯学習制度について理解を深めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①作業療法養成教育の歴史や教育内容について学び、作業療法養成課程の変遷や作業療法士になるために課題について述べることができる。
②参加型臨床実習について述べることができる。
③臨床教育方法（メンター制、プリセプター制など）について述べることができる。
④生涯教育制度について述べることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	作業療法士養成教育の歴史について	①	柴	講義	教科書の該当箇所に目を通しておく（30分）	講義の重点箇所をまとめる（30分）
2	作業療法士養成教育の内容について	①	柴	講義	目を通しておく（30分）	講義の重点箇所をまとめる（30分）
3	参加型臨床実習（1）	②	柴	講義	配布資料に目を通しておく（30分）	講義の重点箇所をまとめる（30分）
4	参加型臨床実習（2）	②	古桧山	講義	配布資料に目を通しておく（30分）	講義の重点箇所をまとめる（30分）
5	組織マネジメント	①③	柴	講義	目を通しておく（30分）	講義の重点箇所をまとめる（30分）
6	臨床教育方法（1）	③	古桧山	講義	配布資料に目を通しておく（30分）	講義の重点箇所をまとめる（30分）
7	臨床教育方法（2）	③	古桧山	講義	配布資料に目を通しておく（30分）	講義の重点箇所をまとめる（30分）
8	生涯教育制度	④	古桧山	講義	目を通しておく（30分）	講義の重点箇所をまとめる（30分）
	レポート課題					

評価基準・評価方法	
レポート（100%）によって評価する	
使用教科書	
作業療法管理学入門 / 大庭潤平.--医歯薬出版株式会社，2018年8月発行，978-4-263-26568-0 作業療法学全書　改訂第3版　第1巻　作業療法概論 / 杉原素子--協同医書出版社，2010年3月19日発行，978-4-7639-2118-5	
参考図書	
必要に応じて資料を配布する	
課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	最終授業時に全体に向けてフィードバックを行う
備考	

授業科目名		担当教員	
作業療法管理学Ⅱ		柴　貴志・古桧山　建吾　(代表教員　柴　貴志)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	1単位(15時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		柴　貴志（作業療法士）・古桧山　建吾（作業療法士）	

授 業 概 要

作業療法管理学Ⅱでは、医療人として必要な生命倫理と一般社会における職業倫理について学び理解を深める。また、職場においての管理業務として、経営管理学の視点による管理と、サービスの質を保証し公益性を優先する管理についての知識と実践を学習する。さらに、その管理業務にとって必要なリーダーとしての資質を、わが国における企業リーダーの成功者から学び、病院業務の中でどのようにリーダーシップを発揮していくかの実践を提供していく。

学 修 の 到 達 目 標

①作業療法の実施とその対価（診療報酬・介護報酬など）について学び、作業療法実施後の診療記録ならびに書類管理（電子カルテなど含む）について述べることができる。
②作業療法実施に関わる他職種との業務調整やカンファレンスについ述べることができる。
③リハビリテーション部門のリーダーの資質や役割を学び、組織を運営するための管理業務（人事考課や労務管理など）について述べることができる。
④作業療法機器の配置計画（職場環境デザイン含む）やそれに関わる保守点検・安全管理について述べることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	作業療法の実施とその対価（診療報酬・介護報酬など）	①	柴	講義	配布資料の該当箇所を読み込んでおく（30分）	講義の重点箇所をまとめる（30分）
2	作業療法の実施後の診療記録と書類管理（電子カルテなどを含む）	①	柴	講義	配布資料の該当箇所を読み込んでおく（30分）	講義の重点箇所をまとめる（30分）
3	作業療法の実施における他職種との業務調整（処方内容の確認，他職種への申し送り）	②	柴	講義	配布資料の該当箇所を読み込んでおく（30分）	講義の重点箇所をまとめる（30分）
4	作業療法の実施に関るカンファレンスについて	②	柴	講義	配布資料の該当箇所を読み込んでおく（30分）	講義の重点箇所をまとめる（30分）
5	作業療法とマネジメント	③	古桧山	講義	配布資料の該当箇所を読み込んでおく（30分）	講義の重点箇所をまとめる（30分）
6	作業療法業務のマネジメント①（リーダーシップ、人事考課、労務管理など）	③	古桧山	講義	配布資料の該当箇所を読み込んでおく（30分）	講義の重点箇所をまとめる（30分）
7	作業療法業務のマネジメント②（機器配置計画、機器管理）	④	古桧山	講義	配布資料の該当箇所を読み込んでおく（30分）	講義の重点箇所をまとめる（30分）
8	作業療法業務のマネジメント③（実践からの学び）	③④	古桧山	講義	配布資料の該当箇所を読み込んでおく（30分）	講義の重点箇所をまとめる（30分）
	レポート課題					

評価基準・評価方法	
レポート（100%）によって評価する	
使用教科書	
作業療法管理学入門 / 大庭潤平.--医歯薬出版株式会社，2018年8月発行，978-4-263-26568-0 作業療法学全書　改訂第3版　第1巻　作業療法概論 / 杉原素子--協同医書出版社，2010年3月19日発行，978-4-7639-2118-5	
参考図書	
必要に応じて資料を配布する	
課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	最終授業時に全体に向けてフィードバックを行う
備考	

授業科目名		担当教員	
作業療法評価学概論		竹中　孝博・世良　龍哉　(代表教員　竹中　孝博)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	講義 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		竹中孝博（作業療法士）、世良龍哉（作業療法士）	

授 業 概 要

作業療法士に必要である種々の検査・測定の中でも、生理機能、バイタルサイン、形態測定、面接技法、観察、コミュニケーションなど基本的な知識、技術を習得することを目的とする。講義はグループワークや双方向システムを活用し学びを深めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①作業療法を行う上での必要な評価を理解し実践できる知識と能力を獲得する。
②カルテの記載方法を理解し、正しく記入ができる。
③コミュニケーションに必要な視点が理解できる。
④面接技法が理解できる。
⑤観察技法が理解できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	評価学総論１	①	竹中	講義	教科書P3~21を精読する（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
2	評価学総論２	①	竹中	講義	教科書P23~27を精読する（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
3	生理機能１	①	竹中	講義	教科書P53~58を精読する（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
4	生理機能２	①	竹中	講義	教科書P53~58をまとめる（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
5	形態測定１	①	竹中	講義	教科書P65~66を精読する（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
6	形態測定２	①	竹中	講義	教科書P65~66をまとめる（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
7	記録・報告の意義と特徴	②	竹中	講義	教科書P28~31を精読する（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
8	効果判定について	① ②	竹中	講義	教科書P28~31をまとめる（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
9	コミュニケーション（１）	③	世良	講義	医療人に必要なコミュニケーションについて下調べ	コミュニケーションスキルについて整理、まとめ（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	コミュニケーション（２）	③	世良	演習	コミュニケーションスキルについてまとめる（30分）	ディスカッションした内容について整理、まとめ（30分）
11	面接（１）	④	世良	講義	面接技法の整理、まとめ（30分）	面接評価のまとめ（30分）
12	面接（２）	④	世良	演習	面接技法の整理、まとめ（30分）	ディスカッションした内容の整理、まとめ（30分）
13	観察（１）	⑤	世良	講義	観察技法の整理、まとめ（30分）	観察評価のまとめ（30分）
14	観察（２）	⑤	世良	演習	観察技法の整理、まとめ（30分）	ディスカッションした内容の整理、まとめ（30分）
15	観察（３）	⑤	世良	演習	観察技法の整理、まとめ（30分）	ディスカッションした内容の整理、まとめ（30分）
	定期試験					

評価基準・評価方法
評価方法は、定期試験（７０％）、課題（３０％）をもって総合的に判断する。

使用教科書
標準作業療法学専門分野　作業療法評価学　第３版 / 矢谷令子監修.--医学書院, 2017年12月, ISBN978-4-260-03003-8

参考図書
必要に応じ資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	課題のフィードバックはコメントをつけて適時返却する。
備考	講義によって使用する教室が異なる。適時、資料を配布する。 授業内容が分からないときはいつでも質問を受け付ける。

授業科目名		担当教員	
作業療法評価学Ⅰ（身体機能）		竹中　孝博・加藤　清人・永井　貴士・井上　忠俊・樅山　貴子・川本　徹　(代表教員　竹中　孝博)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		竹中孝博（作業療法士）、加藤清人（作業療法士）、永井貴士（作業療法士）、井上忠俊（作業療法士）、樅山貴子（作業療法士）、川本徹（作業療法士）	

授 業 概 要

作業療法の中でも主に身体機能に対する評価方法について、基礎知識と検査・測定方法を学ぶ。
それぞれの検査・測定をどのような場合に用いるのか、どのように行うのかを学び、評価の意義や目的について理解を深める。講義はグループワークや双方向システムを活用し学びを深めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①それぞれの評価項目に対し意義や目的を説明できる。
②様々な疾患に対してどのような評価が必要なのか説明できる。
③評価結果を解釈できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ハンドセラピィの病態評価	①②③	竹中	講義	事前に配布する資料をまとめる（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
2	ハンドセラピィの機能障害評価	①②③	竹中	講義	事前に配布する資料をまとめる（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
3	関節可動域（ROM）：評価の概要と意義・目的、上肢	①②③	井上	講義演習	上肢のROMにおける基本軸，移動軸，参考角度を覚える（30分）	上肢測定における角度計の当て方と代償運動についてまとめる（30分）
4	関節可動域（ROM）：下肢	①②③	井上	講義演習	下肢のROMにおける基本軸，移動軸，参考角度を覚える（30分）	下肢測定における角度計の当て方と代償運動についてまとめる（30分）
5	関節可動域（ROM）：体幹、頸部	①②③	井上	講義演習	体幹のROMにおける基本軸，移動軸，参考角度を覚える（30分）	体幹測定における角度計の当て方と代償運動についてまとめる（30分）
6	筋緊張	①②③	樅山	講義	伸張反射について構造、神経の名称を覚える（30分）	筋緊張の種類と評価方法についてまとめる（30分）
7	反射（腱反射、病的反射）	①②③	樅山	講義	腱反射、病的反射のメカニズムを予習する（30分）	各反射の評価方法についてまとめる（30分）
8	徒手筋力検査法（MMT）：評価の概要と意義・目的	①②③	永井	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
9	徒手筋力検査法（MMT）：上肢	①②③	永井	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	徒手筋力検査法（MMT）：下肢、体幹	① ② ③	永井	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
11	協調性	① ② ③	樅山	講義	教科書を読み協調運動障害の８つの要素を予習する（30分）	協調性の評価方法についてまとめる（30分）
12	バランス	① ② ③	川本	講義	使用教科書１のp138-149を精読する（30分）	授業で行った内容を復習しておく（30分）
13	感覚検査	① ② ③	川本	講義	使用教科書１のp114-128を精読する（30分）	授業で行った内容を復習しておく（30分）
14	上肢機能検査（STEF・MFTなど）	① ② ③	川本	講義	使用教科書１のp204-211を精読する（30分）	授業で行った内容を復習しておく（30分）
15	症例に基づいた評価の選択と実施	① ② ③	加藤	講義	事前に指定された課題に取り組む（30分）	授業で行った内容を復習しておく（30分）
	定期試験（筆記試験）					

評価基準・評価方法

評価方法：中間試験（50%）、期末試験（50%）
評価基準：中間、期末試験ともに指定した範囲の筆記試験を行う。

使用教科書

標準作業療法学専門分野　作業療法評価学 / 矢谷令子監修.--第３版--医学書院, 2017年12月, ISBN978-4-260-03003-8
ベットサイドの神経の診かた / 北里大学名誉教授　田崎義昭　著.--改訂１８版--南山堂, 2016年2月発行, ISBN978-4-525-24798-0
新・徒手筋力検査法 原著第10版 / Dale Avers・他.--協同医書出版社, 978-4763900418

参考図書

『新・徒手筋力検査法』第9版, 協同医書出版

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	試験結果に対する総評コメントを公開する
備考	動きやすい服装、髪を束ねる、爪を切る、装飾品を外す等、実技ができるように準備すること。 質問等は講義中に随時受け付ける。また、オフィスアワーなど講義以外でも対応する。

授業科目名		担当教員	
作業療法評価学Ⅱ（精神・認知・医用画像）		河村　章史・加藤　清人・世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・井上　忠俊・樅山　貴子　(代表教員　河村　章史)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義･演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		河村章史（作業療法士）・加藤清人（作業療法士）・世良龍哉（作業療法士）・永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）・樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要

主に中枢神経疾患の基本事項及びその評価方法を学ぶ。
双方向対話型教育支援システム（パトグラ）や遠隔学習システムを使用して講義内で学習したことをその場で確認し、講義の冒頭では前回の復習を行う。
動画教材を積極活用し反復学習することで評価に関する知識の確実な習得と定着を図る。

学 修 の 到 達 目 標

①中枢神経疾患の評価における基本的知識を理解し、検査の実施ができる。
②修得した評価を臨床を模した場面で実施できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	中枢神経疾患に関わる脳解剖（1）	①	河村	講義	教科書(1) p.31-42及び教科書(2) p.2-5を通読する（60分）	講義で提示した課題（60分）
2	中枢神経疾患に関わる脳解剖（2）	①	河村	講義	教科書(2) p.8-21の通読（60分）	講義で提示した課題（60分）
3	中枢神経疾患に関わる脳生理（1）	①	河村	講義	教科書(2) p.24－49の通読（60分）	講義で提示した課題（60分）
4	中枢神経疾患に関わる脳生理（2）	①	河村	講義	教科書(2) p.50-86の通読（60分）	講義で提示した課題（60分）
5	脳損傷による疾患（1）	①	河村	講義	教科書(2) p.88－124の通読（60分）	講義で提示した課題（60分）
6	脳損傷による疾患（2）	①	河村	講義	教科書(2) p.126-152の通読（60分）	講義で提示した課題（60分）
7	中枢神経疾患における作業療法評価（1）	①	河村	講義	教科書(3) p.274-313の通読（60分）	講義で提示した課題（60分）
8	中枢神経疾患における作業療法評価（2）	①	河村	講義	教科書(3) p.283-285の精読（60分）	講義で提示した課題（60分）
9	中枢神経疾患における作業療法評価（3）	①	河村	講義	前回講義で配布した資料の確認（60分）	講義で提示した課題（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	臨床場面における作業療法評価の実践（1）	① ②	全 OT教員	演習	事前配布したオリエンテーション資料の確認（30分）	演習で提示した課題（60分）
11	臨床場面における作業療法評価の実践（2）	① ②	全 OT教員	演習	教科書(3)p.274-313を確認し、習得が不十分な評価項目の整理（60分）	演習で提示した課題（60分）
12	臨床場面における作業療法評価の実践（3）	① ②	全 OT教員	演習	教科書(3)p.274-313を確認し、習得が不十分な評価項目の整理（60分）	演習で提示した課題（60分）
13	臨床場面における作業療法評価の実践（4）	① ②	全 OT教員	演習	教科書(3)p.274-313を確認し、習得が不十分な評価項目の整理（60分）	演習で提示した課題（60分）
14	臨床場面における作業療法評価の実践（5）	① ②	全 OT教員	演習	教科書(3)p.274-313を確認し、習得が不十分な評価項目の整理（60分）	演習で提示した課題（60分）
15	臨床場面における作業療法評価の実践（6）	① ②	全 OT教員	演習	教科書(3)p.274-313を確認し、習得が不十分な評価項目の整理（60分）	演習で提示した課題（60分）
	課題					

評価基準・評価方法
課題(60%)、小テスト(40%)により判定する。

使用教科書
高次脳機能障害作業療法学（作業療法学ゴールドマスター・テキスト)第2版 / 鈴木孝治.--メジカルビュー，978-4-7583-1674-3 脳画像 第1版 / 前田眞治.--医学書院，978-4-260-03250-6 標準作業療法学（専門分野）作業療法評価学　第3版 / 能登真一.--医学書院，978-4-260-03003-8

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	講義中及び講義終了後に質問及びフィードバックの時間を設ける。 授業外でもメール等により質問を受け付ける（河村；a.koumura@heisei-iryou.ac.jp）
備考	

授業科目名		担当教員	
作業療法評価学演習Ⅰ（身体機能）		竹中　孝博・加藤　清人・永井　貴士・井上　忠俊・樅山　貴子・川本　徹　（代表教員　竹中　孝博）	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		竹中孝博（作業療法士）、加藤清人（作業療法士）、永井貴士（作業療法士）、井上忠俊（作業療法士）、樅山貴子（作業療法士）、川本徹（作業療法士）	

授 業 概 要

作業療法の中でも主に身体機能に対する評価方法について、基礎知識と検査・測定方法を学ぶ。
評価の意義や目的を考慮しながら、各検査・測定の技術を修得する。この演習で扱う評価は、臨床実習で実際に対象者に実施するため、相手に配慮しながら正確かつ安全に評価ができることを目指す。この授業では演習形式でグループワークやディスカッションを含む演習形式で進める。

学 修 の 到 達 目 標

①作業療法における評価の意義・目的を説明できる。
②正確に検査・測定ができる。
③対象者に配慮した安全な検査・測定ができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ハンドセラピィの病態評価	①②③	竹中	演習	事前に配布する資料をまとめる（30分）	演習で行った内容を振り返り、まとめる（30分）
2	ハンドセラピィの機能障害評価	①②③	竹中	演習	事前に配布する資料をまとめる（30分）	演習で行った内容を振り返り、まとめる（30分）
3	関節可動域（ROM）：評価の概要と意義・目的、上肢	①②③	井上	演習	上肢のROMにおける基本軸，移動軸，参考角度を覚える（30分）	上肢測定における角度計の当て方と代償運動についてまとめる（30分）
4	関節可動域（ROM）：下肢	①②③	井上	演習	下肢のROMにおける基本軸，移動軸，参考角度を覚える（30分）	下肢測定における角度計の当て方と代償運動についてまとめる（30分）
5	関節可動域（ROM）：体幹	①②③	井上	演習	体幹のROMにおける基本軸，移動軸，参考角度を覚える（30分）	体幹測定における角度計の当て方と代償運動についてまとめる（30分）
6	筋緊張	①②③	樅山	演習	伸張反射について構造、神経の名称を覚える（30分）	筋緊張の種類と評価方法についてまとめる（30分）
7	反射（腱反射、病的反射）	①②③	樅山	演習	腱反射、病的反射のメカニズムを予習する（30分）	各反射の評価方法についてまとめる（30分）
8	徒手筋力検査法（MMT）：評価の概要と意義・目的	①②③	永井	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
9	徒手筋力検査法（MMT）：上肢	①②③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	徒手筋力検査法（MMT）： 下肢、体幹	① ② ③	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
11	協調性	① ② ③	樅山	演習	教科書を読み協調運動障害の８つの要素を予習する（30分）	協調性の評価方法についてまとめる（30分）
12	バランス	① ② ③	川本	演習	事前に配布された資料を精読する（30分）	演習で行った内容を振り返り、まとめる（30分）
13	感覚検査	① ② ③	川本	演習	使用教科書２のp93-103を精読する（30分）	演習で行った内容を振り返り、まとめる（30分）
14	上肢機能検査（STEF・MFTなど）	① ② ③	川本	演習	使用教科書１のp204-211を精読する（30分）	演習で行った内容を振り返り、まとめる（30分）
15	症例に基づいた評価の選択と実施	① ② ③	加藤	演習	事前に指定された課題に取り組む（30分）	演習で行った内容を振り返り、まとめる（30分）
	定期試験　　（実技試験）					

評価基準・評価方法

評価方法：期末試験（50%）、中間試験（50%）
評価基準：中間、期末ともに指定した範囲の実技試験を行う。

使用教科書

標準作業療法学専門分野　作業療法評価学 / 矢谷令子監修.--第３版--医学書院, 2017年12月, ISBN978-4-260-03003-8
ベットサイドの神経の診かた / 北里大学名誉教授　田崎義昭　著.--改訂１８版--南山堂, 2016年2月発行, ISBN978-4-525-24798-0
新・徒手筋力検査法 原著第10版 / Dale Avers・他.--協同医書出版社, 978-4763900418

参考図書

『新・徒手筋力検査法』第9版, 協同医書出版
その他必要に応じて紹介する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	試験結果に対する総評コメントを公開する
備考	動きやすい服装、髪を束ねる、爪を切る、装飾品を外す等、実技ができるように準備すること。 質問等は講義中に随時受け付ける。また、オフィスアワーなど講義以外でも対応する。

授業科目名		担当教員	
作業療法評価学演習Ⅱ(精神･認知･医用画像)		河村　章史・中村　恵一・大下　伸子・加藤　清人・世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・井上　忠俊・樅山　貴子　(代表教員　河村　章史	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		河村章史（作業療法士）・中村惠一（作業療法士）・大下伸子（作業療法士）・加藤清人（作業療法士）・世良龍哉（作業療法士）・永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）・樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要

中枢神経疾患における運動障害・認知障害をどのように評価するかを学ぶ。作業療法評価学Ⅱで学修した評価・検査を臨床を模した場面で実施することで知識に裏付けされた技術を修得する。双方向対話型教育システム（パトグラ）及び遠隔学習システムを使用して講義内で学習したことをその場で確認し、講義の冒頭では前回の復習を行う。動画資料も積極的に活用し、反復学習することで知識・技術の確実な定着を目指す。

学 修 の 到 達 目 標

①中枢神経疾患における作業療法評価を適切に実施できる。
②切断の評価を適切に実施できる。
③精神障害における作業療法評価を適切に実施できる。
④修得した評価を臨床を模した場面で実施できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	中枢神経疾患による運動障害の評価の概要	①	河村	演習	教科書(3)p.274－313の通読（60分）	演習で提示した課題（60分）
2	中枢神経疾患による運動障害の評価（BRS上肢）	①	河村	演習	教科書(3)p.283-285の精読とBRS評価の整理（30分）	BRS上肢の習得練習（30分）
3	中枢神経疾患による運動障害の評価（BRS手指）	①	河村	演習	教科書(3)p.283-285の精読とBRS評価の整理（30分）	BRS手指の習得練習（30分）
4	中枢神経疾患による運動障害の評価（BRS下肢）	①	河村	演習	教科書(3)p.283-285の精読とBRS評価の整理（30分）	BRS下肢の習得練習（30分）
5	中枢神経疾患による運動障害の評価（SIAS）	①	河村	演習	教科書(3)p.297-298の精読（60分）	SIASの習得練習（60分）
6	中枢神経疾患による運動障害の評価（FMA・MAL）	①	河村	演習	教科書(3)p.296-297及びp.309の精読（30分）	FMA/MALの習得練習（60分）
7	上肢切断と義手（１）	②	中村	講義演習	教科書(3)p.65-71の通読（30分）	講義内容の整理（30分）
8	上肢切断と義手（２）	②	中村	講義演習	前回講義の振り返り（30分）	講義内容の整理（30分）
9	上肢切断と義手（３）	②	中村	講義演習	前回講義の振り返り（30分）	講義内容の整理（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	箱作り法の体験（１）	③	大下	演習	教科書(3)p.486-497の通読（60分）	箱作り法の実践練習（30分）
11	箱作り法の体験（２）	③	大下	演習	教科書(3)p.486-497の通読（60分）	箱作り法の実践練習（30分）
12	臨床場面における作業療法評価の実施（１）	④	全OT教員	演習	教科書(3)p.274-313の精読と整理（60分）	演習で課題となった個所の練習（60分）
13	臨床場面における作業療法評価の実施（２）	④	全OT教員	演習	教科書(3)p.274-313の精読と整理（60分）	演習で課題となった個所の練習（60分）
14	臨床場面における作業療法評価の実施（３）	④	全OT教員	演習	教科書(3)p.274-313の精読と整理（60分）	演習で課題となった個所の練習（60分）
15	臨床場面における作業療法評価の実施（４）	④	全OT教員	演習	教科書(3)p.274-313の精読と整理（60分）	演習で課題となった個所の練習（60分）
	課題					

評価基準・評価方法
課題(60%)及び小テスト(40%)により判定する。

使用教科書
高次脳機能障害作業療法学（作業療法学ゴールドマスター・テキスト)第2版 / 鈴木孝治.--メジカルビュー，978-4-7583-1674-3 脳画像 第1版 / 前田眞治.--医学書院，978-4-260-03250-6 標準作業療法学（専門分野）作業療法評価学　第3版 / 能登真一.--医学書院，978-4-260-03003-8

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	演習中及び演習終了後に時間を設ける。
備考	

授業科目名		担当教員	
作業療法治療技術理論		加藤　清人・河村　章史・世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・浅野　莉沙・井上　忠俊・樅山　貴子　(代表教員　加藤　清人)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	講義･演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・世良龍哉（作業療法士）・永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・浅野莉沙（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）・樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要

作業療法に必要な理論・評価・介入について、各教員が専門的に取り組んでいる分野の紹介をする。本講義は２年前期の選択授業、３年前期の卒業研究につながる位置づけとなっているため、本講義で得た知識を基にして在学中に自身が追求するテーマを得る。また、OSCEを通して医療従事者に求められるコミュニケーション技法について理解を深める。取り組みとして、模擬患者における初回介入を想定する。そこで、必要となるコミュニケーション技法についてディスカッションの場にて理解を深め、体得することを目指す。

学 修 の 到 達 目 標

①作業療法のサブカテゴリー領域の理論、研究の概略を知ることができる
②在学中に自身が追求するテーマを発見できる
③医療従事者に求められるコミュニケーション技術について習得できる

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション、作業療法の理論とは	①②	河村	講義	なし	講義中に提示された課題（30分）
2	認知症予防に対する作業療法理論	①②	加藤	講義	事前に配布した資料に目を通す（30分）	講義で説明した重点箇所についてまとめる（30分）
3	神経系疾患に対する作業療法理論	①②	河村	講義	事前にクラスルームに上げた動画を視聴し概要をまとめる（60分）	講義中に提示した課題（60分）
4	作業療法と作業行動理論	①②	永井	講義	事前に提示した課題（30分）	講義内で提示した課題（30分）
5	精神障害に対する作業療法理論	①②	世良	講義	事前に配布した資料に目を通す（30分）	講義内で提示した課題のまとめ（30分）
6	整形外科疾患に対する作業療法理論	①②	竹中	講義	事前に配布した資料に目を通す（30分）	講義内で提示した課題をまとめる（30分）
7	環境調整に関する作業療法理論認知症疾患に対する作業療法理論	①②	浅野	講義	事前に提示した課題（30分）	講義内で提示した課題（30分）
8	認知症疾患に対する作業療法理論	①②	井上	講義	認知症の危険因子について調べる（30分）	認知症の行動・心理症状の発生機序についてまとめる（30分）
9	OSCEのオリエンテーション	③	河村	講義	事前配布する接遇に関する資料を読み、十分に理解する（60分）	講義内で提示した課題（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	OSCEの演習（1）	③	全OT教員	演習	オリエンテーションで提示した課題（30分）	演習で提示された技能練習（30分）
11	OSCEの演習（2）	③	全OT教員	演習	演習で提示された技能練習（30分）	演習で提示された技能練習（30分）
12	OSCEの実施（1）	③	全OT教員	演習	演習で提示された技能練習（30分）	演習で提示された技能練習（30分）
13	OSCEの実施（2）	③	全OT教員	演習	演習で提示された技能練習（30分）	演習で提示された技能練習（30分）
14	OSCEの実施（3）	③	全OT教員	演習	演習で提示された技能練習（30分）	演習で提示された技能練習（30分）
15	OSCEのフィードバック	③	全OT教員	演習	演習で提示された技能練習（30分）	演習で提示された技能練習（30分）
	定期試験　筆記及び実技					

評価基準・評価方法
小テスト(40%)、実技試験（40%）、演習への取り組み姿勢（20%）で評価する。

使用教科書
必要に応じ資料を配布する。

参考図書
杉原素子編：作業療法学全書［改訂第３版］第１巻 作業療法概論（協同医書出版社）

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	各回の講義では、終了時に全体にむけてフィードバックを行う。 演習では、グループごとに個々のフィードバックを行う。
備考	質問は適宜受け付ける。また講義中も適宜質問の時間を取る。

授業科目名		担当教員	
認知症予防論		加藤　清人・井上　忠俊　(代表教員　加藤　清人)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）、井上忠俊（作業療法士）	

授 業 概 要

認知症高齢者の増加が見込まれている高齢社会の現状を踏まえながら、認知症高齢者の健康増進に向けた介護予防支援について論じていく。一次予防（健康増進）、二次予防（早期発見・早期介入）、三次予防（要介護リスク低減）を中心に、健康の増進に好ましいとされる行動と環境、その変容を促すための介入、認知症発症リスクと心理社会的側面などの関連について理解することを目指す。それぞれのテーマについて、課題を提示しグループワークにて作業を進め、学びを深める。また、３年次科目の卒業研究にむけて、研究課題の抽出やデータ収集など研究方法についても理解を深める。

学 修 の 到 達 目 標

①一次予防や二次予防、三次予防について説明することができる。
②健康増進を図るための行動と環境について知ることができる。
③心理社会的側面を踏まえた作業療法の介入について理解を深めることができる。
④卒業研究で必要となるデータ収集方法や介入（実験）をすることで研究力を高めることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション（学習の進め方）		加藤 井上		配布資料を読み込んでおく（30分）	学習計画の立案、今後必要な知識を整理しておく（30分）
2	わが国における高齢社会の現状	①	加藤 井上		高齢社会に必要な情報を調べておく（30分）	講義内容について要点をまとめる（30分）
3	認知症予防について考える	①	加藤 井上		わが国の認知症予防について調べておく（30分）	講義内容について要点をまとめる（30分）
4	介護予防・日常生活支援総合事業の概要（１）	① ②	加藤 井上		わが国の介護予防支援について調べておく（30分）	講義内容について要点をまとめる（30分）
5	介護予防・日常生活支援総合事業の概要（２）	① ②	加藤 井上		第4講の内容の確認と必要な情報を整理しておく（30分）	講義内容について要点をまとめる（30分）
6	認知症発症に関わるリスク因子（１）	②	加藤 井上		認知症のリスク要因について調べる（30分）	講義内容について要点をまとめる（30分）
7	認知症発症に関わるリスク因子（２）	②	加藤 井上		第6講の内容を確認しておく（30分）	講義内容について要点をまとめる（30分）
8	認知症高齢者に対する作業療法介入（１）	③	加藤 井上		認知症高齢者の作業療法介入について調べておく（30分）	講義内容について要点をまとめる（30分）
9	認知症高齢者に対する作業療法介入（２）	③	加藤 井上		第8講の内容を確認しておく（30分）	講義内容について要点をまとめる（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	認知症高齢者に対する作業療法介入（３）	③	加藤 井上		第9講の内容を確認しておく（30分）	講義内容について要点をまとめる（30分）
11	健康を阻害する地域環境要因	② ③	加藤 井上		地域環境の影響について調べておく（30分）	講義内容について要点をまとめる（30分）
12	作業療法研究にむけての調査	③ ④	加藤 井上		作業療法研究について調べておく（30分）	講義内容について要点をまとめる（30分）
13	作業療法介入を考える（１）	③ ④	加藤 井上		種々の文献から作業療法の介入について整理しておく（30分）	講義内容について要点をまとめる（30分）
14	作業療法介入を考える（２）	③ ④	加藤 井上		第13講の内容を確認しておく（30分）	講義内容について要点をまとめる（30分）
15	今後期待される（求められる）作業療法の取り組み	③ ④	加藤 井上		これまでの講義内容を整理しておく（30分）	講義内容について要点をまとめる（30分）
	課題					

評価基準・評価方法
課題（80%）、授業の取り組み状況（20%）で評価する。

使用教科書
資料を配付する。

参考図書
「医療クライシス」を超えて：イギリスと日本の医療・介護のゆくえ（医学書院） 認知症の作業療法（医歯薬出版）

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	各回の終了時に全体に向けてフィードバックを行う。
備考	オフィスアワー：講義中に随時質問を受け付ける。また、講義後でも対応する。

授業科目名		担当教員	
ニューロリハビリテーション論		河村　章史	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義･演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		河村章史（作業療法士）	

授 業 概 要

脳科学をテーマとして、それに関連する文献を精読し、得られた知識を元にディスカッションを行う。
脳模型を使用した学習を通して脳の解剖を３次元的に理解し、能動的に調査した内容を元に討議することで理解を深める。
脳血流計測機器（fNIRS)を使用し、脳機能データの収集・解析を体験する。

学 修 の 到 達 目 標

①Science basedな思考を養い，それに基づいて文献の検索・読解ができる。
②自身の考えを論理的・科学的に展開し，卒業論文作成に向けたデータ収集・処理方法を構築できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ニューロリハビリテーションとはなにか	①		講義	なし	講義内で紹介した文献の精読（60分）
2	脳解剖演習（１）大脳皮質	①		演習	教科書(1)p.66-86の通読（60分）	演習内容の整理（30分）
3	脳解剖演習（２）大脳深部構造	①		演習	教科書(1)p.24-49の通読（60分）	演習内容の整理（30分）
4	脳解剖演習（３）辺縁系・小脳	①		演習	教科書(1)p.24-49の通読（60分）	演習内容の整理（30分）
5	脳科学文献の検索	①		演習	「作業療法研究方法論」で学んだ文献検索方法の復習（60分）	指定した文献の検索（60分）
6	脳科学文献レビュー（１）	①		演習	レビューする文献の選定と入手（30分）	グループでレビューした文献の整理（60分）
7	脳科学文献レビュー（２）	①		演習	レビューする文献の選定と入手（30分）	グループでレビューした文献の整理（60分）
8	脳機能計測の概要(1)	②		講義	教科書(1)p.8-21の通読（30分）	学んだ計測技術の整理（30分）
9	脳機能計測の概要(2)	②		講義	教科書(1)p.8-21の通読（30分）	学んだ計測技術の整理（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	fNIRSの操作・データ収集	②		演習	学んだ計測技術の整理（30分）	習得した計測技術の練習（60分）
11	fNIRSのデータ解析（１）	②		演習	事前提示した資料の通読（60分）	データ整理（60分）
12	fNIRSのデータ解析（２）	②		演習	データ整理（60分）	データ整理（60分）
13	脳科学実験データ・デザイン（１）	②		演習	事前配布した資料の確認（60分）	模擬データによるデータ処理（60分）
14	脳科学実験データ・デザイン（２）	②		演習	事前配布した資料の確認（60分）	模擬データによるデータ処理（60分）
15	統計処理ソフトRによるデータ解析	②		演習	「作業療法研究方法論」で学んだ統計処理及びRの使用に関する復習（60分）	データ解析（60分）
	課題					

評価基準・評価方法
課題(70%)、ディスカッションへの貢献度(10%)、確認小テスト(20%)で評価・判定する。

使用教科書
脳画像 第1版 / 前田眞治.--医学書院, 978-4-260-03250-6 適宜指示する（主に図書館・インターネット上から入手できる論文）。

参考図書
適宜紹介する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	講義中もしくは講義終了後に実施する。
備考	授業内で質問の時間を設ける。また授業外でも適宜メール等で質問を受け付ける。 E-mail : a.koumura@heisei-iryou.ac.jp

授業科目名		担当教員	
精神障害治療論		世良　龍哉	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義･演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		世良龍哉（作業療法士）	

授 業 概 要

作業療法の対象となる精神障害について、障害構造論や回復段階に応じたリハビリテーションを理解し、精神の病とそれに伴う生活障害およびそれらに対する援助方法を学ぶ。講義では、グループワークや双方向システムを活用し学びを深めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①精神障害を抱えることでの生活上の困難さを理解できる
②精神障害領域で用いられる治療・リハビリを理解できる
③精神障害領域で用いられる、概念を理解できる
④自分の関心のある領域に気づき、研究計画が作成できる
⑤卒業研究で必要となるデータ収集方法や介入（実験）をすることで研究力の向上できる

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション	①	世良	講義	研究の流れについてまとめる（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
2	精神障害に対するリハビリテーション（1）	①	世良	講義	文献検索の方法について整理する（30分）	わからない用語を他者にする（30分）
3	精神障害に対するリハビリテーション（2）	①	世良	演習	精神障害に関連する文献検索の準備（30分）	ディスカッションした内容の整理、まとめ（30分）
4	精神障害と作業療法（1）	②	世良	講義	精神科作業療法に関連する文献検索の準備（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
5	精神障害と作業療法（2）	②	世良	演習	精神科作業療法に関連する文献検索の準備（30分）	ディスカッションした内容の整理、まとめ（30分）
6	精神障害と作業療法（3）	②	世良	演習	精神科作業療法に関連する文献検索（30分）	ディスカッションした内容の整理、まとめ（30分）
7	生きる力、SOC（1）	③	世良	講義	SOCに関連する文献検索の準備（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
8	生きる力、SOC（2）	③	世良	演習	SOCに関連する文献検索（30分）	ディスカッションした内容の整理、まとめ（30分）
9	生きる力、SOC（3）	③	世良	演習	SOCに関連する文献検索（30分）	ディスカッションした内容の整理、まとめ（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	精神障害領域で用いられる概念（１）	③	世良	講義	精神障害領域に関連する用語の下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
11	精神障害領域で用いられる概念（２）	③	世良	演習	精神障害領域に関連する用語の下調べ（30分）	ディスカッションした内容の整理、まとめ（30分）
12	精神障害領域で用いられる概念（３）	③	世良	演習	精神障害領域に関連する用語の下調べ（30分）	ディスカッションした内容の整理、まとめ（30分）
13	作業療法研究にむけての調査	⑤	世良	演習	関心のある領域、テーマに関連する用語の下調べ（30分）	ディスカッションした内容の整理、まとめ（30分）
14	作業療法介入を考える	⑤	世良	演習	関心のある領域、テーマに関連する用語の下調べ（30分）	ディスカッションした内容の整理、まとめ（30分）
15	精神障害領域で行われる研究	④	世良	演習	関心のある領域、テーマに関連する用語の下調べ（30分）	ディスカッションした内容の整理、まとめ（30分）
	課題提出					

評価基準・評価方法
評価方法は、課題（100%）をもって判断する。

使用教科書
精神障害と作業療法 / 山根寛.--新版--三輪書店，2017年，ISBN978-4-89590-583-1

参考図書
作業療法学全書第５巻　精神障害 第３版 協同医書出版

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	提出された課題にについて、全体の総評コメントをもちいて提示する
備考	授業中に随時質問を受け付ける。また、講義前後に対応する。

授業科目名		担当教員	
作業行動理論		永井　貴士	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4)の達成に寄与している。		永井貴士（作業療法士）	

授 業 概 要

基礎作業学で実施した「人間作業モデル」を基に、作業療法理論を学び、理解を深める。さらに、臨床実践につなげられる臨床力を高められるよう、グループワークや演習形式で学習を勧めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①人間作業モデルに基づいた評価が理解できる。
②作業に基づいた実践の考え方を主体的に活用できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	作業行動理論の歴史と人間作業モデルについて	①	永井	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
2	作業に関する自己評価（OSA-Ⅱ）の概要	①	永井	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
3	作業に関する自己評価（OSA-Ⅱ）の実施	①	永井	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
4	作業に関する自己評価（OSA-Ⅱ）の解釈	①	永井	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
5	人間作業モデルスクリーニングツール（MOHOST）の概要	①	永井	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
6	人間作業モデルスクリーニングツール（MOHOST）の実施	①	永井	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
7	人間作業モデルスクリーニングツール（MOHOST）の解釈	①	永井	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
8	事例検討その①	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
9	事例検討その②	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	事例検討その③	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
11	事例検討その④	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
12	事例検討のグループワークその①	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
13	事例検討のグループワークその②	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
14	人間作業モデルの研究論文の紹介	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
15	人間作業モデルの実践の紹介	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
	レポート課題					

評価基準・評価方法
課題およびグループ活動への参加状況、課題への取組状況を加味して評定する。 課題レポート（100%）をもって履修の合否を決定する。

使用教科書
キールホフナーの人間作業モデル / 山田孝監訳・Renee R. Taylor 編著.--改訂第5版--協同医書出版社, 2019年6月1日発行, ISBN 978-4-7639-2144-4

参考図書
必要に応じて、資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	レポート課題提出後１週間以内に個別フィードバックを行う。
備考	事例を通した学びの場では、卒業後の自分の将来像を想定して、取り組むことを期待する。

授業科目名		担当教員	
整形外科系障害治療論		竹中　孝博	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		竹中孝博（作業療法士）	

授 業 概 要

整形外科系障害の基礎から最新知見、作業療法応用などについて学ぶ。
この授業では講義と演習形式でグループワークやディスカッションを含む形式で進める。

学 修 の 到 達 目 標

①各疾患に対する特徴や病態が説明でき、介入方法についてのディスカッションが出来る。
②心理社会的側面を踏まえた作業療法の介入について理解し説明ができる。
③卒業研究で必要となるデータ収集方法や介入（実験）をすることで研究力の向上が出来る。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	スポーツ外傷とADL	①	竹中	講義	事前に提示された課題（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
2	筋萎縮の定義と概念	①	竹中	講義	事前に提示された課題（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
3	筋萎縮に対する治療トピックス	①	竹中	講義	事前に提示された課題（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
4	肩関節周囲炎の作業療法	①	竹中	講義	事前に提示された課題（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
5	痛みの基礎	①	竹中	講義	事前に提示された課題（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
6	痛みに対する介入	①	竹中	講義	事前に提示された課題（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
7	脊髄の興奮性変化	①	竹中	講義	事前に提示された課題（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
8	上肢骨折の手術	①	竹中	講義	事前に提示された課題（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
9	肩・肘骨折に対する作業療法研究	①	竹中	講義	事前に提示された課題（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	橈骨遠位端骨折の作業療法研究	①	竹中	講義	事前に提示された課題（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
11	運動イメージの応用	①	竹中	講義	事前に提示された課題（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
12	作業療法研究にむけての調査	② ③	竹中	演習	事前に提示された課題（30分）	提示された課題をまとめる（30分）
13	作業療法介入を考える	② ③	竹中	演習	事前に提示された課題（30分）	提示された課題をまとめる（30分）
14	グループディスカッション	① ② ③	竹中	演習	事前に提示された課題（30分）	提示された課題をまとめる（30分）
15	グループディスカッション	① ② ③	竹中	演習	事前に提示された課題（30分）	提示された課題をまとめる（30分）
	口頭試問		竹中		なし	なし

評価基準・評価方法
口頭試問（80%）、課題の取り組み状況（20%）で評価する。

使用教科書
配布資料

参考図書
「整形外科運動療法ナビゲーション　上肢・体幹」改訂第2版　整形外科リハビリテーション学会　MEDICAL VIEW、2014、ISBN978-4-7583-1478-7

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	適時直接指導していく
備考	整形外科疾患に対する作業療法の知識と評価・治療の流れについて学ぶ。臨床において大切な教科であるが、短時間で非常に広い学習をするため、分からないときはいつでも質問を受け付ける。 課題については適時フィードバックを行いながら進行状況を確認する。

授業科目名		担当教員	
日常生活・環境アセスメント論		浅野　莉沙	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
選択必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		浅野莉沙（作業療法士）	

授 業 概 要

様々な状態にある対象者の日常生活活動について、作業や環境の側面より捉えられるよう理論や視点を学び、理解を深める。また、栄養状態や姿勢など、作業に影響を与える要因についても触れ、広い視点で対象者を捉えることができるよう学習を進めていく。講義ではディスカッションやプレゼンテーションを含め理解を深める。

学 修 の 到 達 目 標

①環境が作業に与える影響について説明できる。
②褥瘡予防の観点から姿勢サポートを体験できる。
③モデルケースに対して作業療法的視点から観察・分析できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	環境を捉える視点	①			次回行う内容について書籍や文献などを通して学習する。(30分)	行った内容について再度復習し、考察を深める。(30分)
2	作業と環境の関連性①	①			次回行う内容について書籍や文献などを通して学習する。(30分)	行った内容について再度復習し、考察を深める。(30分)
3	作業と環境の関連性②	①			次回行う内容について書籍や文献などを通して学習する。(30分)	行った内容について再度復習し、考察を深める。(30分)
4	褥瘡予防とシーティング・ポジショニング①	① ②			次回行う内容について書籍や文献などを通して学習する。(30分)	行った内容について再度復習し、考察を深める。(30分)
5	褥瘡予防とシーティング・ポジショニング②	① ②			次回行う内容について書籍や文献などを通して学習する。(30分)	行った内容について再度復習し、考察を深める。(30分)
6	褥瘡予防とシーティング・ポジショニング③	① ② ③			次回行う内容について書籍や文献などを通して学習する。(30分)	行った内容について再度復習し、考察を深める。(30分)
7	褥瘡予防とシーティング・ポジショニング④	① ② ③			次回行う内容について書籍や文献などを通して学習する。(30分)	行った内容について再度復習し、考察を深める。(30分)
8	栄養状態とリハビリテーションとの関連性①	① ③			次回行う内容について書籍や文献などを通して学習する。(30分)	行った内容について再度復習し、考察を深める。(30分)
9	栄養状態とリハビリテーションとの関連性②	① ③			次回行う内容について書籍や文献などを通して学習する。(30分)	行った内容について再度復習し、考察を深める。(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	栄養状態とリハビリテーションとの関連性③	① ③			次回行う内容について書籍や文献などを通して学習する。(30分)	行った内容について再度復習し、考察を深める。(30分)
11	作業療法介入の考え方	① ③			次回行う内容について書籍や文献などを通して学習する。(30分)	行った内容について再度復習し、考察を深める。(30分)
12	作業療法の評価	① ③			次回行う内容について書籍や文献などを通して学習する。(30分)	行った内容について再度復習し、考察を深める。(30分)
13	作業療法の目標設定	① ③			次回行う内容について書籍や文献などを通して学習する。(30分)	行った内容について再度復習し、考察を深める。(30分)
14	作業療法プログラムの立案①	① ③			次回行う内容について書籍や文献などを通して学習する。(30分)	行った内容について再度復習し、考察を深める。(30分)
15	作業療法プログラムの立案②	① ③			次回行う内容について書籍や文献などを通して学習する。(30分)	行った内容について再度復習し、考察を深める。(30分)
	レポート課題					

評価基準・評価方法
評価方法：レポート（60%）、発表（40%）とする。 評価基準：理論の十分な理解とその活用を重視し、発表とレポート内容にて評価を行う。

使用教科書
適宜資料を配布する

参考図書
適宜紹介する

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	レポートや発表内容について直接フィードバックをする。
備考	質問は適宜受付け、講義中に回答する。 必要な資料や参考資料がある場合、講義の際に紹介・資料配布する。

授業科目名		担当教員	
老年期障害学		加藤　清人・井上　忠俊　(代表教員　加藤　清人)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）、井上忠俊（作業療法士）	

授 業 概 要

老年期対象者の特徴（身体的、精神的、社会的側面）を理解したうえで、作業療法の実践に用いられる基礎的知識を修得する。具体的には、老年期の生理的、心理的な変化などを学ぶ。また、高齢者を取り巻く環境を含め、高齢者の生活変化についても学習を深めていく。そして、虚弱高齢者や障害高齢者に対する作業療法の評価、アプローチについて学習し知識を深める。さらに、これらの内容を踏まえたうえで、障害高齢者に対して、評価や介入実践を行うことで、知識・技術の修得を図る。講義では、ペア・シェア学習を行い、学びを深める。

学 修 の 到 達 目 標

①高齢社会、高齢者の特徴や生活を説明することができる。
②高齢期における作業療法の役割を理解し、作業療法介入について説明することができる。
③認知症高齢者の特徴を理解し、作業療法実践を説明することができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	高齢社会（高齢者の定義、社会施策の変化）	①	加藤		教科書p8～p16を読み込んでおく（30分）	講義内容の要点をまとめる（30分）
2	高齢者の課題	①	加藤		教科書p17～p28を読み込んでおく（30分）	講義内容の要点をまとめる（30分）
3	社会制度	①	加藤		教科書p29～p32を読み込んでおく（30分）	講義内容の要点をまとめる（30分）
4	高齢者の障害	①	加藤		教科書p33～p38を読み込んでおく（30分）	講義内容の要点をまとめる（30分）
5	高齢者の特徴（一般的特徴）	①	加藤		教科書p39～p50を読み込んでおく（30分）	講義内容の要点をまとめる（30分）
6	認知症の理解（定義・症状）	③	井上		教科書p64～p68を読み込んでおく（30分）	講義内容の要点をまとめる（30分）
7	認知症の理解（認知症疾患）	③	井上		教科書p69～p73を読み込んでおく（30分）	講義内容の要点をまとめる（30分）
8	高齢期作業療法の役割・目的	②	加藤		教科書p81～p83を読み込んでおく（30分）	講義内容の要点をまとめる（30分）
9	高齢者に対する作業療法（生活のみかた）	②	加藤		教科書p84～p94を読み込んでおく（30分）	講義内容の要点をまとめる（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	高齢者に対する作業療法（評価・援助）	②	加藤		使用テキスト、配布資料を読み込んでおく（30分）	講義内容の要点をまとめる（30分）
11	認知症高齢者に対する作業療法（作業療法の位置づけ・評価）	② ③	井上		使用テキスト、配布資料を読み込んでおく（30分）	講義内容の要点をまとめる（30分）
12	認知症高齢者に対する作業療法（作業療法の視点、家族支援）	② ③	井上		使用テキスト、配布資料を読み込んでおく（30分）	講義内容の要点をまとめる（30分）
13	介護予防の作業療法	② ③	加藤		配布資料を読み込んでおく（30分）	講義内容の要点をまとめる（30分）
14	作業療法実践（レクリエーション立案）	② ③	加藤		配布資料を読み込んでおく（30分）	講義内容の要点をまとめる（30分）
15	作業療法実践（レクリエーション実践）	② ③	加藤		配布資料を読み込んでおく（30分）	講義内容の要点をまとめる（30分）
	定期試験　筆記					

評価基準・評価方法
小テスト（50%）、期末試験（50%）を総合的に評価する。

使用教科書
標準作業療法学　専門分野　高齢期作業療法学 / 矢谷令子監修.--第３版--医学書院, 2016年1月発行, ISBN978-4-260-02440-2 認知症の作業療法 / 小川敬之ほか.--第２版--医学書院, 2016年1月, ISBN978-4-263-21949-2

参考図書
必要に応じて資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	各回、講義終了時に全体にむけフィードバックを行う。
備考	次週の要点を説明するので、復習と予習を怠らないこと。 質問は随時受け付ける。

授業科目名		担当教員	
中枢神経障害学		河村　章史・竹中　孝博　(代表教員　河村　章史)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		河村章史（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）	

授 業 概 要

中枢神経障害、特に脳血管疾患により出現する症状を理解し、それらに対する評価知識・技術を習得する。
双方向対話型教育支援システム（パトグラ）および遠隔学習システムを使用して講義内で学習したことをその場で確認し、講義の冒頭では前回の復習を行う。動画教材を活用し反復学習することで知識・技術の確実な定着を図る。

学 修 の 到 達 目 標

①脳血管疾患の病理や症状に精通し、脳画像読影ができる。
②脳卒中片麻痺の評価を適切に実施し、その結果から介入方法を自律的に構築できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション、中枢神経障害を引き起こす疾患	①	河村		教科書(4) p.147-201の通読（60分）	講義内で提示した課題（60分）
2	脳血管疾患の病態	①	河村		教科書(4) p.147-175の通読（60分）	講義内で提示した課題（60分）
3	脳血管疾患の画像読影	①	河村		教科書(1) p.88-152の通読（60分）	講義内で提示した課題（60分）
4	脳血管疾患に対する評価の概要	②	河村		教科書(3) p.274-313の通読（60分）	講義内で提示した課題（60分）
5	脳血管疾患でみられる運動障害とその評価	②	河村		教科書(3) p.282-304の精読（60分）	BRSテストの復習（60分）
6	脳血管疾患でみられる認知障害とその評価	②	河村		教科書(3) p.305-313の精読（60分）	講義内で示した認知障害評価の練習（60分）
7	脳血管疾患でみられるその他の障害とその評価	②	河村		教科書(4) p.147-174の精読（60分）	講義内で提示した課題（60分）
8	脳血管疾患に対する評価の構築	②	河村		教科書(3) p.274-281の精読（60分）	講義内で提示した課題（60分）
9	脳血管疾患における評価の解釈	②	河村		事前に配布した資料の確認（30分）	講義内で提示した課題（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳血管疾患への介入（1）	②	河村		事前に配布した資料の確認（30分）	講義内で提示した課題（60分）
11	脳血管疾患への介入（2）	②	河村		事前に配布した資料の確認（30分）	講義内で提示した課題（60分）
12	脳血管疾患への介入（3）	②	河村		事前に配布した資料の確認（30分）	講義内で提示した課題（60分）
13	その他の中枢神経障害疾患	②	河村		教科書(4)p.216-233の通読（60分）	講義内で提示した課題（60分）
14	脳卒中片麻痺に対する作業療法介入（1）	②	竹中		事前に配布された資料を精読する（30分）	講義内で提示された重点ポイントについてまとめる（30分）
15	脳卒中片麻痺に対する作業療法介入（2）	②	竹中		事前に配布された資料を精読する（30分）	講義内で提示された重点ポイントについてまとめる（30分）
	定期試験					

評価基準・評価方法

期末試験(50%)、課題(20%)、小テスト(30%)で評価・判定する。

使用教科書

(1)脳画像 第1版 / 前田眞治.--医学書院, 2017年, ISBN978-4-260-03250-6
(2)高次脳機能障害作業療法学（作業療法学ゴールドマスター・テキスト)第2版 / 鈴木孝治.--メジカルビュー, 978-4-7583-1674-3
(3)標準作業療法学（専門分野）作業療法評価学　第3版 / 能登真一.--医学書院, 978-4-260-03003-8
(4)標準理学療法学・作業療法学（専門基礎分野）　神経内科学　第2版 / 川平和美.--医学書院, 4-260-26626-8

参考図書

別途、適宜資料を配布する

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	講義中もしくは講義終了後に実施する。
備考	授業内で質問の時間を設ける。また授業外でも適宜メール等で質問を受け付ける。 E-mail : a.koumura@heisei-iryou.ac.jp

授業科目名		担当教員	
整形外科系障害学		竹中　孝博・川本　徹　(代表教員　竹中　孝博)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		竹中孝博（作業療法士）、川本　徹（作業療法士）	

授 業 概 要

整形外科疾患に対する基礎知識と評価、作業療法介入の流れについて学ぶ。
講義の中で解剖学や運動学にも適時触れていく。
講義はグループワークや双方向システムを活用し学びを深めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①各疾患の特徴や症状を説明できること、評価、治療の基本的な考え方を説明できる。
②自ら進んで調べ活発に討論できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	手の機能解剖１	①	竹中	講義	１年次に学修した解剖学演習での筋の機能解剖を復習する（60分）	講義内で提示された重要ポイントをまとめる（30分）
2	手の機能解剖２	①	竹中	講義	使用教科書１のp2-30を精読する（60分）	講義内で提示された重要ポイントをまとめる（30分）
3	骨折概論	①	川本	講義	使用教科書１のp32-43を精読する（60分）	講義内で提示された重要ポイントをまとめる（30分）
4	骨折の作業療法１	①	川本	講義	使用教科書１のp44-62を精読する（60分）	講義内で提示された重要ポイントをまとめる（30分）
5	骨折の作業療法２	①	川本	講義	使用教科書１のp63-100を精読する（60分）	講義内で提示された重要ポイントをまとめる（30分）
6	骨折の作業療法３	①	川本	講義	使用教科書１のp101-114を精読する（60分）	講義内で提示された重要ポイントをまとめる（30分）
7	骨折の作業療法４	①	川本	講義	使用教科書2のp312-335を精読する（60分）	講義内で提示された重要ポイントをまとめる（30分）
8	拘縮の作業療法	①	川本	講義	事前に提示された範囲を学修する（30分）	講義内で提示された重要ポイントをまとめる（30分）
9	末梢神経損傷概論	①	川本	講義	使用教科書１のp156-170を精読する（60分）	講義内で提示された重要ポイントをまとめる（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	末梢神経損傷の作業療法	①	川本	講義	使用教科書１の p170-194を精読する（60分）	講義内で提示された重要ポイントをまとめる（30分）
11	腱損傷概論	①	竹中	講義	使用教科書１の p116-125を精読する（60分）	講義内で提示された重要ポイントをまとめる（30分）
12	腱損傷の作業療法	①	竹中	講義	使用教科書１の p126-154を精読する（60分）	講義内で提示された重要ポイントをまとめる（30分）
13	リウマチの作業療法	①	竹中	講義	使用教科書１の p196-228を精読する（60分）	講義内で提示された重要ポイントをまとめる（30分）
14	グループワーク	②	竹中	演習	事前に提示された範囲を学修する（60分）	演習内で提示された重要ポイントをまとめる（30分）
15	グループ発表	②	竹中	演習	事前に提示された範囲を学修する（30分）	演習内で提示された重要ポイントをまとめる（30分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法

定期試験（50%）、授業中の小テスト（50%）

使用教科書

１：リハ実践テクニック　ハンドセラピィ / 齋藤慶一郎.--株式会社メジカルビュー社, 2014, 978-4-7583-1473-2
２：病気がみえるvol.11　運動器・整形外科 / 医療情報科学研究所.--メデックメディア, 2017年, ISBN978-4-89632-632-1

参考図書

中田眞由美他：作業療法士のためのハンドセラピィ入門　第2版　三輪書店、2006　ISBN978-4-89590-255-7
長崎重信：ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学 メジカルビュー社　ISBN978-4-7583-1673-6

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	小テストは適時返却する
備考	整形外科疾患に対する作業療法の基礎知識と評価・治療の流れについて学ぶ。臨床において大切な教科であるが、短時間で非常に広い学習をするため、分からないときはいつでも質問を受け付ける。 毎回授業中に小テストを行い知識の確認を行う。

授業科目名		担当教員	
内部機能障害学		長谷部　武久・寺本　佳津明・寺下　美智子　(代表教員　長谷部　武久)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		長谷部武久（理学療法士）・寺本佳津明（作業療法士）・寺下美智子（作業療法士）	

授 業 概 要

作業療法において対象となる代謝系疾患，循環器系疾患，慢性閉塞性肺疾患などの基本的な病態や発生機序，検査・評価，介入・治療方法について学び、理解を深める。なお、PCやタブレットを使用し自主学習、グループワークを通して実施する。

学 修 の 到 達 目 標

①内部疾患についての基本的な知識を理解し修得できる。
②内部疾患に対する作業療法士の役割や専門性を認識について述べることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	糖尿病・メタボリックシンドロームの病態	①	長谷部		教科書p.174～175に目を通すこと（30分）	病態について復習すること（30分）
2	糖尿病の治療と評価	①	長谷部		教科書p.188～190に目を通すこと（30分）	治療について復習すること（30分）
3	代謝系疾患に対する作業療法の進め方	②	長谷部		病態と治療について復習すること（30分）	作業療法を行う上でのリスクについて理解を深めること（30分）
4	呼吸器疾患の病態	①	寺本		配布資料の該当箇所について読み込んでおく（30分）	講義の重点箇所についてまとめる（30分）
5	呼吸器疾患の病態とリハビリテーション	①②①	寺本		配布資料の該当箇所について読み込んでおく（30分）	講義の重点箇所についてまとめる（30分）
6	呼吸器疾患に対する作業療法の進め方（１）	②	寺本		配布資料の該当箇所について読み込んでおく（30分）	講義の重点箇所についてまとめる（30分）
7	呼吸器疾患に対する作業療法の進め方（２）	②	寺本		配布資料の該当箇所について読み込んでおく（30分）	講義の重点箇所についてまとめる（30分）
8	循環器の解剖と生理	①②	長谷部		教科書p.88～96に目を通すこと（30分）	解剖と生理について復習すること（30分）
9	心疾患の病態とリハビリテーション	①②	長谷部		教科書p.99～107に目を通すこと（30分）	心疾患の病態について復習すること（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	心疾患の作業療法の進め方	②	長谷部		解剖と生理、心疾患の病態について復習すること（30分）	作業療法を行う上でのリスクについて理解を深めること（30分）
11	消化器疾患および腎疾患のリハビリテーション	① ②	長谷部		2年前期科目「内科学」の消化器分野で学んだことを復習すること（30分）	作業療法を行う上でのリスクについて理解を深めること（30分）
12	悪性腫瘍の病態	①	寺下		配布資料の該当箇所について読み込んでおく（30分）	講義の重点箇所についてまとめる（30分）
13	悪性腫瘍の病態とリハビリテーション	① ②	寺下		配布資料の該当箇所について読み込んでおく（30分）	講義の重点箇所についてまとめる（30分）
14	悪性腫瘍に対する作業療法の進め方（１）	②	寺下		配布資料の該当箇所について読み込んでおく（30分）	講義の重点箇所についてまとめる（30分）
15	悪性腫瘍に対する作業療法の進め方（２）	②	寺下		配布資料の該当箇所について読み込んでおく（30分）	講義の重点箇所についてまとめる（30分）
	定期試験　筆記					

評価基準・評価方法

評価方法：定期試験（90%）、小テスト（10%）
小テストは事前学習内容に関して，国家試験過去問題を主に講義開始より５～10分間で実施する。

使用教科書

イラストでわかる内部障害 / 上杉雅之、堀江淳.--第1版--医歯薬出版，2020年，ISBN978-4-263-26611-3

参考図書

奈良勲：標準理学療法学専門分野内部障害理学療法学，医学書院2016

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	各回、講義終了時に全体にむけてフィードバックを行う。
備考	オフィスアワー：火曜日14～17時，その他講義中に質問の時間を取り，講義内または次回講義前に回答する。 作業療法対象として拡大してきた分野であり，十分な予習・復習，疾患の理解と専門性を重視した思考が必要である。

授業科目名		担当教員	
高次脳機能障害学		河村　章史	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義･演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2)(3)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2)(3)(4)の達成に寄与している。		河村章史（作業療法士）	

授 業 概 要

高次脳機能障害に関する基礎的な知識・技術を習得する。
症例情報からの症状の予測、評価の選択、介入の立案などについて学ぶ。
双方向対話型教育支援システム（パトグラ）及び遠隔学習システムを使用して講義内で学習したことをその場で確認し、講義の冒頭では前回の復習を行う。また動画教材を活用して反復練習をすることで知識・技術の確実な定着を図る。

学 修 の 到 達 目 標

①注意障害,記憶障害,遂行機能障害,半側空間無視,失行,失認に関する概要・評価方法・介入が理解できる。
②診断名、画像所見などから出現する可能性の高い症状を予測し、その有無を明確にするための評価計画を立案できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	高次脳機能障害とは何か	①		講義	教科書(1)p.2-8を通読（30分）	講義内で提示した課題（60分）
2	注意障害の概要と評価	①		講義	教科書(1)p.60-84の通読（60分）	講義内で提示した課題（60分）
3	標準注意検査（CAT）	①		演習	配布した資料の確認（30分）	CAT実施の練習（60分）
4	その他の注意機能の検査（TMT、かな拾い検査など）	①		演習	配布した資料の確認（30分）	TMT・かな拾い検査の実施の練習（60分）
5	記憶障害の概要と評価	①		講義	教科書(1)p.147-169の通読（60分）	講義内で提示した課題（60分）
6	ウェクスラー記憶検査、リバーミード行動記憶検査、ベントン視覚記銘検査	①		演習	事前に配布した資料の確認（30分）	演習で行った検査の練習（60分）
7	遂行機能障害の概要と評価、BADSなど	①		演習	教科書(1)p.204－218の通読（60分）	講義内で提示した課題（60分）
8	前頭葉機能障害の概要と評価、FABなど	①		演習	事前に配布した資料の確認（60分）	FAB実施の練習（30分）
9	半側空間無視の概要と評価、BIT	①		演習	教科書(1)p.85-102の通読（60分）	講義内で提示した課題（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	失行症の概要と評価、SPTA・WAB失語症検査の行為など	①		講義	教科書(1)p.180-202の通読（60分）	SPTA・WAB行為検査の練習（60分）
11	失認の概要と評価、VPTAなど	①		講義	教科書(1)p.116-130の通読（30分）	講義内で提示した課題（30分）
12	社会的行動障害	①		講義	教科書(1)p.220-240の通読（60分）	講義内で提示した課題（60分）
13	損傷部位と症状の考え方	①		講義	教科書(2)p.88-124の通読（60分）	講義内で提示した課題（60分）
14	症例を通した評価の構築と解釈及び介入立案（症例１）	②		演習	教科書(2)p.126-137の通読（60分）	講義内で提示した課題（60分）
15	症例を通した評価の構築と解釈及び介入立案（症例２）	②		演習	事前に配布した資料の確認（60分）	講義内で提示した課題（60分）
	定期試験					

評価基準・評価方法

期末試験(50%)、課題(20%)、小テスト(30%)で評価・判定する。

使用教科書

高次脳機能障害作業療法学（作業療法学ゴールドマスター・テキスト)第2版 / 鈴木　孝治.--メジカルビュー，978-4-7583-1674-3
脳画像　第1版 / 前田眞治.--医学書院，2017年，978-4-260-03250-6
標準作業療法学（専門分野）作業療法評価学　第3版　/ 能登真一.--医学書院，978-4-260-03003-8

参考図書

講義内で適宜紹介する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	講義中もしくは講義後に実施する。
備考	授業内で質問の時間を設ける。また授業外でも適宜メール等で質問を受け付ける。 E-mail : a.koumura@heisei-iryou.ac.jp

授業科目名		担当教員	
義肢装具学		竹中　孝博	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義･演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		竹中孝博（作業療法士）	

授 業 概 要

第1回から8回は義肢全般を切断者の術前評価・術後管理から各義肢の目的と機能をつかみ、義手使用が可能になるか知る事と、体幹装具・下肢装具の機能とその目的を知る。
第9回から15回は作業療法に必要な装具、スプリントについての基礎知識、装具の種類と適応、力学などについて学ぶ。
講義はグループワークや双方向システムを活用し学びを深めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①義肢装具の評価方法や機能を理解し他者に説明できる。
②素材の特徴や制作方法を学び、臨床に必要な技術を習得できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	義肢総論	①	竹中	講義	教科書p1-17を読んでまとめる（60分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
2	義手の基本構造・分類・部品	①	竹中	講義	教科書p18-41を読んでまとめる（60分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
3	筋電義手、義手の適合判定	①	竹中	講義	教科書p42-65を読んでまとめる（60分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
4	義足の基本構造・部品	①	竹中	講義	事前に指定された課題に取り組む（60分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
5	装具総論（上肢）	①	竹中	講義	教科書p204-216を読んでまとめる（60分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
6	装具総論（下肢・体幹）	①	竹中	講義	教科書p223-246を読んでまとめる（60分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
7	事例検討	①	竹中	講義	事前に指定された課題に取り組む（60分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
8	スプリントについて	②	竹中	講義	事前に指定された課題に取り組む（30分）	講義内で提示された重点ポイントをまとめる（30分）
9	背側cock-up splint 1	②	竹中	演習	事前に指定された課題に取り組む（15分）	指定された課題をレポートにまとめる（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	背側cock-up splint 2	②	竹中	演習	事前に指定された課題に取り組む（15分）	指定された課題をレポートにまとめる（60分）
11	掌側cock-up splint 1	②	竹中	演習	事前に指定された課題に取り組む（15分）	指定された課題をレポートにまとめる（60分）
12	掌側cock-up splint 2	②	竹中	演習	事前に指定された課題に取り組む（15分）	指定された課題をレポートにまとめる（60分）
13	joint jack	②	竹中	演習	事前に指定された課題に取り組む（15分）	指定された課題をレポートにまとめる（60分）
14	thumb spica splint 1	②	竹中	演習	事前に指定された課題に取り組む（15分）	指定された課題をレポートにまとめる（60分）
15	thumb spica splint 2	②	竹中	演習	事前に指定された課題に取り組む（15分）	指定された課題をレポートにまとめる（60分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法
期末試験（60%）、小テストの結果（20%）、宿題・時間外レポート（20%）

使用教科書
義肢装具と作業療法　評価から実戦まで / 大庭潤平，他.--医歯薬出版株式会社，2017，978-4-263-21669-9

参考図書
配布資料 リハ実践テクニック　ハンドセラピィ / 齋藤慶一郎，株式会社メジカルビュー社，2014，ISBN978-4-7583-1473-2 義肢装具のチェックポイント第8版，日本整形外科学会，医学書院，2014，ISBN978-4-260-01744-2

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	提出されたレポートはコメントをつけて返却する。
備考	講義によって使用する教室が異なる。適時、資料を配布する。 短時間で非常に広い学習をするため、分からないときはいつでも質問を受け付ける。

授業科目名		担当教員	
精神障害学Ⅰ（総論）		世良　龍哉	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		世良龍哉（作業療法士）	

授 業 概 要

精神障害領域の作業療法についての総論を学ぶ。精神障害者の症状、取り巻く環境を考慮しながら作業療法との関連性、必要性について学んでいく。その為、精神障害に対する処遇の歴史と法律、精神疾患に対する治療と生活支援、精神科作業療法の治療構造について学び、理解を深める。講義では、グループワークや双方向システムを活用し学びを深めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①精神障害の捉え方を理解できる。
②精神障害に関する歴史を理解できる。
③精神障害領域の作業療法の役割を理解できる。
④精神障害領域の作業療法の治療構造を理解できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	講義のオリエンテーション	①	世良	講義	精神障害に用いられる用語の整理（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
2	精神障害者を理解するにあたっての基礎	①	世良	講義	精神障害に用いられる概念の整理（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
3	精神障害の捉え方	①	世良	講義	精神障害領域に用いられる用語の整理（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
4	精神障害者に対する治療処遇の歴史と法律（１）	②	世良	講義	精神障害者に対する歴史を下調べする（30分）	精神障害者に対する歴史の整理、まとめ（30分）
5	精神障害者に対する治療処遇の歴史と法律（２）	②	世良	講義	精神障害者に対する歴史を下調べする（30分）	精神障害者に対する歴史の整理、まとめ（30分）
6	精神障害に対する作業療法の視点（１）	③	世良	講義	作業を用いる療法の特性について下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
7	精神障害に対する作業療法の視点（２）	③	世良	講義	作業療法の目的について下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
8	精神障害に対する作業療法の視点（３）	③	世良	講義	回復過程と状態について下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
9	精神障害に対する治療の流れ	④	世良	講義	作業療法の実践について下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	精神障害に対する治療・支援	④	世良	講義	関連療法について下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
11	作業療法の構造と形態（１）	④	世良	講義	作業療法の治療・支援構造の下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
12	作業療法の構造と形態（２）	④	世良	講義	作業の要素について下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
13	作業療法の構造と形態（３）	④	世良	講義	作業療法士の専門性について下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
14	作業療法の構造と形態（４）	④	世良	講義	ひとと集団・場について下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
15	重要事項の確認	① ② ③ ④	世良	講義	作業療法の流れ、治療構造の整理30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法
評価方法は、定期試験（７０％）、小テスト（３０％）をもって総合的に判断する。

使用教科書
精神障害と作業療法 / 山根寛.--新版--三輪書店, 2017年, ISBN978-4-89590-583-1

参考図書
作業療法学全書第５巻　精神障害 第３版 協同医書出版

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	提出された課題に対して、コメントをつけフィードバックする
備考	授業中に随時質問を受け付ける。また、講義前後に対応する。

授業科目名		担当教員	
精神障害学Ⅱ（各論）		世良　龍哉・片桐　正博　(代表教員　世良　龍哉)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		世良龍哉（作業療法士）片桐正博（作業療法士）	

授 業 概 要

精神障害領域の作業療法について、評価と治療に関する知識を学ぶ。精神障害学Ⅰで学んだ事を踏まえ、精神科作業療法の治療理論、対象者理解の視点（ICFなど）や、作業療法評価、治療技術、臨床における評価・治療の流れ、症例を通しての評価・治療計画の立案について学び、理解を深める。講義では、グループワークや双方向システムの活用、体験学習を取りいれながら学びを深めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①精神科作業療法の治療理論について理解できる。
②精神科作業療法の治療因子について理解できる。
③評価技術について理解できる。
④治療技術について理解できる。
⑤評価・治療計画の立案について理解できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	精神障害領域の作業療法理論	①	世良	講義	作業療法の理論について下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
2	作業療法の実践（１）	②	世良	講義	集団の治療因子について下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
3	作業療法の実践（２）	②	世良	講義	集団療法について下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
4	作業療法の実践（３）	②	世良	講義	作業療法の流れについて下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
5	作業療法の実践（４）	②	世良	講義	作業療法評価について下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
6	作業療法の実践（５）	②	世良	講義	面接方法について下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
7	評価技術（興味チェックリスト）	③	世良	講義 演習	興味チェックリストについて下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
8	評価技術（行動観察）（１）	③	世良	講義	行動観察について下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
9	評価技術（行動観察）（２）	③	世良	演習	行動観察について下調べ（30分）	行った行動観察についてまとめる（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	治療技術（SST）	④	世良	講義 演習	SSTについて下調べ（30分）	行ったSSTについてまとめる（30分）
11	地域生活支援	⑤	世良	講義	作業療法が行う支援と場について下調べ（30分）	わからない用語を他者に説明できるようにする（30分）
12	臨床における精神科作業療法の実践（１）	③ ④ ⑤	片桐	講義	作業療法評価のまとめ（30分）	症例情報の整理（30分）
13	臨床における精神科作業療法の実践（２）	③ ④ ⑤	片桐	演習	回復段階における作業療法のまとめ（30分）	症例情報の整理（30分）
14	症例を通して評価・治療の立案（１）	③ ④ ⑤	片桐	講義	回復段階における作業療法のまとめ（30分）	ディスカッションした内容の整理、まとめ（30分）
15	症例を通して評価・治療の立案（２）	③ ④ ⑤	片桐	演習	作業療法の目的の整理（30分）	ディスカッションした内容の整理、まとめ（30分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法
評価方法は、定期試験（７０％）、小テスト（３０％）をもって総合的に判断する。

使用教科書
精神障害と作業療法 / 山根寛.--新版--三輪書店，2017年，　ISBN978-4-89590-583-1

参考図書
作業療法学全書第５巻　精神障害 第３版 協同医書出版

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	提出された課題に対して、コメントつけフィードバックする
備考	授業中に随時質問を受け付ける。また、講義前後に対応する。

授業科目名		担当教員	
発達機能障害学Ⅰ（総論）		相羽　秀子	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		相羽秀子（作業療法士）	

授 業 概 要

発達機能障害学Ⅰでは、子どもの発達過程（誕生から1歳までの運動発達を中心に）を学び、各発達課題（寝返りや座位など）の獲得過程について理解を深める。　また、発達障害等の疾患について、症状・評価・治療を関連付けて理解する。　さらに、発達過程や疾患の知識を統合し、様々な情報から、評価・治療を考える。
グループワーク、レポート作成、発表の機会をつくる。

学 修 の 到 達 目 標

①発達障害の意味を理解し、発達障害領域の作業療法の概略を理解する
②各発達課題を獲得するために必要な能力について理解できる。
③作業療法評価の過程や、発達検査・知能検査の概要について説明できる。
④各疾患についての、症状・評価・治療を関連付けて説明できる。
⑤お子さんの情報から作業療法評価を行い、評価をもとにアプローチを考える事ができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	発達障害とは	①		講義	教科書にて予習 30分	教科書・資料で復習 30分
2	姿勢・運動の発達	②		講義	教科書にて予習 30分	教科書・資料で復習 30分
3	感覚統合の発達	②		講義	教科書にて予習 30分	教科書・資料で復習 30分
4	認知・思考の発達	②		講義	教科書にて予習 30分	教科書・資料で復習 30分
5	コミュニケーション機能の発達	②		講義	教科書にて予習 30分	教科書・資料で復習 30分
6	子どもの発達と遊び	②		講義	教科書にて予習 30分	教科書・資料で復習 30分
7	セルフケアの発達と遊び	②		講義	教科書にて予習 30分	教科書・資料で復習 30分
8	作業療法評価	③		講義 演習	教科書にて予習 30分	教科書・資料で復習 30分
9	作業療法評価	③		講義 演習	教科書にて予習 30分	教科書・資料で復習 30分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	評価の分析	③		講義 演習	教科書にて予習 30分	教科書・資料で復習 30分
11	感覚統合機能に対するアプローチ	④		講義	教科書にて予習 30分	教科書・資料で復習 30分
12	感覚統合機能に対するアプローチ	④		講義	教科書にて予習 30分	教科書・資料で復習 30分
13	評価の実際	⑤		講義 演習	演習のための予習 60分	
14	評価の実際	⑤		講義 演習	演習のための予習 60分	
15	評価の実際	⑤		講義 演習	演習のための予習 60分	
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法
小テスト（20%）、レポート課題（10%）及び定期試験（70%）で評価する。

使用教科書
発達障害の作業療法【基礎編】 / 岩崎清隆.--第3版--三輪書店，2019年，ISBN978-4-89590-6708 発達障害の作業療法【実践編】 / 岩崎清隆.--第3版--三輪書店，2019年，ISBN978-4-89590-6715 ゴールドマスターテキスト発達障害作業療法学 / 長崎重信監修.--改訂第2版--メジカルビュー，2015年，978-4-7583-1676-7

参考図書
資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	
備考	レポート課題は13〜15で行う。講義時間内で終わらない場合は、時間外で行うこと。

授業科目名		担当教員	
発達機能障害学Ⅱ（各論）		相羽　秀子	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		相羽秀子（作業療法士）	

授 業 概 要

発達機能障害学Ⅱでは、各疾患についての作業療法評価・アプローチについて学ぶ。
社会性、言葉、遊びの発達過程や、疾患について学び、それらを統合して子どもの発達に応じた遊びを考え、実施する力を身につける。レポート作成、グループワーク、発表の機会を作る。

学 修 の 到 達 目 標

①脳性麻痺の全体像を理解し、予測できる問題点やそのアプローチについて説明できる。
②知的障害を理解し、予測できる問題点やそのアプローチについて説明できる。
③発達期の摂食嚥下機能を理解し、そのアプローチについて説明できる。
④各疾患の、症状・評価・治療について、関連付けて説明できる。
⑤育児支援、特別支援教育について理解し説明できる。
⑥お子さんの情報から作業療法評価を行い、評価をもとにアプローチを考える事ができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	姿勢と運動のアプローチ(脳性麻痺を中心に)	①		講義	教科書にて予習（30分）	教科書・資料で復習（30分）
2	姿勢と運動のアプローチ（脳性麻痺を中心に）	①		講義	教科書にて予習（30分）	教科書・資料で復習（30分）
3	知的障害に対するアプローチ	②		講義	教科書にて予習（30分）	教科書・資料で復習（30分）
4	知的障害に対するアプローチ	②		講義	教科書にて予習（30分）	教科書・資料で復習（30分）
5	摂食・嚥下障害に対するアプローチ	③		講義 実習	教科書にて予習（30分）	教科書・資料で復習（30分）
6	摂食・嚥下障害に対するアプローチ	③		講義 実習	教科書にて予習（30分）	教科書・資料で復習（30分）
7	各種対象疾患に対するアプローチ	④		講義	教科書にて予習（30分）	教科書・資料で復習（30分）
8	各種対象疾患に対するアプローチ	④		講義	教科書にて予習（30分）	教科書・資料で復習（30分）
9	各種対象疾患に対するアプローチ	④		講義	教科書にて予習（30分）	教科書・資料で復習（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	育児支援・保護者への対応	⑤		講義	教科書にて予習（30分）	教科書・資料で復習（30分）
11	虐待児への作業療法	④		講義	教科書にて予習（30分）	教科書・資料で復習（30分）
12	特別支援教育と作業療法	⑤		講義	教科書にて予習（30分）	教科書・資料で復習（30分）
13	評価・治療の実際	⑥		演習 発表	演習のための予習（60分）	
14	評価・治療の実際	⑥		演習 発表	演習のための予習（60分）	
15	評価・治療の実際	⑥		演習 発表	演習のための予習（60分）	
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法

小テスト（20%）、レポート課題（10%）及び定期試験（70%）で評価する。

使用教科書

発達障害の作業療法【基礎編】 / 岩崎清隆.--第3版--三輪書店, 2019年, ISBN978-4-89590-6708
発達障害の作業療法【実践編】 / 岩崎清隆.--第3版--三輪書店, 2019年, ISBN978-4-89590-6715
ゴールドマスターテキスト発達障害作業療法学 / 長崎重信監修.--改訂第2版--メジカルビュー, 2015年, ISBN978-4-7583-1676-7

参考図書

資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	
備考	レポート課題は14〜15で行う。講義時間内で終わらない場合は、時間外で行うこと。

授業科目名		担当教員	
日常生活活動学		樅山　貴子	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2)(3)作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2)(3)(4)の達成に寄与している。		樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要

日常生活活動学では、人の日常生活動作（ADL）についての概念について理解を深める。
また、日常活動動作の基盤となる基本動作について、グループワークによる動作分析を行い、その仕組を理解する。さらに、障がいとADLの関係や障害者の自立に向けてどのように問題解決を図るかグループディスカッションを通して視野を広げる。

学 修 の 到 達 目 標

①日常生活動作（ADL）の意味と、ICIDH、ICFの内容を理解し、説明できる。
②姿勢を構成する要素を理解し、健常者と片麻痺者の基本動作を観察できる
③動作分析の方法を理解し、評価して図に表し、臨床に望むための土台が形成できる。
④ADL動作を理解し、その姿勢や動作に合わせた支援の方法が理解出来る

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ADLとは、ICFとICIDH	①		講義	ADL、ICF、ICIDHとそれに含まれる語句を予習する（30分）	ADLを構成する要素、ICIDH、ICFに含まれる語句と違いを復習する（30分）
2	ICFによる全体像の把握	①		講義	ICFの中に含まれる要素とそのつながり雨を予習する（30分）	事例を通して理解したICFの内容を説明できるよう復習する（30分）
3	姿勢や動作が安定するとは	②		講義	運動学における姿勢を観る要素（重心・支持基底面など）を予習する（30分）	姿勢を構成する要素と観察する項目を復習する（30分）
4	姿勢の評価とその支援①	②		講義	健常者の姿勢（背臥位・座位・立位）の観察のポイントを予習する（30分）	健常者の姿勢の評価を図を用いて説明できるよう復習する（30分）
5	姿勢の評価とその支援②	②		講義	片麻痺者の姿勢（背臥位・座位・立位）の観察のポイントを予習する（30分）	片麻痺者の姿勢の評価を図を用いて説明できるよう復習する（30分）
6	動作分析について	③		講義	基本動作の動きの重心、支持基底面などを予習する（30分）	動作分析の基本的な方法を復習する（30分）
7	座位から立位へ立ち上がりの動作分析	③		演習	座位からの立ち上がりの動作を重心・支持基底面の観点から予習する（30分）	座位からの立ち上がり動作の重心・支持基底面・関節の動きを復習する（30分）
8	背臥位から寝返りの動作分析１	③		講義	背臥位から寝返り動作を重心・支持基底面の観点から予習する（30分）	背臥位から寝返り動作の重心・支持基底面・関節の動きを復習する（30分）
9	背臥位から寝返りの動作分析２	③		演習	背臥位から寝返り動作の関節の動きを説明できるよう予習する（30分）	背臥位から寝返り動作を学習した観点から説明できるよう復習する（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	寝返りから起き上がりの動作分析	③		演習	寝返りから起き上がり動作を重心・支持基底面の観点から予習する（30分）	寝返りから起き上がり動作の重心・支持基底面・関節の動きを復習する（30分）
11	歩行の動作分析	③		講義	運動学での正常歩行の基礎知識（歩行周期など）を予習する（30分）	歩行の動作を重心・支持基底面、関節の動きから説明できるよう復習する（30分）
12	机上での食事動作の分析その１	④		講義	机上での食事動作の適切な姿勢について予習する（30分）	食事をする際の適切な姿勢、動作について復習する（30分）
13	机上での食事動作の分析その２	④		演習	嚥下と姿勢の関係について予習する（30分）	食事、嚥下時の適切な姿勢、援助方法を復習する（30分）
14	ベッド上での姿勢・活動援助	④		演習	ベッド上での姿勢管理や可能なADK動作について予習する（30分）	ベッド上で可能な動作や援助方法を復習する（30分）
15	車椅子上での姿勢・活動援助	④		演習	車椅子上での姿勢管理や可能なADK動作を予習する（30分）	車椅子上で可能な動作や援助方法を復習する（30分）
	定期試験　（筆記試験）					

評価基準・評価方法

評価方法：期末試験（70%）、レポート（30%）
評価基準：期末試験は筆記試験を行い、講義内容全体についての理解度を問う

使用教科書

ADLとその周辺　評価・指導・介護の実際 / 伊藤利之・鎌倉矩子.--第3版--医学書院, 2016年, ISBN978-4-260-02204-0
ICF国際生活機能分類 / 障害者福祉研究会.--中央法規出版, 2002年, ISBN978-4-8058-4417-5
ICFの理解と活用 / 上田敏.--萌文社, 2005年, ISBN978-4-89491-096-6

参考図書

適宜紹介する

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	レポートは採点して返却する
備考	グループワークによる課題が多く含まれるため、主体的に取り組み、分析能力の取得に臨むこと。 質問や相談は、授業内やオフィスアワーで随時受け付ける。

授業科目名		担当教員	
生活技術学演習		永井　貴士・樅山　貴子　(代表教員　永井　貴士)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		永井貴士（作業療法士）、樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要

作業療法の臨床場面では、日常生活活動（ADL）の改善・向上が主要な治療目標とされることも多い。
この授業では、まずADLの概念や評価について理解し、その後実習等で必要になる介助技術や対象者への指導方法を学生ペアで行い、修得する。またグループワークを用いて、技術の習得を目標とする。
また、車いすや福祉用具、自助具についての知識なども含め、総合的にADL支援ができるよう学習する。

学 修 の 到 達 目 標

①日常生活活動（ADL）評価スケールが使用できる。
②目的に応じた自助具を考案し、作成することができる。
③起居動作、移乗（トランスファー）において適切な介助ができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	総論・ADLスケールについて、ADL評価スケールの演習①	①	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
2	ADL評価スケールの演習②	①	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
3	福祉用具・自助具について	②	永井	講義演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
4	自助具の作成①	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
5	自助具の作成②	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
6	身体障害者に対する起居動作のポイントと介助技術	③	永井 樅山	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
7	起き上がり動作のポイントと介助技術	③	永井 浅野	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
8	長座位・いざり動作のポイントと介助技術	③	永井 樅山	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
9	座位・起立動作のポイントと介助技術	③	永井 樅山	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	車いすの基礎知識と操作方法	② ③	永井 樅山	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
11	車いす姿勢を観るポイント	② ③	永井 樅山	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
12	移乗動作（トランスファー）のポイントと介助技術①	③	永井 樅山	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
13	移乗動作（トランスファー）のポイントと介助技術②	③	永井 樅山	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
14	移乗動作（トランスファー）のポイントと介助技術③	③	永井 樅山	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
15	歩行動作のポイントと介助技術（歩行補助具含む）	② ③	永井 樅山	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
	定期試験（実技）					

評価基準・評価方法

評価方法：期末試験（60%）、レポート（30%）、グループ活動への参加状況（10%）※レポートは採点後に返却・フィードバックする。
評価基準：期末試験は筆記試験と実技試験を行う（詳細については講義内で連絡する）。
グループやペアで学習する場面を多く設けるので、積極的な発言や実技練習を期待する。

使用教科書

ADLとその周辺　評価・指導・介護の実際 / 伊藤利之・鎌倉矩子.--第3版--医学書院, 2016, ISBN978-4-260-02204-0
あっ！あぶない危険防止と安全な介護[脳卒中編] / 森田竜治、永井貴士.--文溪堂, ISBN9784894236424
脳卒中の機能評価-SIASとFIM［基礎編］　/ 千野直一ほか.--金原出版, 2012年, ISBN978-4-307-75033-2

参考図書

・濱口豊太他：標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学、医学書院

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	課題提出後、１週間以内に個別フィードバックを行う。 試験は実技試験を行う。実技試験80%、課題20%で履修判定を行う。
備考	適切な介助技術を身につけることは、自分の身を守ること（怪我をしない）ことにもつながるため重要である。 後半は実習形式が多いため、実技に向いた服装の準備をしてくること（事前に連絡する）。 授業内容に関する質問や相談はオフィスアワー等で受け付ける。

授業科目名		担当教員	
応用生活技術学演習		佐藤　篤史	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		佐藤篤史（作業療法士）	

授 業 概 要

応用生活技術学演習では、作業療法で主要に関わる日常生活活動の中でも重要なセルフケアを中心に、それに関する基本的身体機能、評価、動作分析、目標設定、治療方法、介入方法について学ぶ。

学 修 の 到 達 目 標

①対象者の生活に沿ったリハビリテーションのあり方を理解できる。
②入院生活から退院後の生活に向け、環境調整、充実した地域生活の支援まで総合的に考えることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	食事とは	①			作業療法でのADLの意味を再度授業前に見なおし、自己学習を進めておく。(60分)	復習と演習で実施したものの再学習を通して、知識・技術の安定化を図ること。(60分)
2	食事の作業療法	②			作業療法でのADLの意味を再度授業前に見なおし、自己学習を進めておく。(60分)	復習と演習で実施したものの再学習を通して、知識・技術の安定化を図ること。(60分)
3	摂食・嚥下障がいの基礎知識	①			作業療法でのADLの意味を再度授業前に見なおし、自己学習を進めておく。(60分)	復習と演習で実施したものの再学習を通して、知識・技術の安定化を図ること。(60分)
4	失語症の作業療法	②			作業療法でのADLの意味を再度授業前に見なおし、自己学習を進めておく。(60分)	復習と演習で実施したものの再学習を通して、知識・技術の安定化を図ること。(60分)
5	ポジショニング	①			作業療法でのADLの意味を再度授業前に見なおし、自己学習を進めておく。(60分)	復習と演習で実施したものの再学習を通して、知識・技術の安定化を図ること。(60分)
6	起居動作	①			作業療法でのADLの意味を再度授業前に見なおし、自己学習を進めておく。(60分)	復習と演習で実施したものの再学習を通して、知識・技術の安定化を図ること。(60分)
7	移乗動作	①			作業療法でのADLの意味を再度授業前に見なおし、自己学習を進めておく。(60分)	復習と演習で実施したものの再学習を通して、知識・技術の安定化を図ること。(60分)
8	排泄とは	①			作業療法でのADLの意味を再度授業前に見なおし、自己学習を進めておく。(60分)	復習と演習で実施したものの再学習を通して、知識・技術の安定化を図ること。(60分)
9	排泄行為の作業療法	②			作業療法でのADLの意味を再度授業前に見なおし、自己学習を進めておく。(60分)	復習と演習で実施したものの再学習を通して、知識・技術の安定化を図ること。(60分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	整容とは	①			作業療法でのADLの意味を再度授業前に見なおし、自己学習を進めておく。(60分)	復習と演習で実施したものの再学習を通して、知識・技術の安定化を図ること。(60分)
11	整容行為の作業療法	②			作業療法でのADLの意味を再度授業前に見なおし、自己学習を進めておく。(60分)	復習と演習で実施したものの再学習を通して、知識・技術の安定化を図ること。(60分)
12	更衣とは	①			作業療法でのADLの意味を再度授業前に見なおし、自己学習を進めておく。(60分)	復習と演習で実施したものの再学習を通して、知識・技術の安定化を図ること。(60分)
13	更衣動作の作業療法	①			作業療法でのADLの意味を再度授業前に見なおし、自己学習を進めておく。(60分)	復習と演習で実施したものの再学習を通して、知識・技術の安定化を図ること。(60分)
14	調理の作業療法	②			作業療法でのADLの意味を再度授業前に見なおし、自己学習を進めておく。(60分)	復習と演習で実施したものの再学習を通して、知識・技術の安定化を図ること。(60分)
15	FIMの実践	① ②			作業療法でのADLの意味を再度授業前に見なおし、自己学習を進めておく。(60分)	復習と演習で実施したものの再学習を通して、知識・技術の安定化を図ること。(60分)
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法

課題およびグループ活動への参加状況、課題への取組状況を加味して評定する。
課題提出により５０％、定期試験で５０％の合計で算定する。

使用教科書

中枢神経系疾患に対する作業療法 / 山本伸一.--三輪書店, 2009年, ISBN978-4-89590-331-8
あっ！あぶない危険防止と安全な介護[脳卒中編] / 森田竜治、永井貴士.--文溪堂, ISBN9784894236424

参考図書

必要に合わせて資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	
備考	実技形式が多いため、実技に向いた服装を準備しておくこと。

授業科目名		担当教員	
作業療法特論Ⅰ（含喀痰等吸引）		永井　貴士・河村　章史・浅野　莉沙・古田　弥生　(代表教員　永井　貴士)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	1単位(15時間)	演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		永井貴士（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・浅野莉沙（作業療法士）・古田弥生（看護師）	

授 業 概 要

作業療法士の職域が拡大してきているため、これまでの講義で学んだ知識を基盤とし，医療領域における作業療法の実践について実践者から学ぶことで、これから必要とされる作業療法について考える。また、喀痰などの吸引において、一連の手順を身につけられるよう実技を通して学ぶ。
講義では、グループワークを中心として行い、演習形式で学習を勧めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①作業療法の臨床場面で求められる技術や知識を理解することができる。
②求められる知識と技術を実際に遂行することができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	作業療法の臨床の実際について	①	永井	講義	予定している内容を指定教科書(2)を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
2	作業療法の臨床場面での理論の活用	①	永井	講義	予定している内容を指定教科書(2)を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
3	作業療法の臨床場面での理論の活用②	①	永井	講義 演習	予定している内容を指定教科書(2)を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
4	作業療法の臨床場面（画像の見方）	① ②	河村	講義	教科書(1)p.2-53を通読（60分）	講義内で提示した課題（60分）
5	作業療法の臨床場面（環境）	① ②	浅野	講義 演習	事前に提示した課題（30分）	講義内で提示した課題（60分）
6	喀痰・吸引のための知識	①	古田	講義	事前に提示した課題（30分）	講義内で提示した課題（60分）
7	喀痰・吸引の実践	②	古田	演習	事前に提示した課題（30分）	講義内で提示した課題（60分）
8	喀痰・吸引の実践②	②	古田	演習	事前に提示した課題（30分）	講義内で提示した課題（60分）
	レポート課題					

評価基準・評価方法	
課題およびグループ活動への取組状況、課題への取組状況を加味して評定する。 レポート課題提出（授業で作成した全てのシートをグループ毎に１セットで提出）により80%、受講態度（グループワークへの参加姿勢）20%の合計で算定する。	
使用教科書	
(1)脳画像　第1版 / 前田眞治.--医学書院, 978-4-260-03250 ５Ｗ１Ｈでわかりやすく学べる作業療法理論の教科書 / 小川真寛・他--メジカルビュー社, 978-4758320290	
参考図書	
課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	レポート課題提出後、１週間以内に個別フィードバックを行う。
備考	卒業後に、実践的な技術を獲得できるよう準備を各自で行ってください。

授業科目名		担当教員	
作業療法特論Ⅱ		永井　貴士・河村　章史・浅野　莉沙　(代表教員　永井　貴士)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 後学期	1単位(15時間)	演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		永井貴士（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・浅野莉沙（作業療法士）	

授 業 概 要

作業療法士の職域が拡大してきているため、これまでの講義で学んだ知識を基盤とし，保健や福祉領域における作業療法の実践について実践者から学ぶことで、これから必要とされる作業療法について考える。
講義では、グループワークを中心として行い、演習形式で学習を勧めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①作業療法の臨床場面で求められる技術や知識を理解することができる。
②求められる知識と技術を実際に遂行することができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	保健や福祉領域での作業療法	①	河村	講義	事前に配布する資料の確認（30分）	講義内で提示する課題（60分）
2	就労移行支援①	①	永井	講義	事前に配布する資料の確認（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
3	就労移行支援②	②	永井	演習	事前に配布する資料の確認（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
4	保健領域での作業療法	①	河村	講義	事前に配布する資料の確認（30分）	講義内で提示する課題（30分）
5	保健領域での作業療法②	②	河村	演習	事前に配布する資料の確認（30分）	講義内で提示する課題（30分）
6	福祉領域での作業療法①	①	浅野	講義	事前に配布する資料の確認（30分）	講義内で提示する課題（30分）
7	福祉領域での作業療法②	① ②	浅野	講義 演習	事前に配布する資料の確認（30分）	講義内で提示する課題（30分）
8	福祉領域での作業療法③	②	浅野	演習	事前に配布する資料の確認（30分）	講義内で提示する課題（30分）
	レポート課題					

評価基準・評価方法	
課題およびグループ活動への参加状況、課題への取組状況を加味して評定する。 レポート課題提出（授業で作成した全てのシートをグループ毎に１セットで提出）により80%、受講態度（グループワークへの参加姿勢）20%の合計で算定する。	
使用教科書	
参考図書	
随時、参考資料を配布する。	
課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	レポート課題提出後、１週間以内に個別フィードバックを行う。
備考	

授業科目名		担当教員	
作業療法学総合演習Ⅰ（基礎）		加藤　清人・永井　貴士・樅山　貴子・花井　弘和・中嶋　淳士・船谷　俊彰・古桧山　建吾・田中　裕士・他　(代表教員　加藤　清人)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	1単位(30時間)	演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・世良龍哉（作業療法士）・永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・浅野莉沙（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）・樅山貴子（作業療法士）・花井弘和（作業療法士）・中嶋淳士（作業療法士）・船谷俊彰（作業療法士）・古桧山建吾（作業療法士）・田中裕士（福祉用具プランナー）	

授 業 概 要

作業療法の実践に関わる分野について、基礎となる医学的な知識を確認しつつ、それらを実践に活用するまでの流れを修得する。病院（施設）から在宅まで作業療法の範囲が拡がるなか、地域で取り組まれている精神障害のデイケアや住宅・福祉用具に関する支援など作業療法の実践を学び知識・技術を深めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①専門職に必要な基礎医学や臨床医学について説明できる。
②専門職に必要な作業療法分野における知識について説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	作業療法分野に必要とされる知識の整理作業（1）	①	OT教員	講義	事前に提示した課題を行っておく（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
2	作業療法分野に必要とされる知識の整理作業（2）	①	OT教員	講義	事前に提示した課題を行っておく（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
3	精神科デイケアにおける作業療法の実際（1）	②	花井	講義	事前に提示した課題を行っておく（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
4	精神科デイケアにおける作業療法の実際（2）	②	花井	演習	事前に提示した課題を行っておく（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
5	脊髄損傷患者に対する作業療法の実際（1）	②	中嶋	講義	事前に提示した課題を行っておく（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
6	脊髄損傷患者に対する作業療法の実際（2）	②	中嶋	演習	事前に提示した課題を行っておく（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
7	福祉用具の必要とされる知識とその活用（1）	②	船谷	演習	事前に提示した課題を行っておく（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
8	福祉用具の必要とされる知識とその活用（2）	②	船谷	演習	事前に提示した課題を行っておく（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
9	福祉用具の必要とされる知識とその活用（3）	②	船谷	演習	事前に提示した課題を行っておく（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	福祉用具の必要とされる知識とその活用（４）	②	船谷	演習	事前に提示した課題を行っておく（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
11	他職種における住宅改修ならびに福祉用具に関する支援（１）	②	田中	演習	事前に提示した課題を行っておく（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
12	他職種における住宅改修ならびに福祉用具に関する支援（２）	②	田中	演習	事前に提示した課題を行っておく（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
13	他職種における住宅改修ならびに福祉用具に関する支援（３）	②	田中	演習	事前に提示した課題を行っておく（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
14	作業療法部門管理業務の実際（１）	②	古桧山	講義	事前に提示した課題を行っておく（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
15	作業療法部門管理業務の実際（２）	②	古桧山	講義	事前に提示した課題を行っておく（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
	課題					

評価基準・評価方法
課題（90%）、受講態度（10%）を総合的に評価する。

使用教科書
必要に応じて資料を配付する。

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	各担当教員の講義終了時に全体に向けてフィードバックを行う。
備考	主体的に取り組むこと。グループワークでは、学生間の活発な討論を期待する。

授業科目名		担当教員	
作業療法学総合演習Ⅱ（専門）		加藤　清人・河村　章史・世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・浅野　莉沙・井上　忠俊・樅山　貴子　(代表教員　加藤　清人)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 後学期	1単位(30時間)	演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・世良龍哉（作業療法士）・永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・浅野莉沙（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）・樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要

作業療法の実践に関わる専門的知識を網羅し、それらを実践応用するまでの流れを習得する。学生個々が情報の収集、選択、統合を能動的に行うことで、基本的知識・技術を深めていく。演習では、グループワークを活用し、シェア学習にて理解を深めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①専門職に必要な基礎医学や臨床医学について説明できる。
②専門職に必要な作業療法分野における知識について説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション（授業計画、授業の進め方など）	①	OT教員全員	講義演習	事前に提示した課題を行っておく（60分）	授業で行った内容を復習しておくこと（60分）
2	グループワーク（身体障害分野）(1)	①	OT教員全員	演習	事前に提示した課題を行っておく（60分）	授業で行った内容を復習しておくこと（60分）
3	グループワーク（身体障害分野）(2)	①	OT教員全員	演習	事前に提示した課題を行っておく（60分）	授業で行った内容を復習しておくこと（60分）
4	グループワーク（身体障害分野）(3)	②	OT教員全員	演習	事前に提示した課題を行っておく（60分）	授業で行った内容を復習しておくこと（60分）
5	グループワーク（身体障害分野）(4)	②	OT教員全員	演習	事前に提示した課題を行っておく（60分）	授業で行った内容を復習しておくこと（60分）
6	グループワーク（身体障害分野）(5)	②	OT教員全員	演習	事前に提示した課題を行っておく（60分）	授業で行った内容を復習しておくこと（60分）
7	グループワーク（身体障害分野）(6)	②	OT教員全員	演習	事前に提示した課題を行っておく（60分）	授業で行った内容を復習しておくこと（60分）
8	グループワーク（精神障害分野）(1)	①	OT教員全員	演習	事前に提示した課題を行っておく（60分）	授業で行った内容を復習しておくこと（60分）
9	グループワーク（精神障害分野）(2)	①	OT教員全員	演習	事前に提示した課題を行っておく（60分）	授業で行った内容を復習しておくこと（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	グループワーク（精神障害分野）(3)	②	OT教員全員	演習	事前に提示した課題を行っておく（60分）	授業で行った内容を復習しておくこと（60分）
11	グループワーク（精神障害分野）(4)	②	OT教員全員	演習	事前に提示した課題を行っておく（60分）	授業で行った内容を復習しておくこと（60分）
12	グループワーク（発達障害分野）(1)	①	OT教員全員	演習	事前に提示した課題を行っておく（60分）	授業で行った内容を復習しておくこと（60分）
13	グループワーク（発達障害分野）(2)	②	OT教員全員	演習	事前に提示した課題を行っておく（60分）	授業で行った内容を復習しておくこと（60分）
14	グループワーク（老年期障害分野）(1)	①	OT教員全員	演習	事前に提示した課題を行っておく（60分）	授業で行った内容を復習しておくこと（60分）
15	グループワーク（老年期障害分野）(2)	②	OT教員全員	演習	事前に提示した課題を行っておく（60分）	授業で行った内容を復習しておくこと（60分）
	課題					

評価基準・評価方法
受講態度（20%）、課題（80%）を総合的に評価する。

使用教科書
PT/OT国家試験必須ポイント専門基礎分野基礎OT学2022 / 医歯薬出版株式会社, 2021年7月予定, PT/OT国家試験必須ポイント専門基礎分野基礎医学2022 / 医歯薬出版株式会社, 2021年6月予定, PT/OT国家試験必須ポイント専門基礎分野障害別OT治療学2022 / 医歯薬出版株式会社, 2021年7月予定, PT/OT国家試験必須ポイント専門基礎分野臨床医学2022 / 医歯薬出版株式会社, 2021年6月予定,

参考図書
適時必要に応じて資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	グループごとに個々の学生へフィードバックを行う。
備考	主体的に取り組むこと。グループワークでは、学生間の活発な討論を期待する。

授業科目名		担当教員	
地域作業療法学Ⅰ（制度・支援・連携）		永井　貴士・井上　忠俊　(代表教員　永井　貴士)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		永井貴士（作業療法士）、井上忠俊（作業療法士）	

授 業 概 要

作業療法士の対象者である患者が社会で生活するために、どのような支援を行うのかを、日本作業療法士協会が推進する「生活行為向上マネジメント（MTDLP）」を用いて学習する。講義では、グループワークを中心として行い、演習形式で学習を勧めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①「生活行為向上マネジメント（MTDLP）」を用いて、対象者を評価できる。
②目標設定を通して関わり方を考えることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	日本作業療法士協会のねらいと、現在の日本の状況について	①	永井	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
2	生活行為向上マネジメントとは	①	永井	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
3	生活行為向上マネジメントの解説　その①	①	永井	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
4	生活行為向上マネジメントの解説　その②	①	永井	講義	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
5	生活行為向上マネジメントを通した事例の紹介	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
6	生活行為向上マネジメントの演習　その①	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
7	生活行為向上マネジメント　聞き取りシートの作成	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
8	生活行為向上マネジメント　アセスメント演習シートの作成	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
9	生活行為向上マネジメント　生活行為向上プラン演習シートの作成	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	生活行為向上マネジメント　サブシート　興味・関心チェックシートの作成	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
11	生活行為向上マネジメント　サブシート　生活行為課題分析シートの作成	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
12	生活行為向上マネジメント　生活行為申し送り表の作成	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
13	生活行為向上マネジメントシートの作成	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
14	グループ発表　その①	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
15	グループ発表　その②	②	永井	演習	予定している内容を指定教科書を読んでおくこと（30分）	授業で行った内容を復習しておくこと（30分）
	レポート課題					

評価基準・評価方法
課題およびグループ活動への参加状況、課題への取組状況を加味して評定する。 レポート課題提出（授業で作成した全てのシートをグループ毎に１セットで提出）により80%、受講態度（グループワークへの参加姿勢）20%の合計で算定する。

使用教科書
事例で学ぶ生活行為向上マネジメント第２版 / 日本作業療法士協会--医歯薬出版株式会社, 2021年, ISBN978-4-263-26634-2

参考図書
必要に応じて、資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	レポート課題提出後、１週間以内に個別フィードバックを行う。
備考	卒業後、実践場面において必要であると日本作業療法士協会が提唱している技能である生活行為向上マネジメントが用いられるような能力を身につけられるよう取り組むこと。

授業科目名		担当教員	
地域作業療法学Ⅱ（実践・就労支援）		加藤　清人・井上　忠俊・小森　健司　(代表教員　加藤　清人)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	1単位(30時間)	講義 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）・小森健司（作業療法士）	

授 業 概 要

地域作業療法学Ⅱでは、通所施設や福祉施設、行政など地域で取り組まれている作業療法に対する理解を深める。
また、就労支援をしていくために、職業や職業リハビリテーションの概略を学び、そのなかで作業療法の役割を考える。障害者の就労について理解を深める。この講義では、各グループごとにテーマを抽出し、グループワークを通して概要を整理し、学生間で共有することで理解を深める。

学 修 の 到 達 目 標

①通所施設における作業療法の役割を説明できる。
②福祉施設などの地域における作業療法の役割を説明できる。
③職業リハビリテーションについて説明できる。
④就労支援に対する評価・支援について説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	地域作業療法を考える	① ②	加藤	講義	使用テキスト、配布資料に目を通しておく（30分）	講義の要点についてまとめる（30分）
2	通所施設における作業療法の概要	①	井上	講義	通所施設の種類，対象者，目的について調べる（30分）	通所施設の概要についてまとめる（30分）
3	通所施設における作業療法の実際	①	井上	講義	通所施設における作業療法の実例について調べる（30分）	通所施設における作業療法の実例についてまとめる（30分）
4	福祉施設における作業療法の概要	②	井上	講義	特養，老健，介護医療院について調べる（30分）	特養，老健，介護医療院における作業療法の実例をまとめる（30分）
5	認知症高齢者に対する生活支援（１）	②	井上	講義	アルツハイマー型認知症の典型的，認知機能障害と認知症の行動・心理症状について調べる（30分）	アルツハイマー型認知症，及びその他の認知症疾患で使用される評価についてまとめる（30分）
6	認知症高齢者に対する生活支援（２）	②	井上	講義	アルツハイマー型認知症者に対する作業療法介入について調べる（30分）	アルツハイマー型認知症者に対する直接的介入及び間接的介入についてまとめる（30分）
7	行政・事業所における作業療法の実際	②	井上	講義	行政，事業所で行われている作業療法の具体例を調べる（30分）	行政，事業所における作業療法の取り組みについてまとめる（30分）
8	企業における作業療法の実際	②	井上	講義	企業と連携している作業療法の具体例を調べる（30分）	企業での作業療法の取り組みについてまとめる（30分）
9	職業リハビリテーションとは	③	小森	講義	該当内容について教科書を読むこと（30分）	講義の要点をまとめる（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	職業リハビリテーションに関わる職種	③	小森	講義	該当内容について教科書を読むこと（30分）	講義の要点をまとめる（30分）
11	職業リハビリテーションの実際	③	小森	講義	該当内容について教科書を読むこと（30分）	講義の要点をまとめる（30分）
12	就労支援とは	④	小森	講義	該当内容について教科書を読むこと（30分）	講義の要点をまとめる（30分）
13	就労支援に求められる作業療法の役割を考える	④	小森	講義	配布資料に目を通しておく（30分）	講義の要点をまとめる（30分）
14	就労支援の実際（１）	④	小森	講義	配布資料に目を通しておく（30分）	講義の要点をまとめる（30分）
15	就労支援の実際（２）	④	小森	講義	配布資料に目を通しておく（30分）	講義の要点をまとめる（30分）
	課題					

評価基準・評価方法
課題（９０％）、受講態度（１０％）

使用教科書
作業療法学全書　第13巻　地域作業療法学 / 太田睦美ほか.--改訂第3版--協同医書出版社, 2009年, ISBN978-4-7639-2130-7

参考図書
必要に応じて資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	各回の講義終了時に全体にむけてフィードバックを行う。
備考	質問は随時受け付ける。

授業科目名		担当教員	
生活環境・福祉機器学		井上　忠俊	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	2単位(30時間)	講義 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		井上忠俊（作業療法士）	

授 業 概 要

障がい者の自立・社会参加を促すために，生活環境を物的・人的環境としてトータル的に捉え，調整する必要がある。その人らしい生活を送るためにどのような生活環境や福祉用具が必要かを学び，理解を深める。また、具体的なサポート内容についてグループワークにて考察しプレゼンテーションを行い理解を深める。

学 修 の 到 達 目 標

①住宅改修や福祉用具における介護保険制度について説明することができる。
②福祉用具の構造や使用方法、ニーズに沿った選択ができるようになる。
③モデルケースを通して、住宅改修の立案及び在宅生活への復帰や継続に繋げる考え方を習得できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション，住環境整備とは	①	井上	講義	住宅環境について調べる(120分)	様々な住宅環境について説明できるようにする(120分)
2	環境整備に関わる制度と社会資源	①	井上	講義	住宅改修に関連する制度について調べる(120分)	住宅改修に関連する制度について説明できるようにする(120分)
3	福祉用具の種類と選択①起居関連用具	①②②	井上	講義	起居動作に関連する福祉用具について調べる(120分)	起居動作に関連する福祉用具について説明できるようにする(120分)
4	福祉用具の種類と選択②移乗・移動関連用具	①②②	井上	講義	移乗・移動に関する福祉用具について調べる(120分)	移乗・移動に関する福祉用具について説明できるようになる(120分)
5	福祉用具の種類と選択③入浴・排泄関連用具	①②②	井上	講義	入浴，排泄に関する福祉用具について調べる(120分)	入浴，排泄に関する福祉用具について説明できるようになる(120分)
6	福祉用具の種類と選択④食事・更衣・整容，コミュニケーション関連用具	①②②	井上	講義	食事・更衣・整容，コミュニケーション関連の福祉用具について調べる(120分	食事・更衣・整容，コミュニケーション関連の福祉用具について説明できるようになる(120分)
7	住宅改修の知識①玄関	①②③	井上	講義	玄関関連の住宅改修について調べる(120分)	玄関関連の住宅改修について説明できるようになる(120分)
8	住宅改修の知識①トイレ	①②③	井上	講義	トイレ関連の住宅改修について調べる(120分)	トイレ関連の住宅改修について説明できるようになる(120分)
9	住宅改修の知識①浴室	①②③	井上	講義	浴室関連の住宅改修について調べる(120分)	浴室関連の住宅改修について説明できるようになる(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	住宅改修の知識④居室・他	① ② ③	井上	講義	居室関連の住宅改修について調べる (120分)	居室関連の住宅改修について説明できるようになる (120分)
11	住宅改修の検討①玄関・トイレ	① ② ③	井上	講義	疾患別に玄関，トイレの改修について調べる (120分)	疾患別に玄関，トイレの改修について説明できるようになる (120分)
12	住宅改修の検討②浴室・居室	① ② ③	井上	講義	疾患別に浴室，居室の改修について調べる (120分)	疾患別に浴室，居室の改修について説明できるようになる (120分)
13	住宅改修ケース発表①	① ② ③	井上	演習	疾患別に考えた住宅改修についてまとめる (120分)	疾患別に考えた住宅改修について説明できるようになる (120分)
14	住宅改修ケース発表②	① ② ③	井上	演習	疾患別に考えた住宅改修についてまとめる (120分)	疾患別に考えた住宅改修について説明できるようになる (120分)
15	住宅改修ケース発表③	① ② ③	井上	演習	疾患別に考えた住宅改修についてまとめる (120分)	疾患別に考えた住宅改修について説明できるようになる (120分)
	定期試験（筆記およびレポート課題）					

評価基準・評価方法

評価基準：発表は，態度やプレゼンテーション力，十分な知識・アイディアが含まれているかを評価対象とする。
評価方法：定期試験（50%），課題(50%)

使用教科書

必要に応じて資料を配布する

参考図書

福祉住環境コーディネーター検定試験．2級公式テキスト．
OT・PTのための住環境整備論 / 野村歓ほか.--第2版--三輪書店，2012

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	提出されたレポートにはコメントをつけ返却する。
備考	オフィスアワー：講義中に質問の時間を取り，講義内または次回講義前に回答する。

授業科目名		担当教員	
臨床実習Ⅰ（基礎）		加藤　清人・河村　章史・世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・浅野　莉沙・井上　忠俊・樅山　貴子　(代表教員　加藤　清人)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	1年 後学期	1単位(45時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・世良龍哉（作業療法士）・永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・浅野莉沙（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）・樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要

臨床実習Ⅰ（基礎）の学習では、施設・病院での実習を1学生1週間実施する。「基礎演習」「作業療法概論」「作業療法治療技術理論」より学んだ作業療法士の役割、責任、医療人としてのマナーを経験する。それにより、自らの適性について考える。実習終了時には、学内報告会を実施する。

学 修 の 到 達 目 標

①作業療法士に必要とされる基本的態度を身につける。
②作業療法（士）に対する興味・関心、職業意識を高める。
③臨床における作業療法について説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	実習前オリエンテーション（学内）：接遇に関する講義・実技を実施する。	①			1年次後期実施のOSCEについて復習（30分）	修得した接遇を実践できるようまとめる（30分）
2〜21	1週間の学外実習を実施。実習施設において実習指導者の監督下において見学・観察を主体とした実習を行う。	①②③			予定の確認・準備（30分）	記録・課題提出の準備、振り返り、課題と具体的解決策の立案（30分）
	身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害の分野から１学生１施設1週間の実習を行う。					
	臨床実習時間は、基本的には9：00〜17：00であるが実習施設の就業時間に従う。					
	出席については、実習すべき全日数出席が原則で、何らかの事情で欠席を重ね、実習をすべき日数に満たない場合は評価不能とする。					
22	実習施設（領域）の概要と作業療法士の役割、並びに報告会に必要な内容を整理				記録・課題の整理（30分）	報告会の準備・資料の作成（30分）
23	実習施設（領域）の概要と作業療法士の役割の整理	②③			実習で得た情報の整理（30分）	情報の領域別整理（30分）
24〜25	報告会（学内）	②③			報告会の準備・資料作成（30分）	報告会で得られた情報の整理（30分）
26〜27	レポート作成	③			これまでに得られた情報の整理（30分）	レポート作成過程で生じた課題の解決（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	–					
	–					
	–					

評価基準・評価方法
臨床実習の評価表を用いる。担当実習指導者の判定結果を基に総合的に判定する。 評価表の項目として、社会的態度（20%）、作業療法評価の遂行度（80%）とする。

使用教科書
１年次に使用したすべてのテキスト 臨床実習要項

参考図書
適時必要に応じて資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	臨床実習前・後に個々の課題に応じて個別フィードバックを行う。
備考	臨床実習Ⅰ実施にあたり、事前オリエンテーションを行うので必ず出席すること。 社会（施設）での実習となる。身嗜み、言葉使い、規則などが学内とは異なるため、心がけること。実習では実習着（ケーシー服）を着用する。

授業科目名		担当教員	
通所／訪問リハ実習		加藤　清人・河村　章史・世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・井上　忠俊・樅山　貴子　(代表教員　加藤　清人)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(45時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・世良龍哉（作業療法士）・永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）・樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要
通所／訪問リハ実習では、病院及び施設における通所や訪問サービス分野での実習を実施する。ここでは、通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションの概要を把握し、作業療法士の役割やリハビリテーションマネジメント等について学びを深めていく。

学 修 の 到 達 目 標
①作業療法士に必要とされる基本的態度を身につける。 ②作業療法（士）に対する興味・関心、職業意識を高める。 ③通所サービス分野または訪問サービス分野における作業療法について説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	実習前オリエンテーション（学内）：接遇に関する講義・実技を実施	①			臨床実習Ⅰで作成したレポートの確認（30分）	本実習に必要な接遇の整理（30分）
2〜21	通所／訪問リハビリテーション施設における実習	①②③			予定の確認・準備（30分）	記録・課題提出の準備、振り返り、課題と具体的解決策の立案（30分）
	通所・訪問rハビリテーションの分野について１学生１施設１週間の実習を行う。					
	臨床実習時間は、基本的には9：00〜17：00であるが実習施設の就業時間に従う。					
	出席については、実習すべき全日数出席が原則で、何らかの事情で欠席を重ね、実習をすべき日数に満たない場合は評価不能とする。					
	–					
	–					
	–					
	–					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	–					

評価基準・評価方法
臨床実習の評価表を用いる。担当指導者判定結果を基に総合的に判定する。 評価表の項目として、社会的態度（20%）、作業療法実習の遂行度（80%）とする。

使用教科書
これまでに使用したテキスト 臨床実習要項

参考図書
適時必要に応じて資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	臨床実習前・後に個々の課題に応じて個別フィードバックを行う。
備考	臨床実習の実施にあたり、事前オリエンテーションを行うので必ず出席すること。 社会（施設）での実習となる。身嗜み、言葉使い、規則などが学内とは異なるため、心がけること。実習では実習着（ケーシー服）を着用する。

授業科目名		担当教員	
通所／訪問リハ実習セミナー		加藤　清人・河村　章史・世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・井上　忠俊・樅山　貴子　(代表教員　加藤　清人)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・世良龍哉（作業療法士）・永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）・樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要

通所／訪問実習で得た体験、知識、技術を整理する。また学生相互に情報を共有、討議することで地域のなかでどのような実践が行われているのか理解を深めることを目的とする。

学 修 の 到 達 目 標

①通所または訪問サービス分野における施設の概要について説明することができる。
②様々な職種のなかで、作業療法士の役割が説明できる。
③臨床で必要とされる基礎医学について整理し、現場と関連づけて説明することができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	１週間で得られた施設ならびに作業療法士の活動をまとめた整理する。				検討資料作成（120分）	検討資料作成（120分）
2	セミナー発表と討論（１）	①②			検討資料作成（120分）	自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）
3	セミナー発表と討論（２）	①②			自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）	自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）
4	セミナー発表と討論（３）	①②			自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）	自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）
5	セミナー発表と討論（４）	①②			自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）	自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）
6	実習課題の抽出と対策（１）	①②			自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）	抽出した課題の対策案の作成（60分）
7	実習課題の抽出と対策（２）	①②			抽出した課題の対策案の作成（60分）	対策案の実施と見直し（60分）
8	実習課題の抽出と対策（３）	①②			抽出した課題の対策案の作成（60分）	対策案の実施と見直し（60分）
9	臨床実習で必要とされた技術学習（１）	①②			実習で必要であった技術の整理（60分）	遂行上課題があった技術の見直し（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	臨床実習で必要とされた技術学習（２）	① ②			遂行上課題があった技術の見直し（60分）	遂行上課題があった技術の見直し（60分）
11	基礎医学における知識と技術の整理（１）				実習で得た知識・技術の学問的背景の整理（60分）	実習で得た知識・技術の学問的背景の整理（60分）
12	基礎医学における知識と技術の整理（２）				実習で得た知識・技術の学問的背景の整理（60分）	実習で得た知識・技術の学問的背景の整理（60分）
13	基礎医学における知識と技術の整理（３）				実習で得た知識・技術の学問的背景の整理（60分）	実習で得た知識・技術の学問的背景の整理（60分）
14	基礎医学の統合学習（１）				実習上関わった症例の見直し（60分）	フィードバックで得た課題の改善（60分）
15	基礎医学の統合学習（２）				実習上関わった症例の見直し（60分）	フィードバックで得た課題の改善（60分）
	セミナー発表・レポート課題					

評価基準・評価方法
課題（90%）、受講態度（10%）を総合的に評価する。

使用教科書
「臨床実習要項」、実習で関連のあるテキスト。

参考図書
適時必要に応じて資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	個別の課題に対して個々にフィードバックを行う。
備考	学生間の活発な討論を期待する。質問は随時受け付ける。

授業科目名		担当教員	
評価実習前セミナー		加藤　清人・河村　章史・世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・浅野　莉沙・井上　忠俊・樅山　貴子　(代表教員　加藤　清人)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・世良龍哉（作業療法士）・永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・浅野莉沙（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）・樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要

評価実習前セミナーでは、臨床実習の準備段階として臨床実習に対応できる評価技術、知識の再確認を行う。学生は、模擬ケースを通して作業療法評価の流れを確認しながら知識・技術を経験する。また、プレゼンテーション資料の作成では、症例に対する情報収集、作業療法評価、作業療法計画までの過程を整理し、症例の全体像を把握する。グループワークを活用し、学生間の意見交換の場を通して、理解を深める。

学 修 の 到 達 目 標

①臨床実習にむけて基本的態度を身につけ意欲的に取り組むことができる。
②臨床実習で対応できる評価技術を修得することができる。
③症例（模擬症例）を担当し、作業療法評価を一通りまとめることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	Advance OSCEオリエンテーション（授業計画、実習で求められる基本的態度)				事前に提示する資料の確認（30分）	オリエンテーション内で提示する課題（60分）
2	Advance OSCE 評価計画	①②③			オリエンテーション内で提示する課題（60分）	評価計画の完成（60分）
3	Advance OSCE 実施（１）	①②③			評価計画の完成（60分）	実施により見いだされた改善点への対応（60分）
4	Advance OSCE 実施（２）	①②③			実施により見いだされた改善点への対応（60分）	実施により見いだされた改善点への対応（60分）
5	Advance OSCE 実施（３）	①②③			実施により見いだされた改善点への対応（60分）	実施により見いだされた改善点への対応（60分）
6	Advance OSCE 実施（４）	①②③			実施により見いだされた改善点への対応（60分）	実施により見いだされた改善点への対応（60分）
7	Advance OSCE 実施（５）	①②③			実施により見いだされた改善点への対応（60分）	実施により見いだされた改善点への対応（60分）
8	Advance OSCE 実施（６）	①②③			実施により見いだされた改善点への対応（60分）	実施により見いだされた改善点への対応（60分）
9	Advance OSCE ビデオフィードバック	①②③			実施動画の確認と生理（60分）	FB内容の整理と改善策の立案（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	評価結果整理・プレゼンテーション資料の作成（1）	①②③			資料作成の材料の整理（60分）	資料作成（60分）
11	評価結果整理・プレゼンテーション資料の作成（2）	①②③			資料作成（60分）	資料作成（60分）
12	評価結果整理・プレゼンテーション資料の作成（3）	①②③			資料作成（60分）	資料作成（60分）
13	評価結果整理・プレゼンテーション資料の作成（4）	①②③			資料作成（60分）	資料作成（60分）
14	評価結果整理・プレゼンテーション資料の作成（5）	①②③			資料作成（60分）	資料作成（60分）
15	評価結果整理・プレゼンテーション資料の作成（6）	①②③			資料作成（60分）	資料作成（60分）
	OSCE・症例検討課題					

評価基準・評価方法
受講態度（10%）、OSCE（60%）、ケースノート・発表（30%）を総合的に評価する。 なお、AdvanceOSCEを行い、6割以下もしくは著しく評価の低い項目がみられた場合は確認試験を実施する。

使用教科書
これまでに使用したすべてのテキスト 臨床実習要項 OSCEに関する配布資料

参考図書
適時必要な資料は配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	グループごとに個々に対してフィードバックを行う。
備考	臨床実習を想定して実施するため、学内ではあるが臨床実習で求められる基本的態度・マナーを心がけること。OSCE実施においては、実習に望ましい容姿・態度・服装（ケーシー服）にて臨むこと。実習は個々の臨床能力が要求されるため、主体的に取り組むこと、他学生と協力することを心がけること。担当教員の指示に従い、課題を進めること。

授業科目名		担当教員	
臨床実習Ⅱ（評価）		加藤　清人・河村　章史・世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・浅野　莉沙・井上　忠俊・樅山　貴子　(代表教員　加藤　清人)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	4単位(180時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・世良龍哉（作業療法士）・永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・浅野莉沙（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）・樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要

臨床実習Ⅱ（評価）の学習では、臨床実習指導者の指導のもと、基本的な評価方法を修得する。具体的には各検査の実施、検査結果を解釈し、問題点の抽出、ゴール立案までの流れを実践する。また、適切な記録、指導者への報告・連絡・相談といった作業療法士として必要な資質（態度）を身につけることを目指す。

学 修 の 到 達 目 標

1．作業療法士としての基本的態度を身につける。
2．対象者と良好な関係を築くことができる。
3．作業療法評価の一連の流れを実践することができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	実習前オリエンテーション（学内）：接遇に関する講義・実技並びに実習で取り組む課題の確認	①			これまでの実習記録の確認（30分）	実習課題の整理（30分）
2〜81	４週間（１月〜３月の期間）の学外実習を実施する。	①②③			予定の確認・準備（30分）	記録・課題提出の準備、振り返り、課題と具体的解決策の立案（30分）
	４週間（１月〜３月の期間）の学外実習を実施する。					
	２年次までに必要な科目を修得した学生が、身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害の分野から１学生１施設４週間の実習を行う。					
	臨床実習時間は、基本的には9：00〜17：00であるが実習施設の就業時間に従う。					
	出席については、実習すべき全日数出席が原則で、何らかの事情で欠席を重ね、実習をすべき日数に満たない場合は評価不能とする。					
	–					
	–					

評価基準・評価方法

臨床実習の評価表を用いる。担当実習指導者の判定結果を基に総合的に判定する。
評価表の項目として、社会的態度（20%）、作業療法評価の遂行度（80%）とする。

使用教科書	
これまでに使用したすべてのテキスト 臨床実習要項	
参考図書	
適時必要に応じて資料を配布する。	
課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	臨床実習前・中・後に個々の課題に応じて個別フィードバックを行う。
備考	臨床実習Ⅱ実施にあたり、事前オリエンテーションを行うので必ず出席すること。 社会（施設）での実習となる。身嗜み、言葉使い、規則などが学内とは異なるため、心がけること。実習では実習着（ケーシー服）を着用する。

授業科目名		担当教員	
作業療法総合セミナーⅠ（評価）		加藤　清人・河村　章史・世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・浅野　莉沙・井上　忠俊・樅山　貴子　(代表教員　加藤　清人)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・世良龍哉（作業療法士）・永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・浅野莉沙（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）・樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要

「臨床実習Ⅱ」の体験から得た知識や技術を整理し、実習で担当した症例発表を行うなかで学生相互間による討議を重ねることで情報を共有すること、より質の高い介入ができるよう考えること、について学習を深めていく。他学生の情報は、自身が体験していない内容を補うことにも繋がり臨床領域の奥深さなどについても学習する。また、臨床で必要とされる基礎医学に対する知識を深めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①臨床の場で実施した作業療法プロセスを適切にまとめ報告・質疑に応えることができる。
②作業療法的見地をもって質問および説明をすることができる。
③臨床で必要とされた基礎医学について整理し、理解を深めることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	４週間の作業療法プロセスをまとめたパワーポイントよりセミナーでの検討資料を作成する。				検討資料作成（120分）	検討資料作成（120分）
2	セミナー発表と討論（１）	①②②			検討資料作成（120分）	自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）
3	セミナー発表と討論（２）	①②②			自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）	自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）
4	セミナー発表と討論（３）	①②②			自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）	自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）
5	セミナー発表と討論（４）	①②②			自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）	自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）
6	実習課題の抽出と対策（１）	①②②			自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）	抽出した課題の対策案の作成（60分）
7	実習課題の抽出と対策（２）	①②②			抽出した課題の対策案の作成（60分）	対策案の実施と見直し（60分）
8	実習課題の抽出と対策（３）	①②②			抽出した課題の対策案の作成（60分）	対策案の実施と見直し（60分）
9	臨床実習で必要とされた技術学習（１）	①②②			実習で必要であった技術の整理（60分）	遂行上課題があった技術の見直し（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	臨床実習で必要とされた技術学習（２）	① ②			遂行上課題があった技術の見直し（60分）	遂行上課題があった技術の見直し（60分）
11	基礎医学における知識と技術の整理（１）	③			実習で得た知識・技術の学問的背景の整理（60分）	実習で得た知識・技術の学問的背景の整理（60分）
12	基礎医学における知識と技術の整理（２）	③			実習で得た知識・技術の学問的背景の整理（60分）	実習で得た知識・技術の学問的背景の整理（60分）
13	基礎医学における知識と技術の整理（３）	③			実習で得た知識・技術の学問的背景の整理（60分）	実習で得た知識・技術の学問的背景の整理（60分）
14	基礎医学の統合学習（１）	③			実習症例の見直し（60分）	実習症例の見直し（60分）
15	基礎医学の統合学習（２）	③			実習症例の見直し（60分）	フィードバックで得た課題の改善（60分）
	セミナー発表・レポート課題					

評価基準・評価方法
課題（90%）、受講態度（10%）を総合的に評価する。

使用教科書
「臨床実習要項」、実習で関連のあるテキスト。

参考図書
適時必要に応じて配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	個別の課題に対して個々にフィードバックを行う。
備考	学生間の活発な討議を期待する。質問は随時受け付ける。

授業科目名		担当教員	
臨床実習Ⅲ（総合前期）		加藤　清人・河村　章史・世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・井上　忠俊・樅山　貴子　(代表教員　加藤　清人)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	7単位(315時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・世良龍哉（作業療法士）・永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）・樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要

臨床実習Ⅲ（総合前期）の学習では、これまでに学んだ基本的な評価方法を用い、作業療法計画立案、さまざまな医療現場の活動参加を実践する。また、必要に応じ作業療法計画の変更、他部門からの情報収集、記録・報告、医療従事者としての適切な人間関係の構築などより実践的な内容を臨床実習指導者のもとで学ぶ。

学 修 の 到 達 目 標

①対象者ならびに施設スタッフとの良好な人間関係を築くことができる。
②作業療法評価・アプローチを一通り実践することができる。
③施設の管理・運営について考えることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	実習前オリエンテーション（学内）：実習の目的、手順、心得、マナー、感染予防、個人情報保護、実習に必要な実技練習	①			これまでの実習の記録の確認（30分）	課題の整理（30分）
2～16 1	８週間（5月～7月の期間）の学外実習を実施	①②③			予定の確認・準備（30分）	記録・課題提出の準備、振り返り、課題と具体的解決策の立案（30分）
	臨床実習Ⅱを修得した学生が、身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害の分野から１学生１施設８週間の実習を行う。					
	具体的な内容として、１学生１～２名の症例を担当する。担当症例に関する情報収集、作業療法評価の実施、課題の抽出、実習指導者の指導を仰ぎながら作業療法治療計画の立案、実施を行う。					
	臨床実習時間は、基本的には9：00～17：00であるが実習施設の就業時間に従う。					
	出席については、実習すべき全日数出席が原則で、何らかの事情で欠席を重ね、実習をすべき日数に満たない場合は評価不能とする。					
16 2～16 5	実習報告会：学生間の報告と意見交換を実施する。レジュメを作成し発表を行う。	③			実習報告会の準備・資料作成（30分）	得られた知見・情報の整理（30分）
	–					
	–					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	–					
	–					
	–					
	–					

評価基準・評価方法
臨床実習の評価表を用いる。担当実習指導者の判定結果を基に総合的に判定する。 評価表の項目として、社会的態度（20%）、作業療法評価の遂行度（80%）とする。

使用教科書
これまでに使用したすべてのテキスト 臨床実習要項

参考図書
適時必要に応じて資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	臨床実習前・中・後に個々の課題に応じて個別フィードバックを行う。
備考	臨床実習Ⅲ実施にあたり、事前オリエンテーションを行うので必ず出席すること。 社会（施設）での実習となる。身嗜み、言葉使い、規則などが学内とは異なるため、心がけること。実習では実習着（ケーシー服）を着用する。

授業科目名		担当教員	
臨床実習Ⅲ（総合前期）		加藤　清人・河村　章史・世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・浅野　莉沙・井上　忠俊・樅山　貴子　(代表教員　加藤　清人)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	8単位(360時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・世良龍哉（作業療法士）・永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・浅野莉沙（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）・樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要

臨床実習Ⅲ（総合前期）の学習では、これまでに学んだ基本的な評価方法を用い、作業療法計画立案、さまざまな医療現場の活動参加を実践する。また、必要に応じ作業療法計画の変更、他部門からの情報収集、記録・報告、医療従事者としての適切な人間関係の構築などより実践的な内容を臨床実習指導者のもとで学ぶ。

学 修 の 到 達 目 標

①対象者ならびに施設スタッフとの良好な人間関係を築くことができる。
②作業療法評価・アプローチを一通り実践することができる。
③施設の管理・運営について考えることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	実習前オリエンテーション（学内）：実習の目的、手順、心得、マナー、感染予防、個人情報保護などの確認、実習に必要な実技練習				過去の実習記録の確認（30分）	課題の整理（30分）
2～161	８週間（5月～7月の期間）の学外実習				予定の確認・準備（30分）	記録・課題提出の準備、振り返り、課題と具体的解決策の立案（30分）
	臨床実習Ⅱを修得した学生が、身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害の分野から1学生1施設8週間の実習を行う。					
	具体的には、1学生1～2名の症例を担当し、担当症例に関する情報収集、作業療法評価の実施、課題の抽出、実習指導者の指導を仰ぎながら作業療法治療計画の立案、実施を行う。					
	臨床実習時間は、基本的には9：00～17：00であるが実習施設の就業時間に従う。					
	出席は、実習すべき全日数の出席が原則で、何らかの事情で欠席を重ね、実習をすべき日数に満たない場合は評価不能とする。					
162～165	実習報告会：学生間の報告と意見交換を実施。レジュメを作成し発表を行う。	③			実習報告階の準備・資料作成（30分）	得られた知見・情報の整理（30分）
	–					
	–					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	–					
	–					
	–					
	–					

評価基準・評価方法
臨床実習の評価表を用いる。担当実習指導者の判定結果を基に総合的に判定する。 評価表の項目として、社会的態度（20%）、作業療法評価の遂行度（80%）とする。

使用教科書
これまでに使用したすべてのテキスト 臨床実習要項

参考図書
適時必要に応じて資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	臨床実習前・中・後に個々の課題に応じて個別フィードバックを行う。
備考	臨床実習Ⅲ実施にあたり、事前オリエンテーションを行うので必ず出席すること。 社会（施設）での実習となる。身嗜み、言葉使い、規則などが学内とは異なるため、心がけること。実習では実習着（ケーシー服）を着用する。

授業科目名		担当教員	
作業療法総合セミナーⅡ（評価と介入①）		加藤　清人・河村　章史・世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・井上　忠俊・樅山　貴子　（代表教員　加藤　清人）	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	1単位(30時間)	演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・世良龍哉（作業療法士）・永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）・樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要

「臨床実習Ⅲ」の体験から得た知識や技術を整理し、実習で担当した症例発表を行うなかで学生相互間による討議を重ねることで情報を共有すること、より質の高い介入ができるよう考えること、について学習を深めていく。他学生の情報は、自身が体験していない内容を補うことにも繋がり臨床領域の奥深さなどについても学習する。また、臨床で必要とされる専門分野に対する知識を深めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①臨床の場で実施した作業療法プロセスを適切にまとめ報告・質疑に応えることができる。
②作業療法的見地をもって質問および説明をすることができる。
③臨床で必要とされた専門分野について整理し、理解を深めることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	８週間の作業療法プロセスをまとめたレポートよりセミナーでの検討資料を作成する。				検討資料作成（120分）	検討資料作成（120分）
2	セミナー発表と討論（１）	①②②			検討資料作成（120分）	自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）
3	セミナー発表と討論（２）	①②②			自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）	自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）
4	セミナー発表と討論（３）	①②②			自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）	自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）
5	セミナー発表と討論（４）	①②②			自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）	自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）
6	実習課題の抽出と対策（１）	①②②			自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）	抽出した課題の対策案の作成（60分）
7	実習課題の抽出と対策（２）	①②②			抽出した課題の対策案の作成（60分）	対策案の実施と見直し（60分）
8	実習課題の抽出と対策（３）	①②②			抽出した課題の対策案の作成（60分）	対策案の実施と見直し（60分）
9	臨床実習で必要とされた技術学習（１）	①②②			実習で必要であった技術の整理（60分）	遂行上課題があった技術の見直し（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	臨床実習で必要とされた技術学習（２）	① ②			遂行上課題があった技術の見直し（60分）	遂行上課題があった技術の見直し（60分）
11	専門基礎分野・専門分野における知識と技術の整理（１）	③			実習で得た知識・技術の整理（60分）	実習で得た知識・技術の整理（60分）
12	専門基礎分野・専門分野における知識と技術の整理（２）	③			実習で得た知識・技術の整理（60分）	実習で得た知識・技術の整理（60分）
13	専門基礎分野・専門分野における知識と技術の整理（３）	③			実習で得た知識・技術の整理（60分）	実習で得た知識・技術の整理（60分）
14	専門基礎分野・専門分野の統合学習（１）	③			実習症例の見直し（60分）	実習症例の見直し（60分）
15	専門基礎分野・専門分野の統合学習（２）	③			実習症例の見直し（60分）	フィードバックで得た課題の改善（60分）
	セミナー発表・レポート課題					

評価基準・評価方法
課題（90%）、受講態度（10%）を総合的に評価する。

使用教科書
「臨床実習要項」、実習で関連のあるテキスト。

参考図書
適時必要に応じて配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	個別の課題に対して個々にフィードバックを行う。
備考	学生間の活発な討議を期待する。質問は随時受け付ける。

授業科目名		担当教員	
臨床実習Ⅳ（総合後期）		加藤　清人・河村　章史・世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・浅野　莉沙・井上　忠俊・樅山　貴子　(代表教員　加藤　清人)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 後学期	7単位(315時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・世良龍哉（作業療法士）・永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・浅野莉沙（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）・樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要

臨床実習Ⅳ（総合後期）の学習では、病院・施設においてゴール設定までの作業療法評価に加え、臨床実習指導者による指導のもと作業療法計画の作成とさまざまな医療現場の活動に参加する。また、これまでに学んだ臨床的な思考過程を更に発展させる。

学 修 の 到 達 目 標

①対象者ならびに施設スタッフとの良好な人間関係を築くことができる。
②作業療法評価・アプローチを実践することができる。
③施設の管理・運営について考えることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	実習前オリエンテーション（学内）：実習の目的、手順、心得、マナー、感染予防、個人情報保護など確認、実習に必要な実技練習	①				
2～161	８週間（10月～12月の期間）の学外実習	②③			予定の確認・準備（30分）	記録・課題提出の準備、振り返り、課題と具体的解決策の立案（30分）
	臨床実習Ⅱを修得した学生が、身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害の分野から１学生１施設８週間の実習を行う。					
	具体的な内容として、１学生１～２名の症例を担当する。担当症例に関する情報収集、作業療法評価の実施、課題の抽出、実習指導者の指導を仰ぎながら作業療法治療計画の立案、実施を行う。臨床実習時間は、基本的には9：00～17：00であるが実習施設の就業時間に従う。					
	出席については、実習すべき全日数出席が原則で、何らかの事情で欠席を重ね、実習をすべき日数に満たない場合は評価不能とする。					
162～165	実習報告会：学生間の報告と意見交換を実施する。レジュメを作成し発表を行う。	③			実習報告会の準備／資料作成（30分）	得られた知見・情報の整理（30分）
	–					
	–					
	–					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	–					
	–					
	–					

評価基準・評価方法
臨床実習の評価表を用いる。担当実習指導者の判定結果を基に総合的に判定する。 評価表の項目として、社会的態度（20%）、作業療法評価の遂行度（80%）とする。

使用教科書
これまでに使用したすべてのテキスト 臨床実習要項

参考図書
適時必要に応じて資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	臨床実習前・中・後に個々の課題に応じて個別フィードバックを行う。
備考	臨床実習Ⅳ実施にあたり、事前オリエンテーションを行うので必ず出席すること。 社会（施設）での実習となる。身嗜み、言葉使い、規則などが学内とは異なるため、心がけること。実習では実習着（ケーシー服）を着用する。

授業科目名		担当教員	
臨床実習Ⅳ（総合後期）		加藤　清人・河村　章史・世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・浅野　莉沙・井上　忠俊・樅山　貴子　(代表教員　加藤　清人)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 後学期	8単位(360時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・世良龍哉（作業療法士）・永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・浅野莉沙（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）・樅山貴子（作業療法士）	

授 業 概 要

臨床実習Ⅳ（総合後期）の学習では、病院・施設においてゴール設定までの作業療法評価に加え、臨床実習指導者による指導のもと作業療法計画の作成とさまざまな医療現場の活動に参加する。また、これまでに学んだ臨床的な思考過程を更に発展させる。

学 修 の 到 達 目 標

①対象者ならびに施設スタッフとの良好な人間関係を築くことができる。
②作業療法評価・アプローチを実践することができる。
③施設の管理・運営について考えることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	実習前オリエンテーション（学内）：実習の目的、手順、心得、マナー、感染予防、個人情報保護などの確認、実習で必要な実技練習	①			過去の実習記録の確認（30分）	得られた課題の整理（30分）
2～16 1	８週間（10月～12月の期間）の学外実習	①②③			予定の確認・準備（30分）	記録・課題提出の準備、振り返り、課題と具体的解決策の立案（30分）
	臨床実習Ⅱを修得した学生が、身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害の分野から1学生1施設8週間の実習を行う。					
	具体的な内容として、１学生１～２名の症例を担当する。担当症例に関する情報収集、作業療法評価の実施、課題の抽出、実習指導者の指導を仰ぎながら作業療法治療計画の立案、実施を行う。					
	臨床実習時間は、基本的には9：00～17：00であるが実習施設の就業時間に従う。					
	出席については、実習すべき全日数出席が原則で、何らかの事情で欠席を重ね、実習をすべき日数に満たない場合は評価不能とする。					
	–					
	–					
	–					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	–					
	–					
	–					

評価基準・評価方法
臨床実習の評価表を用いる。担当実習指導者の判定結果を基に総合的に判定する。 評価表の項目として、社会的態度（20%）、作業療法評価の遂行度（80%）とする。

使用教科書
これまでに使用したすべてのテキスト 臨床実習要項

参考図書
適時必要に応じて資料を配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	臨床実習前・中・後に個々の課題に応じて個別フィードバックを行う。
備考	臨床実習Ⅳ実施にあたり、事前オリエンテーションを行うので必ず出席すること。 社会（施設）での実習となる。身嗜み、言葉使い、規則などが学内とは異なるため、心がけること。実習では実習着（ケーシー服）を着用する。

授業科目名		担当教員	
作業療法総合セミナーⅢ（評価と介入②）		加藤　清人・河村　章史・世良　龍哉・永井　貴士・竹中　孝博・浅野　莉沙・井上　忠俊　（代表教員　加藤　清人）	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 後学期	1単位(30時間)	演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 作業ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）・河村章史（作業療法士）・世良龍哉（作業療法士）・永井貴士（作業療法士）・竹中孝博（作業療法士）・浅野莉沙（作業療法士）・井上忠俊（作業療法士）	

授 業 概 要

「臨床実習Ⅲ」の体験から得た知識や技術を整理し、実習で担当した症例発表を行うなかで学生相互間による討議を重ねることで情報を共有すること、より質の高い介入ができるよう考えること、について学習を深めていく。他学生の情報は、自身が体験していない内容を補うことにも繋がり臨床領域の奥深さなどについても学習する。また、臨床で必要とされる専門分野に対する知識を深めていく。

学 修 の 到 達 目 標

①臨床の場で実施した作業療法プロセスを適切にまとめ報告・質疑に応えることができる。
②作業療法的見地をもって質問および説明をすることができる。
③臨床で必要とされた専門分野について整理し、理解を深めることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	８週間の作業療法プロセスをまとめたレポートよりセミナーでの検討資料を作成する。				検討資料作成（120分）	検討資料作成（120分）
2	セミナー発表と討論（１）	①②②			検討資料作成（120分）	自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）
3	セミナー発表と討論（２）	①②②			自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）	自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）
4	セミナー発表と討論（３）	①②②			自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）	自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）
5	セミナー発表と討論（４）	①②②			自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）	自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）
6	実習課題の抽出と対策（１）	①②②			自身の発表の振り返り及び他学生の発表内容の整理（60分）	抽出した課題の対策案の作成（60分）
7	実習課題の抽出と対策（２）	①②②			抽出した課題の対策案の作成（60分）	対策案の実施と見直し（60分）
8	実習課題の抽出と対策（３）	①②②			抽出した課題の対策案の作成（60分）	対策案の実施と見直し（60分）
9	臨床実習で必要とされた技術学習（１）	①②②			実習で必要であった技術の整理（60分）	遂行上課題があった技術の見直し（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	臨床実習で必要とされた技術学習（２）	① ②			遂行上課題があった技術の見直し（60分）	遂行上課題があった技術の見直し（60分）
11	専門基礎分野・専門分野における知識と技術の整理（１）	③			実習で得た知識・技術の整理（60分）	実習で得た知識・技術の整理（60分）
12	専門基礎分野・専門分野における知識と技術の整理（２）	③			実習で得た知識・技術の整理（60分）	実習で得た知識・技術の整理（60分）
13	専門基礎分野・専門分野における知識と技術の整理（３）	③			実習で得た知識・技術の整理（60分）	実習で得た知識・技術の整理（60分）
14	専門基礎分野・専門分野の統合学習（１）	③			実習症例の見直し（60分）	実習症例の見直し（60分）
15	専門基礎分野・専門分野の統合学習（２）	③			実習症例の見直し（60分）	フィードバックで得た課題の改善（60分）
	セミナー発表・レポート課題					

評価基準・評価方法
課題（90%）、受講態度（10%）を総合的に評価する。

使用教科書
「臨床実習要項」、実習で関連のあるテキスト。

参考図書
適時必要に応じて配布する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	個別の課題に対して個々にフィードバックを行う。
備考	学生間の活発な討議を期待する。質問は随時受け付ける。

リハビリテーション学科　授業担当者索引

・・・あ 行・・・

相羽　秀子　非常勤講師
浅野　莉沙　作業療法専攻助教
安藤　彰浩　非常勤講師
池谷　尚剛　非常勤講師
石田　裕保　理学療法専攻准教授
磯谷　尚輝　非常勤講師
井上　忠俊　作業療法専攻助教
伊原　亮司　非常勤講師
今村　光章　非常勤講師
岩瀬　桃子　看護学科教授講師
植木　努　理学療法専攻准教授
臼田　成之　看護学科助教
内田　英哉　非常勤講師
枝川　宏　非常勤講師
江村　正一　理学療法専攻特任教授
大井　修三　非常勤講師
大下　伸子　非常勤講師
大津　航　非常勤講師
大野　司能女　視機能療法専攻助手
大場　かおり　理学療法専攻准教授
大庭　紀雄　視機能療法専攻特任教授
大森　正英　非常勤講師
大藪　千穂　非常勤講師
小川　武則　非常勤講師

・・・か 行・・・

片桐　正博　非常勤講師
加藤　清人　作業療法専攻教授
亀山　咲子　理学療法専攻助教
河合　克尚　理学療法専攻教授
川島　卓　非常勤講師
皮野　さよみ　看護学科教授
川本　徹　非常勤講師
岸本　泰樹　非常勤講師
木村　暁夫　非常勤講師
久保　和弘　非常勤講師
熊田　ますみ　看護学科教授
神戸　博一　非常勤講師
河村　章史　作業療法専攻教授
古桧山　建吾　非常勤講師
小森　健司　非常勤講師
近藤　富雄　非常勤講師
近藤　直実　特任教授
近藤　ひろえ　非常勤講師

・・・さ 行・・・

坂田　崇好　非常勤講師
佐藤　篤史　非常勤講師
佐藤　奈美　非常勤講師
眞田　正世　非常勤講師
澤村　彰吾　理学療法専攻助教
塩崎　章嘉　非常勤講師
篠田　信之　非常勤講師
柴　貴志　非常勤講師
下畑　享良　非常勤講師
ｼﾞｬﾏﾘ･ﾏﾙｼﾞｬﾝ　非常勤講師
説田　雅典　非常勤講師
世良　龍哉　作業療法専攻教授
千田　隆夫　非常勤講師
曽田　直樹　理学療法専攻教授

・・・た 行・・・

高田　信幸　非常勤講師
高橋　晋也　非常勤講師
竹内　章郎　非常勤講師
竹腰　顕　非常勤講師
竹中　孝博　作業療法専攻准教授
田島　嘉人　理学療法専攻教授
建石　光貴　非常勤講師
田中　健司　視機能療法専攻講師
田中　裕士　非常勤講師
棚橋　公郎　非常勤講師
田辺　久美子　非常勤講師
谷口　泰弘　非常勤講師
丹沢　慶一　視機能療法専攻准教授
塚田　敬義　非常勤講師
辻　圭一　理学療法専攻教授
寺下　美智子　非常勤講師
寺本　佳津明　非常勤講師

・・・な 行・・・

永井　貴士　作業療法専攻准教授
長尾　裕子　非常勤講師
仲澤　和馬　非常勤講師
中嶋　淳士　非常勤講師
中村　恵一　非常勤講師
中村　信介　非常勤講師
中村　琢　非常勤講師
西本　裕　非常勤講師
野原　尚美　視機能療法専攻教授

・・・は 行・・・	
橋本　永貢子	非常勤講師
長谷部　武久	理学療法専攻教授
花井　弘和	非常勤講師
林　宗典	看護学科助教
林　祐一	非常勤講師
坂　義人	非常勤講師
平野　智久	非常勤講師
福岡　大輔	非常勤講師
藤橋　雄一郎	理学療法専攻准教授
武内　康雄	学長
船谷　俊彰	非常勤講師
舟橋　和宏	非常勤講師
古田　弥生	看護学科准教授
堀　信宏	理学療法専攻教授
堀田　亮	非常勤講師

・・・ま 行・・・	
益川　優子	非常勤講師
松井　永子	非常勤講師
松井　康樹	視機能療法専攻教授
松岡　敏男	非常勤講師
松田　育子	視機能療法専攻特任教授
松田　充弘	非常勤講師
三品　弘司	看護学科教授
宮地　幸雄	非常勤講師
宮本　安住己	非常勤講師
ﾐﾙﾎﾞﾄﾞ･ｾｲｴﾄﾞ･ﾓﾊﾏﾄﾞ	非常勤講師
武藤　吉徳	非常勤講師
望月　清文	非常勤講師
樅山　貴子	作業療法専攻助教
森岡　菜穂子	看護学科助教

・・・や 行・・・	
山田　宏尚	非常勤講師
山田　雅博	非常勤講師
山田　恵	非常勤講師
山本　眞由美	非常勤講師
山本　容正	非常勤講師
弓削　繁	非常勤講師
横井　達夫	非常勤講師
吉倉　延亮	非常勤講師
吉崎　純夫	看護学科講師

HCHS